



Cisco Unified Presence Server アドミニストレーション ガイド

Release 1.0(3)



このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) パブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いかねます。

CCSP, CCVP, the Cisco Square Bridge logo, Follow Me Browsing, and StackWise are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, and iQuick Study are service marks of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, the Networkers logo, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, Post-Routing, Pre-Routing, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company.(0601R)

Cisco Unified Presence Server アドミニストレーション ガイド
Copyright © 2006 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.



このマニュアルについて	xi
目的	xi
対象読者	xi
マニュアルの構成	xii
関連マニュアル	xii
表記法	xiii
技術情報の入手方法	xiv
Cisco.com	xiv
Product Documentation DVD (英語版)	xiv
マニュアルの発注方法 (英語版)	xv
シスコシステムズマニュアルセンター	xv
シスコ製品のセキュリティの概要	xvi
シスコ製品のセキュリティ問題の報告	xvi
Product Alerts および Field Notices	xvii
テクニカル サポート	xviii
Cisco Support Web サイト	xviii
Japan TAC Web サイト	xix
サービス リクエストの発行	xix
サービス リクエストのシビラティの定義	xix
その他の資料および情報の入手方法	xx

PART 1

Cisco Unified Presence Server

CHAPTER 1

はじめに	1-1
概要	1-1
製品の説明	1-2
機能および利点	1-3
標準ベースの SIP/SIMPLE ネットワーク インターフェイス	1-3
Cisco Unified Personal Communicator のネットワーク インターフェイス	1-3
IP Phone Messenger のネットワーク インターフェイス	1-3
サポートされている Cisco IP Phone	1-4

Cisco Unified Presence Server の管理ページの参照	1-5
Web ブラウザ	1-5
Cisco Unified Presence Server の管理ページへのログイン	1-5
Cisco Unified Presence Server の管理ページからのログオフ	1-6
Hypertext Transfer Protocol Over Secure Sockets Layer (HTTPS)	1-6
Cisco Unified Presence Server の管理ページにおける Internet Explorer および HTTPS の使用	1-7
Cisco Unified Presence Server の管理ページにおける Netscape および HTTPS の使用	1-8
Cisco Unified Presence Server の管理アプリケーションのナビゲート	1-10
アクセシビリティ	1-11
参考情報	1-11
関連項目	1-11

PART 2

システムの設定

CHAPTER 2

サーバの設定 2-1

サーバの検索	2-2
サーバの設定	2-4
サーバの削除	2-5
サーバの設定値	2-6
関連項目	2-6

CHAPTER 3

サービスパラメータの設定 3-1

サーバのサービスに対するサービスパラメータの設定	3-2
サービスパラメータの表示	3-4
関連項目	3-5

CHAPTER 4

ライセンスファイルのアップロード 4-1

ライセンスファイルの取得	4-2
ライセンスファイルの内容	4-3
ライセンスファイルのアップロード	4-5
関連項目	4-6

CHAPTER 5

ライセンスユニットレポート 5-1

ライセンスユニットレポートの生成	5-1
関連項目	5-1

CHAPTER 6

ステータス 6-1

システムステータスの表示	6-1
--------------	-----

	ライセンス済みユーザの検索	6-2
CHAPTER 7	設定トラブルシュータ	7-1
	設定トラブルシュータの使用	7-2
PART 3	Unified Presence Server の設定	
CHAPTER 8	プロキシ サーバの設定	8-1
	プロキシ サーバ設定値の設定	8-1
	プロキシ サーバの設定値	8-2
	プロキシ サービスの再起動	8-2
	関連項目	8-3
CHAPTER 9	スタティック ルート	9-1
	スタティック ルートの検索	9-2
	スタティック ルートの設定	9-3
	スタティック ルートの設定値	9-4
	スタティック ルートの削除	9-5
	関連項目	9-5
CHAPTER 10	メソッド/イベント ルーティング	10-1
	メソッド/イベント ルートの検索	10-2
	メソッド/イベント ベースのルートの設定	10-3
	メソッド/イベント ベースのルートの設定値	10-4
	メソッド/イベント ルートの削除	10-5
	関連項目	10-5
CHAPTER 11	着信 ACL	11-1
	着信 ACL エントリの検索	11-2
	着信 ACL の設定	11-3
	着信 ACL の設定値	11-3
	着信 ACL エントリの削除	11-4
	関連項目	11-4
CHAPTER 12	プライバシー ACL	12-1
	プライバシー ACL エントリの検索	12-2
	プライバシー ACL の設定	12-3
	プライバシー ACL の設定値	12-3
	プライバシー ACL エントリの削除	12-4
	関連項目	12-4

CHAPTER 13	CallManager プレゼンス ゲートウェイ	13-1
	プレゼンス ゲートウェイの検索	13-2
	プレゼンス ゲートウェイの設定	13-3
	プレゼンス ゲートウェイの設定値	13-3
	プレゼンス ゲートウェイの削除	13-4
	関連項目	13-4

CHAPTER 14	ユーザ エージェントの設定	14-1
	ユーザ エージェントの検索	14-2
	ユーザ エージェントの設定	14-3
	ユーザ エージェントの設定値	14-4
	ユーザ エージェントの削除	14-4
	ユーザ エージェントのコピー	14-5
	関連項目	14-5

CHAPTER 15	TLS コンテキストの設定	15-1
	TLS コンテキストの検索	15-2
	TLS コンテキストの設定	15-3
	TLS コンテキストの設定値	15-4
	TLS コンテキストの削除	15-5
	関連項目	15-5

CHAPTER 16	TLS ピア サブジェクト	16-1
	TLS ピア サブジェクトの検索	16-2
	TLS ピア サブジェクトの設定	16-3
	TLS ピア サブジェクトの設定値	16-3
	TLS ピア サブジェクトの削除	16-4
	関連項目	16-4

CHAPTER 17	AXL 設定	17-1
	AXL 設定値の設定	17-1

CHAPTER 18	トランスポート リスナー	18-1
	トランスポート リスナーの検索	18-2
	トランスポート リスナーの設定	18-3
	トランスポート リスナーの設定値	18-4
	トランスポート リスナーの削除	18-5
	関連項目	18-5

PART 4	アプリケーションの設定	
--------	--------------------	--

CHAPTER 19	プラグインの設定	19-1	
	プラグインのインストール	19-2	
	プラグインの URL の更新	19-4	
	プラグイン URL の更新の設定値	19-4	
CHAPTER 20	IP Phone Messenger のステータス	20-1	
	IP Phone Messenger のエンドユーザ ステータスの検索	20-2	
	IPPM エンドユーザのログアウト	20-3	
	ブロードキャストメッセージの送信	20-4	
	関連項目	20-4	
CHAPTER 21	IP Phone Messenger の設定	21-1	
	IPPM 設定値の設定	21-2	
CHAPTER 22	IP Phone 応答メッセージ	22-1	
	応答メッセージの検索	22-2	
	応答メッセージの設定	22-3	
	応答メッセージの削除	22-3	
	関連項目	22-4	
CHAPTER 23	Unified Personal Communicator の設定	23-1	
	Cisco Unified Personal Communicator 設定値の設定	23-1	
CHAPTER 24	ユーザ設定	24-1	
	ユーザの検索	24-2	
	ユーザの設定	24-3	
	ユーザの設定値	24-4	
	ユーザの削除	24-5	
	関連項目	24-5	
CHAPTER 25	Unity サーバ	25-1	
	Cisco Unity サーバの検索	25-2	
	Cisco Unity ホストの設定	25-3	
	Cisco Unity サーバの設定値	25-4	
	Cisco Unity サーバの削除	25-4	
	関連項目	25-5	
CHAPTER 26	Unity プロファイル	26-1	
	Cisco Unity プロファイルの検索	26-2	
	Cisco Unity プロファイルの設定	26-3	

Cisco Unity プロファイルの設定値	26-4
Cisco Unity プロファイルの削除	26-5
関連項目	26-5

CHAPTER 27

MeetingPlace サーバ 27-1

Cisco MeetingPlace サーバの検索	27-2
Cisco MeetingPlace サーバの設定	27-3
Cisco MeetingPlace サーバの設定値	27-4
Cisco MeetingPlace サーバの削除	27-4
関連項目	27-5

CHAPTER 28

MeetingPlace プロファイル 28-1

Cisco MeetingPlace プロファイルの検索	28-2
Cisco MeetingPlace プロファイルの設定	28-3
Cisco MeetingPlace プロファイルの設定値	28-4
Cisco MeetingPlace プロファイルの削除	28-5
関連項目	28-5

CHAPTER 29

CTI ゲートウェイ サーバ 29-1

CTI ゲートウェイ サーバの検索	29-2
CTI ゲートウェイ サーバの設定	29-3
CTI ゲートウェイ サーバの設定値	29-4
CTI ゲートウェイ サーバの削除	29-5
関連項目	29-5

CHAPTER 30

CTI ゲートウェイ プロファイル 30-1

CTI ゲートウェイ プロファイルの検索	30-2
CTI ゲートウェイ プロファイルの設定	30-3
CTI ゲートウェイ プロファイルの設定値	30-4
CTI ゲートウェイ プロファイルの削除	30-5
関連項目	30-5

CHAPTER 31

LDAP サーバ 31-1

LDAP サーバの検索	31-2
LDAP サーバの設定	31-3
LDAP サーバの設定値	31-4
LDAP サーバの削除	31-4
関連項目	31-5

CHAPTER 32	LDAP プロファイル	32-1
	LDAP プロファイルの検索	32-2
	LDAP プロファイルの設定	32-3
	LDAP プロファイルの設定値	32-5
	LDAP プロファイルの削除	32-6
	関連項目	32-6
CHAPTER 33	プロキシ プロファイル	33-1
	プロキシ プロファイルの検索	33-2
	プロキシ プロファイルの設定	33-3
	プロキシ プロファイルの設定値	33-4
	プロキシ プロファイルの削除	33-5
	関連項目	33-5
CHAPTER 34	CTI ゲートウェイの設定	34-1
	CTI ゲートウェイの設定値の設定	34-2
	関連項目	34-3
CHAPTER 35	MOC 割り当て	35-1
	MOC 割り当ての検索および設定	35-2
	一括割り当ての使用	35-3
	関連項目	35-4
PART 5	ユーザ管理	
CHAPTER 36	アプリケーション ユーザの設定	36-1
	アプリケーション ユーザの検索	36-2
	アプリケーション ユーザの追加	36-4
	アプリケーション ユーザの設定値	36-5
	アプリケーション ユーザ パスワードの変更	36-9
	アプリケーション ユーザのアプリケーション プロファイルの設定	36-9
	デバイスとアプリケーション ユーザの関連付け	36-10
	関連項目	36-11
CHAPTER 37	ロールの設定	37-1
	ロールの検索	37-2
	ロールの設定	37-4
	ロールの削除	37-5
	ロールの設定値	37-6
	関連項目	37-7

CHAPTER 38

ユーザグループの設定	38-1
ユーザグループの検索	38-2
ユーザグループの設定	38-4
ユーザグループの削除	38-5
ユーザグループへのユーザの追加	38-6
ユーザグループからのユーザの削除	38-8
ユーザグループへのロールの割り当て	38-9
ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示	38-11
関連項目	38-12

PART 6

Bulk Administration

CHAPTER 39

ファイルのアップロードとダウンロード	39-1
ファイルの検索	39-2
ファイルのダウンロード	39-4
ファイルのアップロード	39-5
ファイルの削除	39-6
関連項目	39-6

CHAPTER 40

ジョブのスケジューリング	40-1
Bulk Provisioning Service のアクティブ化	40-2
BPS の開始 / 停止 / 再起動	40-3
BPS の無効化	40-4
ジョブの検索	40-5
ジョブのスケジューリング	40-7
関連項目	40-8

CHAPTER 41

UPS ユーザの更新	41-1
Cisco Unified Presence Server のユーザの更新	41-2
関連項目	41-2

CHAPTER 42

UPS ユーザのエクスポート	42-1
ユーザレコードのエクスポート	42-2
関連項目	42-3

INDEX

索引



このマニュアルについて

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法、そして関連資料の入手方法について説明します。

次のトピックについて取り上げます。

- [目的 \(P.xi\)](#)
- [対象読者 \(P.xi\)](#)
- [マニュアルの構成 \(P.xii\)](#)
- [関連マニュアル \(P.xii\)](#)
- [表記法 \(P.xiii\)](#)
- [技術情報の入手方法 \(P.xiv\)](#)
- [Product Alerts および Field Notices \(P.xvii\)](#)
- [テクニカル サポート \(P.xviii\)](#)
- [その他の資料および情報の入手方法 \(P.xx\)](#)

目的

『Cisco Unified Presence Server アドミニストレーション ガイド』は、Cisco Unified Presence Server の管理について説明します。このマニュアルでは、Cisco Unified Presence Server の管理ページを使用して実行する操作の手順についても説明します。

対象読者

『Cisco Unified Presence Server アドミニストレーション ガイド』は、Cisco Unified Presence Server システムの管理を担当するネットワーク管理者を対象としています。テレフォニーおよび IP ネットワーキング テクノロジーに関する知識が必要です。

マニュアルの構成

次の表は、このマニュアルの構成を示しています。

パート	説明
Part 1	「Cisco Unified Presence Server」 Cisco Unified Presence Server の設定および運用に関連する一般的なトピックを取り上げます。
Part 2	「システムの設定」 [Cisco Unified Presence Server の管理] の [システム] メニューの各項目を設定する方法について説明します。
Part 3	「Cisco Unified Presence Server の設定」 Cisco Unified Presence Server のコールルーティング機能を設定する方法について説明します。
Part 4	「アプリケーションの設定」 プラグイン アプリケーションおよびアプリケーション インターフェイスを設定する方法について説明します。
Part 5	「ユーザ管理」 アプリケーション ユーザ、ロール、およびユーザグループを設定する方法について説明します。
Part 6	「Bulk Administration」 Cisco Unified Presence Server の Bulk Administration について説明します。

関連マニュアル

Cisco IP テレフォニー関連のアプリケーションおよび製品の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- *Cisco Unified Presence Server インストレーション ガイド*
- *Cisco Unified Presence Server 相互運用性ガイド*
- *Cisco Unified Presence Server 導入ガイド*
- *Release Notes for Cisco Unified Presence Server Release 1.0(3)*
- *Cisco IP Phone Messenger for Cisco Unified Presence Server ユーザ ガイド*
- *Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド*
- *Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco Unified Presence Server サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド*

Cisco Unified Personal Communicator に関連するマニュアルには、次のリンクからアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/tsd_products_support_series_home.html

表記法

このマニュアルは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは、太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
→	例の中で重要なテキストを強調しています。
^	^ 記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイント アドバイスは、次のように表しています。



ワンポイント・アドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

便利なヒントです。

注意は、次のように表しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



警告

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策をとるよう努めてください。

技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。ここでは、シスコが提供する製品マニュアルのリソースについて説明します。

Cisco.com

次の URL から、シスコ製品の最新資料を入手することができます。

<http://www.cisco.com/techsupport>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

また、シスコの Web サイトの各国語版には、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp>

Product Documentation DVD (英語版)

Product Documentation DVD は、技術情報を包含する製品マニュアルをポータブルなメディアに格納したライブラリです。この DVD を使用することにより、シスコ製の各ハードウェアやソフトウェアのインストール、コンフィギュレーション、およびコマンドに関するマニュアルにアクセスすることができます。また、この DVD を使用すると、次の URL のシスコの Web サイトに掲載されている HTML マニュアルおよび PDF ファイルにアクセスすることができます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

Product Documentation DVD は定期的に作成され、リリースされます。DVD は、1 回単位で入手することも、または定期購読することもできます。Cisco.com 登録ユーザの場合、Cisco Marketplace の Product Documentation Store から Product Documentation DVD (Product Number DOC-DOCDVD= または DOC-DOCDVD=SUB) を発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/docstore>

マニュアルの発注方法（英語版）

Cisco Marketplace にアクセスするには、Cisco.com の登録ユーザとなる必要があります。登録ユーザの場合、Product Documentation Store からシスコ製品の英文マニュアルを発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/docstore>

ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>

シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル (英文のみ) を無料で提供しています。URL は次のとおりです。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告、セキュリティ上の注意事項、およびセキュリティ対策の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

セキュリティ勧告、セキュリティ上の注意事項、およびセキュリティ対策がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、次の URL から Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS) フィードに登録してください。PSIRT RSS フィードへの登録方法については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html

シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合のみ: security-alert@cisco.com (英語のみ)
緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと思なされます。
- 緊急でない場合: psirt@cisco.com (英語のみ)

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302 (英語のみ)
- 1 408 525-6532 (英語のみ)

**ヒント**

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または GnuPG などの互換製品を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 9.x で暗号化された情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

PGP を使用していない場合は、機密情報を送信する前に PSIRT に問い合わせ、他のデータ暗号化方法を確認してください。

Product Alerts および Field Notices

シスコ製品に対する変更やアップデートは、Cisco Product Alerts および Cisco Field Notices で発表されます。Cisco.com のプロダクトアラートツールを使用すると、これらの通知を受け取ることができます。このツールを使用すれば、プロファイルを作成して、情報を受け取る製品を選択できます。

プロダクトアラートツールにアクセスするには、Cisco.com の登録ユーザとなる必要があります。登録ユーザは、次の URL でこのツールを使用できます。

<http://tools.cisco.com/Support/PAT/do/ViewMyProfiles.do?local=en>

Cisco.com にユーザ登録するには、次の URL にアクセスします。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>

テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Support Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

Cisco Support Web サイト

Cisco Support Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/en/US/support/index.html>

Cisco Support Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

オンラインまたは電話でサービス リクエストを発行する前に、**Cisco Product Identification Tool** を使用して製品のシリアル番号を確認してください。Cisco Support Web サイトでこのツールを使用するには、**Get Tools & Resources** リンクをクリックし、**All Tools (A-Z)** タブをクリックした後、アルファベット順のリストから **Cisco Product Identification Tool** を選択します。このツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、show コマンド出力のコピー アンド ペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。



ヒント

Cisco.com での表示および検索

ブラウザが Web ページをリフレッシュしていないと思われる場合は、Ctrl キーを押したまま F5 を押すことで強制的にブラウザに Web ページを更新させます。

技術情報を検索する場合は、Cisco.com の Web サイト全体ではなく、技術マニュアルに検索対象を絞り込みます。Cisco.com のホームページで Search ボックスを使用し、結果として表示されるページで Search ボックスの横にある **Advanced Search** リンクをクリックします。次に **Technical Support & Documentation** オプション ボタンをクリックしてください。

Cisco.com の Web サイトまたは特定の技術マニュアルに関するフィードバックを送るには、Cisco.com のすべての Web ページの下部にある **Contacts & Feedback** をクリックします。

Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3: ネットワークに軽微な障害が発生した、S4: 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1: ネットワークがダウンした、S2: ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): 既存のネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストレーション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- Cisco Online Subscription Center は、シスコの E メール ニュースレターなどに登録できる Web サイトです。プロフィールを作成して、受け取る情報を選択できます。Cisco Online Subscription Center へは、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/offer/subscribe>
- 『Cisco Product Quick Reference Guide』は手軽でコンパクトな参照ツールです。チャネルパートナー経由で販売される多くのシスコ製品に関する簡単な製品概要、主要な機能、サンプル部品番号、および簡単な技術仕様を記載しています。年 2 回の更新の際には、シスコ製品の最新情報が収録されます。『Cisco Product Quick Reference Guide』の注文方法および詳細については、次の URL にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/go/guide>
- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/go/marketplace/>
- Cisco Press では、ネットワーク全般、トレーニング、および認定資格に関する出版物を幅広く発行しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版情報などについては、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.ciscopress.com>
- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/ipj>
- シスコが提供するネットワーク製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。
<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>
- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーク製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーク担当者がシスコの専門家や他のネットワーク担当者と共に共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。
<http://www.cisco.com/discuss/networking>
- 「What's New in Cisco Documentation」は、シスコ製品の最新のマニュアル リリースに関する情報を提供するオンライン出版物です。このオンライン出版物は毎月更新され、製品カテゴリ別に編成されているため、製品のマニュアルを簡単に検索できます。次の URL で「What's New in Cisco Documentation」の最新リリースを見ることができます。
<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/abtnicd/136957.htm>
- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>



PART 1

Cisco Unified Presence Server





はじめに

この章では、Cisco Unified Presence Server システムの概要を説明し、Cisco Unified Presence Server がサポートする Cisco Unified IP Phone を一覧で示します。

概要

Cisco Unified Presence Server は、Cisco Unified Communication 環境の価値を最大限に引き出すために不可欠なコンポーネントです。特定の時間に電話機などの通信装置を使用しているかどうかなど、ユーザのアベイラビリティ ステータスに関する情報を収集します。また、Web コラボレーションやテレビ会議が有効かどうかなど、ユーザの通信機能に関する情報も収集します。Cisco Unified Presence Server によって収集されるユーザ情報を使用して、コラボレーション通信の最も効果的な方法を判断することにより、ユーザどうしの効率的な接続を支援するなど、Cisco Unified Personal Communicator や Cisco Unified CallManager などのアプリケーションによる生産性を向上させることができます。

音声通信や IP 通信の製品で構成される Cisco Unified Communication システムは、組織のビジネス プロセスの統合、適切なリソースへのすばやいアクセス、収益性の向上などを図り、組織のより効率的な通信を支援します。Cisco Unified Communication 製品は、Cisco Business Communication ソリューションを代表する重要なコンポーネントです。Cisco Business Communication ソリューションは、ネットワーク インフラストラクチャ、セキュリティ、ネットワーク管理製品、ワイヤレス通信、ライフ サイクル サービス アプローチなどを含む、あらゆる規模の組織に対応するソリューションで、柔軟な展開オプションや外注管理オプション、エンドユーザおよびパートナーの財務パッケージ、サードパーティ通信アプリケーションなども備えています。

製品の説明

Cisco Unified Presence Server は、新たな音声サービスを企業環境でサポートするための、Session Initiation Protocol (SIP) テクノロジーを展開するために役立ちます。SIP により、さまざまな機能やサービスに適用できる、セッションの確立および管理に関する一連の主要な動作を提供することで、音声ネットワークが強化されます。Cisco Unified Presence Server では、SIP コアをサポートするだけでなく、SIP for Instant Messaging and Presence Leveraging Extensions (SIMPLE) テクノロジーを採用することで、インスタントメッセージ (IM) とプレゼンスの両方をサポートします。

Cisco Unified Presence Server には、SIP プレゼンス エンジンと SIP プロキシ機能があります。プレゼンス エンジンでは、ユーザのプレゼンス情報 (話し中、アイドル、不在、または応対可能のステータス) だけでなく、ユーザの機能 (音声、画像、IM、Web コラボレーションなどのサポート機能) に関する情報を収集し、ユーザ単位でリポジトリにデータを蓄積します。ユーザが採用するアプリケーションや機能からリポジトリへ個別にアクセスできます。各ユーザが独自のユーザルールおよびプライバシーを適用することで、許可されたアプリケーションおよびユーザだけがプレゼンス情報へアクセスできるようになっています。SIP プロキシ機能により、プレゼンス情報と一般的な SIP メッセージの両方を、企業全体で効率的かつ正確にルーティングできます。

さまざまなデスクトップ クライアントやアプリケーションと強力に統合された Cisco Unified Presence Server を使用すると、Cisco のエンタープライズ デスクトップ クライアントである Cisco Unified Personal Communicator で、クリック ツー ダイアルや電話機制御、音声、ビデオ、Web コラボレーションなど、さまざまな機能を実行できます。さらに、Cisco Unified Presence Server では、Cisco Unified CallManager に接続される Cisco Unified IP Phone のコアとなる IM サービスを提供します。また、Cisco Unified Presence Server では、IBM Sametime や Microsoft Office Communicator など、エンタープライズ デスクトップ アプリケーションとの相互運用性もサポートしています。この相互運用性により、Cisco Unified CallManager でサポートされる Cisco Unified IP Phone とともに、これらのデスクトップ アプリケーションを運用できます。

機能および利点

この項では、Cisco Unified Presence Server の主な機能と利点について説明します。

標準ベースの SIP/SIMPLE ネットワーク インターフェイス

Cisco Unified Presence Server は、SIP または SIMPLE に対応するアプリケーションおよびネットワークに標準ベースのピアリング環境を提供します。ステータスおよびプレゼンスの共有に IETF 標準を採用することで、事実上、ユーザは Cisco Unified Presence Server に保存されている任意のユーザステータスを要求できます。これらの SIP および SIMPLE 標準では、受信したメッセージを定義することで、ステータスの要求を開始および維持し、適切な応答を提供します。Cisco Unified Presence Server は、展開したサービスのニーズに応じて、ステータス情報を収集および配布できます。

このようなインターフェイスを実装することにより、さまざまな シスコ パートナーとの相互運用の方法を標準化し、Cisco Unified Communication 顧客向けの付加価値サービスを構築できます。

Cisco Unified Personal Communicator のネットワーク インターフェイス

Cisco Unified Presence Server では、Cisco Unified Personal Communicator のコアとなる、ユーザのステータス、機能、個人のルールや設定などを含む、個人データの保存機能をサポートする必要があります。また、Cisco Unified Presence Server では、Cisco Unified Personal Communicator の電話機制御やクリック ツー ダイヤル サービスの監視を有効にすることもできます。高度なセキュア環境により、ユーザのパスワードからネットワーク接続情報や個人の連絡先リストまで、さまざまな個人情報の完全性を保証できます。

IP Phone Messenger のネットワーク インターフェイス

Cisco Unified Presence Server に含まれる Cisco IP Phone Messenger サービスは、プレゼンス対応の連絡先リストを完備した IM クライアントを Cisco Unified IP Phone に提供します。また、このサービスのリアルタイム コラボレーション機能により、電話機ユーザが PC から離れていても、他のユーザのプレゼンス ステータスを瞬時にチェックできます。また、簡単なテキスト メッセージを送信することも可能です。これらのメッセージの多くは、フレーズや完全文のリストから使用できるため、電話機のキーを押して入力する必要がありません。メッセージの受信者は、そのメッセージに直接応答するか、または [ダイヤル] ソフトキーを押してコールバックできるため、電話番号を検索したりダイヤルしたりする必要がありません。

サポートされている Cisco IP Phone

表 1-1 に、SIP/SCCP プロトコル対応の Cisco Unified Presence Server でサポートされる Cisco IP Phone を示します。

表 1-1 サポートされている Cisco IP Phone

電話機の種類 / モデム	SIP	SCCP
12 SP	NA	No
30 VIP	NA	No
7902	NA	Yes
7910	NA	Yes
7905	No	Yes
7912	No	Yes
7940	No	Yes
7960	No	Yes
7935	NA	Yes
7936	NA	Yes
7920	NA	Yes
7911	Yes	Yes
7941	Yes	Yes
7961	Yes	Yes
7970	Yes	Yes
7971	Yes	Yes
7985 (Ocius)	NA	Yes
Cisco Unified Video Advantage	Yes	Yes
	 (注) CTI ゲートウェイで SIP を使用できる場合に限り「Yes」となります。	
IP Communicator	NA	Yes
Cisco Unified Personal Communicator	No	NA

Cisco Unified Presence Server の管理ページの参照

Cisco Unified Presence Server の管理プログラムには、Web サーバでない PC および Cisco Unified Presence Server がインストールされていない PC からアクセスします。サーバにブラウザソフトウェアはありません。サーバの参照に関する詳細は、P.1-5 の「Web ブラウザ」を参照してください。

追加情報

P.1-11 の「関連項目」を参照してください。

Web ブラウザ

Cisco Unified Presence Server の管理ページでは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムのブラウザをサポートしています。

- Microsoft Internet Explorer (IE) 6.0 以降
- Netscape 7.2 以降

ネットワーク内のユーザの PC から、Cisco Unified Presence Server の管理ページを実行しているサーバを参照し、管理者権限でログインします。



(注)

多数のユーザが Cisco Unified Presence Server の管理ページへ同時にログインすると、パフォーマンスが低下する場合があります。同時にログインするユーザおよび管理者の数を制限してください。

Cisco Unified Presence Server の管理ページへのログイン

次の手順で Cisco Unified Presence Server の管理ページへログインします。

手順

次の手順でサーバを参照し、Cisco Unified Presence Server の管理ページへログインします。

-
- ステップ 1** 任意のブラウザを起動します。
 - ステップ 2** ブラウザのアドレスバーに次の URL を入力します (大文字と小文字は区別されます)。
`https://<サーバ名>`
<サーバ名> は、サーバの名前または IP アドレスです。
 - ステップ 3** Cisco Unified Presence Server の管理ページへログインするには、**Cisco Unified Presence Server Administration** リンクをクリックします。
 - ステップ 4** [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。適切なボタンをクリックします。
 - ステップ 5** [ログイン] ウィンドウで、Cisco Unified Presence Server のインストール時に指定したアプリケーション ユーザのパスワードを入力して [送信] をクリックします。

[Cisco Unified Presence Server の管理] ウィンドウが表示されます。
-



(注) セキュリティ上の目的で、30 分後に Cisco Unified Presence Server の管理ページから自動的にログアウトするため、引き続き使用する場合は再度ログインする必要があります。

追加情報

P.1-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified Presence Server の管理ページからのログオフ

手順

次の手順で Cisco Unified Presence Server の管理ページからログオフします。

ステップ 1 [Cisco Unified Presence Server の管理] のメインウィンドウで、右上にある [ログオフ] ボタンをクリックします ([図 1-1](#) を参照してください)。

ステップ 2 [ログイン] ウィンドウが表示されます。

追加情報

P.1-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Hypertext Transfer Protocol Over Secure Sockets Layer (HTTPS)

ブラウザクライアントと Web ブラウザ (Microsoft Windows ユーザの場合) の通信をセキュリティで保護する HTTP over Secure Sockets Layer (SSL) では、証明書と公開鍵を使用して、インターネット上を流れるデータを暗号化します。また、HTTPS では、Web 上でユーザのログイン パスワードがセキュリティで保護された状態で送信されます。一部の Cisco Unified CallManager アプリケーションでは HTTPS がサポートされているため、サーバの識別が保証されます。これらのアプリケーションには、Cisco Unified CallManager の管理ページ、Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ、Cisco Unified CallManager ユーザ オプション、トレース収集ツール、Real-Time Monitoring Tool (RTMT)、XML (AXL) アプリケーション プログラミング インターフェイスがあります。

自己署名証明書は、インストール時に Web サーバ上で生成されます (アップグレード時にはこの証明書が移行されます)。



(注) ホスト名を使って Web アプリケーションにアクセスし、信頼できるフォルダに証明書をインストールした後、ローカルホストまたは IP アドレスを使ってそのアプリケーションにアクセスしようとすると、セキュリティ証明書の名前とサイトの名前が一致しないことを示す [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。

ローカルホスト、IP アドレス、またはホスト名を URL を使って HTTPS 対応アプリケーションにアクセスする場合、URL の種類 (ローカルホスト、IP アドレスなど) ごとに信頼できるフォルダに証明書を保存する必要があります。このようにしないと、それぞれの種類で [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。

Cisco Unified Presence Server の管理ページにおける Internet Explorer および HTTPS の使用

ここでは、信頼できるフォルダに CA のルート証明書を保存する方法について説明します。この操作により、Web アプリケーションへアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されなくなります。ブラウザクライアントから、Cisco Unified Presence Server の管理ページへ初めてアクセスする、または Cisco Unified CallManager 5.0 のインストール/アップグレード後初めてその他の Cisco Unified CallManager の SSL 対応仮想ディレクトリへアクセスする場合、サーバを信頼するかどうかを確認するために、[セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスが表示された場合、次のいずれかのタスクを実行する必要があります。

- [はい] をクリックすると、現在の Web セッションの間に限り証明書を信頼することになります。現在のセッションに限り証明書を信頼する場合、アプリケーションにアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。つまり、信頼できるフォルダに証明書をインストールするまでこのダイアログボックスが表示されるということです。
- [証明書の表示]、[証明書のインストール] をクリックして、証明書のインストールのタスクを実行し、証明書を常に信頼することを示します。証明書を信頼できるフォルダにインストールすると、Web アプリケーションへアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されることがなくなります。
- [いいえ] をクリックすると、作業がキャンセルされます。認証が行われないため、Web アプリケーションにアクセスできません。Web アプリケーションにアクセスするには、[はい] をクリックするか、または [証明書の表示] [証明書のインストール] をクリックして証明書をインストールする必要があります。

[セキュリティの警告] ダイアログボックスで実行できるその他の作業については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。

手順

ステップ 1 Web サーバのアプリケーションを参照します。

ステップ 2 [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されたら、[証明書の表示] をクリックします。

ステップ 3 [証明書] ペインで [証明書のインストール] をクリックします。

ステップ 4 [次へ] をクリックします。

ステップ 5 [証明書をすべて次のストアに配置する] オプション ボタンをクリックし、[参照] をクリックします。

ステップ 6 [信頼されたルート証明機関] を参照します。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 [完了] をクリックします。

ステップ 9 証明書をインストールするには、[はい] をクリックします。

インポートの完了を示すメッセージが表示されます。OK をクリックします。

ステップ 10 ダイアログボックスの右下にある OK をクリックします。

ステップ 11 証明書を信頼し、再度ダイアログボックスを表示させないようにするには、[はい] をクリックします。



(注) ローカルホスト、IP アドレス、またはホスト名を URL で使って HTTPS 対応アプリケーションにアクセスする場合、URL の種類（ローカルホスト、IP アドレスなど）ごとに信頼できるフォルダに証明書を保存する必要があります。このようにしないと、それぞれの種類で [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。

追加情報

P.1-11 の「関連項目」を参照してください。

Cisco Unified Presence Server の管理ページにおける Netscape および HTTPS の使用

Netscape で HTTPS を使用する場合、証明書の資格情報を表示する、証明書を 1 回のセッションに限り信頼する、有効期間中証明書を信頼する、証明書を信頼しないなどの選択が可能です。



ヒント

単独セッションに限り証明書を信頼する場合、HTTPS 対応アプリケーションにアクセスするたびに、次の手順を繰り返す必要があります。証明書を信頼しない場合、アプリケーションにアクセスできません。

証明書を信頼できるフォルダへ保存するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Presence Server の管理ページなど、アプリケーションを Netscape を使って参照します。

認証局のダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。

- この証明書をこのセッションのために一時的に受け入れる
- この証明書を受け入れない / この Web サイトに接続しない
- この証明書を永続的に受け入れる



(注) 証明書を受け入れないオプションを選択した場合、アプリケーションが表示されません。



(注) 証明書の資格情報を表示してから続行する場合、[証明書を調査] をクリックします。資格情報を確認し、[閉じる] をクリックします。

ステップ 3 OK をクリックします。

[セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 OK をクリックします。

追加情報

P.1-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified Presence Server の管理アプリケーションのナビゲート

ログイン後、[Cisco Unified Presence Server の管理] のメインウィンドウが表示されます。このウィンドウの右上隅に、[ナビゲーション] というドロップダウン リストが表示されます (図 1-1 を参照してください)。ドロップダウン リスト ボックスにあるアプリケーションへアクセスするには、目的のプログラムを選択して [移動] をクリックします。ドロップダウン リスト ボックスの選択肢には、次の Cisco Unified Presence Server アプリケーションが含まれています。

- Cisco Unified Presence Server の管理 : Cisco Unified Presence Server へアクセスすると、デフォルトが表示されます。Cisco Unified Presence Server の管理ページを使用して、システムのパラメータ、アプリケーションなどを設定します。
- Cisco Unified Presence Server のサービスアビリティ : トレース ファイルおよびアラームの設定やサービスの有効化 / 無効化などに使用する Cisco Unified Presence Server Serviceability メインウィンドウに移動します。
- 障害復旧システム : Cisco 障害復旧システムへ移動します。このプログラムは、データのフルバックアップおよび復元機能を、Cisco Unified Presence Server クラスタ内のすべてのサーバに提供します。
- Cisco Unified OS の管理 : [ログイン] ウィンドウへ移動します。このアプリケーションを使用して、Cisco Unified Presence Server プラットフォームを設定し、管理できます。

図 1-1 Cisco Unified Presence Server の管理ページのナビゲーション



これらのアプリケーションは、追加のセキュリティで保護されているため、これらのプログラムへアクセスするには、ユーザ ID とパスワードを入力する必要があります。

追加情報

P.1-11 の「関連項目」を参照してください。

アクセシビリティ

Cisco Unified Presence Server の管理ページおよび Cisco Unified Presence Server ユーザ オプション ページでは、ユーザがマウスを使わずにウィンドウでボタンにアクセスできる機能が提供されています。ウィンドウの任意の場所から次の手順を実行できるため、ユーザはさまざまなフィールドでのスクロールやタブなどの操作が不要になります。

ウィンドウ内でのアイコンへのアクセス

Cisco Unified Presence Server および Cisco PCA のウィンドウの多くでは、保存するディスクのアイコンや追加を示すプラス (+) 記号のアイコンなどが上部に表示されています。これらのアイコンへアクセスするには、次の手順を実行します。

1. **Alt** キー、**1** キー、**Tab** キーの順に押します。カーソルにより一番左側のアイコンが強調表示されます。次のアイコンへ移動するには、再度 **Tab** キーを押します。
2. **Enter** キーを押します。アイコンの機能 (追加など) が実行されます。

ウィンドウ内でのボタンへのアクセス

Cisco Unified Presence Server および Cisco PCA のウィンドウの多くでは、[保存] ボタンや [追加] ボタンなどが下部に表示されています。これらのボタンへアクセスするには、次の手順を実行します。

1. **Alt** キー、**2** キー、**Tab** キーの順に押します。カーソルにより一番左側のボタンが強調表示されます。次のボタンへ移動するには、再度 **Tab** キーを押します。
2. **Enter** キーを押します。ボタンの機能 (保存など) が実行されます。

参考情報

- *Cisco Unified CallManager システム ガイド*
- *Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco CDR Analysis and Reporting Administration Guide*
- *Cisco IP テレフォニー ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン ガイド*
- *Cisco Unified Presence Server インストレーション ガイド Release 5.0(1)*
- *Cisco Unified CallManager セキュリティガイド 5.0*
- *Cisco IP Telephony Platform Administration Guide*
- *Cisco IP Telephony Disaster Recovery System Administration Guide*

関連項目

- [Cisco Unified Presence Server の管理ページの参照 \(P.1-5\)](#)
- [Cisco Unified Presence Server の管理ページにおける Internet Explorer および HTTPS の使用 \(P.1-7\)](#)
- [Hypertext Transfer Protocol Over Secure Sockets Layer \(HTTPS\) \(P.1-6\)](#)
- [Cisco Unified Presence Server の管理アプリケーションのナビゲート \(P.1-10\)](#)
- [アクセシビリティ \(P.1-11\)](#)
- [参考情報 \(P.1-11\)](#)



PART 2

システムの設定





サーバの設定

サーバの設定のウィンドウを使用して、Cisco Unified Presence Server がインストールされているサーバのアドレスを指定します。ネットワークでドメイン ネーム システム (DNS) サービスを使用している場合、サーバのホスト名を指定できます。ネットワークで DNS サービスを使用していない場合、サーバのインターネット プロトコル (IP) アドレスを指定する必要があります。



(注) 適切な Cisco Unified Presence Server 名とアドレス情報を使用して Cisco Unified Presence Server を設定するには、これらの情報で DNS サーバを更新する必要があります。

Cisco Unified Presence Server データベースでサーバのアドレスを追加、更新、または削除する方法については、[P.2-6 の「関連項目」](#)を参照してください。



(注) Cisco Unified Presence Server を新規にインストールする場合、[Cisco Unified Presence Server の管理] の [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウでセカンダリ サーバ (ノード) を定義してから、そのサーバに Cisco Unified Presence Server ソフトウェアをインストールする必要があります。後続のノードを定義するには、後述の [P.2-4 の「ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。」](#) で説明するとおり、[新規追加] をクリックしてサーバを設定します。セカンダリサーバを追加後、Cisco Unified Presence Server ソフトウェアをそのサーバにインストールできます。

サーバの検索

ネットワークにサーバが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定のサーバを検索することができます。特定のサーバを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [システム]>[サーバ]の順に選択します。

[サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用してサーバを検索します。

ステップ 2 [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- ホスト名 /IP アドレス
- 説明

[サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索]をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのサーバを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたサーバのリストが次の基準で表示されます。

- ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)
- 説明 (Description)

また、[サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウでは、ページ単位で表示するアイテム数を指定できます。



(注) 対象のサーバの隣にあるチェックボックスをオンにしてから [選択項目の削除] をクリックすると、複数のサーバを [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウから削除できます。一致するレコードのタイトルバーのチェックボックスをオンしてから [選択項目の削除] をクリックすると、すべてのサーバを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するサーバ名をクリックします。

選択したサーバがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.2-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

サーバの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、サーバのアドレスを追加または更新する方法について説明します。

開始する前に

サーバを追加する場合、次のガイドラインを適用します。

- [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウで各サーバが2度以上追加されていないことを確認します。ホスト名を使用してサーバを追加し、その後 IP アドレスを使用して同じサーバを追加すると、Cisco Unified Presence Server のアップグレード後に Cisco Unified Presence Server でそのサーバのコンポーネントのバージョンを正確に把握できない場合があります。同じサーバに対して、Cisco Unified Presence Server の管理ページに2つのエントリがある場合、アップグレード前にどちらかのエントリを削除する必要があります (P.2-5 の「サーバの削除」を参照してください)。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- サーバを追加するには、[システム]>[サーバ]の順に選択し、[新規追加]をクリックします。
- サーバを更新するには、P.2-2 の「サーバの検索」の手順に従ってサーバを検索します。

[サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 2-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 データを保存してサーバをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。



警告

サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco Unified Presence Server のプロキシ サーバを再起動する必要があります。再起動の間は、Cisco Enterprise SIP Proxy サービスにより既存のトランザクションが停止されるため、新たな要求を受け付けることができなくなります。

ステップ 4 [Cisco Unified Presence Server] > [プロキシサーバ] > [設定] の順にクリックします。

[プロキシの構成設定 (Proxy Configuration Settings)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [すべてのプロキシサービスのリスタート] をクリックします。

ステップ 6 確認のウィンドウが表示されたら、OK をクリックしてプロキシ サービスを再起動します。

追加情報

P.2-6 の「関連項目」を参照してください。

サーバの削除

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースからサーバを削除する方法について説明します。

開始する前に

システムで依存関係レコードの機能が有効でない場合、[依存関係レコード要約]ウィンドウにメッセージが表示されます。このメッセージには、依存関係レコードを有効にするのに必要な操作と、依存関係レコードの機能に伴う CPU 消費量の増大に関する情報が表示されます。

手順

-
- ステップ 1** P.2-2 の「[サーバの検索](#)」の手順に従いサーバを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するサーバを選択します。
 - ステップ 3** サーバを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [[選択項目の削除](#)] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [[選択項目の削除](#)] ボタンをクリックします)。



警告

サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco Unified Presence Server のプロキシ サーバを再起動する必要があります。再起動の間は、Cisco Enterprise SIP Proxy サービスにより既存のトランザクションが停止されるため、新たな要求を受け付けることができなくなります。

- ステップ 4** [Cisco Unified Presence Server] > [[プロキシサーバ](#)] > [[設定](#)] の順にクリックします。
[[プロキシの構成設定 \(Proxy Configuration Settings\)](#)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [[すべてのプロキシサービスのリスタート](#)] をクリックします。
- ステップ 6** 確認のウィンドウが表示されたら、OK をクリックしてプロキシ サービスを再起動します。

追加情報

P.2-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

サーバの設定値

表 2-1 で、サーバの設定値について説明します。関連する手順については、P.2-6 の「関連項目」を参照してください。

表 2-1 サーバの設定値

[サーバ情報 (Server Information)] のフィールド	説明
ホスト名 /IP アドレス	<p>ネットワークで DNS サービスを使用している場合、Cisco Unified Presence Server サーバのホスト名を入力できます。それ以外の場合、サーバの完全な IP アドレスを入力する必要があります。</p> <p> (注) ここで入力情報を使用するには、適切な Cisco Unified Presence Server 名とアドレス情報を使って DNS サーバを更新する必要があります。</p>
MAC アドレス (MAC Address)	<p>このオプションのエントリには、Cisco Unified Presence Server サーバのネットワーク インターフェイス カード (NIC) のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。この MAC アドレスにより、NIC の固定ハードウェア アドレスが決まります。</p> <p> ヒント サーバを定期的にネットワーク上の別の場所へ移動する予定がある場合、ネットワーク上の他のサービスが常にそのサーバを識別できるように、MAC アドレスを入力する必要があります。サーバを移動する計画がない場合は、MAC アドレスを入力する必要はありません。</p>
説明	このオプションのエントリには、サーバの説明を入力します。

関連項目

- [サーバの検索 \(P.2-2\)](#)
- [サーバの設定 \(P.2-4\)](#)
- [サーバの削除 \(P.2-5\)](#)
- [サーバの設定値 \(P.2-6\)](#)



サービスパラメータの設定

Cisco Unified Presence Server のサービスパラメータを使用すると、選択したサーバでさまざまなサービスを設定できます。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで疑問符 (?) ボタンをクリックすると、パラメータのリストと説明を表示できます。特定のパラメータをクリックすると、そのパラメータを含むリストが先頭に表示されます。

Cisco Unified Presence Server Serviceability を使用してサービスを無効にすると、Cisco Unified Presence Server で更新後のサービスパラメータ値が維持されます。サービスを再開すると、Cisco Unified Presence Server によりサービスパラメータが変更後の値に設定されます。

開始する前に

手順を進める前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- サーバが設定されている。詳細については、[P.2-1 の「サーバの設定」](#)を参照してください。
- サーバでサービスが使用可能である。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウに、使用可能なサービス (アクティブおよび非アクティブ) がすべて表示されます。



注意

サービスパラメータの一部を変更すると、システム障害を引き起こす場合があります。変更しようとしている機能を完全に理解している場合、または Cisco Technical Assistance Center (TAC) から変更の指定があった場合を除き、サービスパラメータを変更しないことをお勧めします。

サービスパラメータを設定または表示するには、次のトピックを参照してください。

- [サーバのサービスに対するサービスパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [サービスパラメータの表示 \(P.3-4\)](#)

サーバのサービスに対するサービスパラメータの設定

特定のサーバのサービスに対するサービスパラメータを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 [システム]>[サービスパラメータ]の順にクリックします。

ステップ2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスからサーバを選択します。

ステップ3 [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、更新するパラメータを含むサービスを選択します。



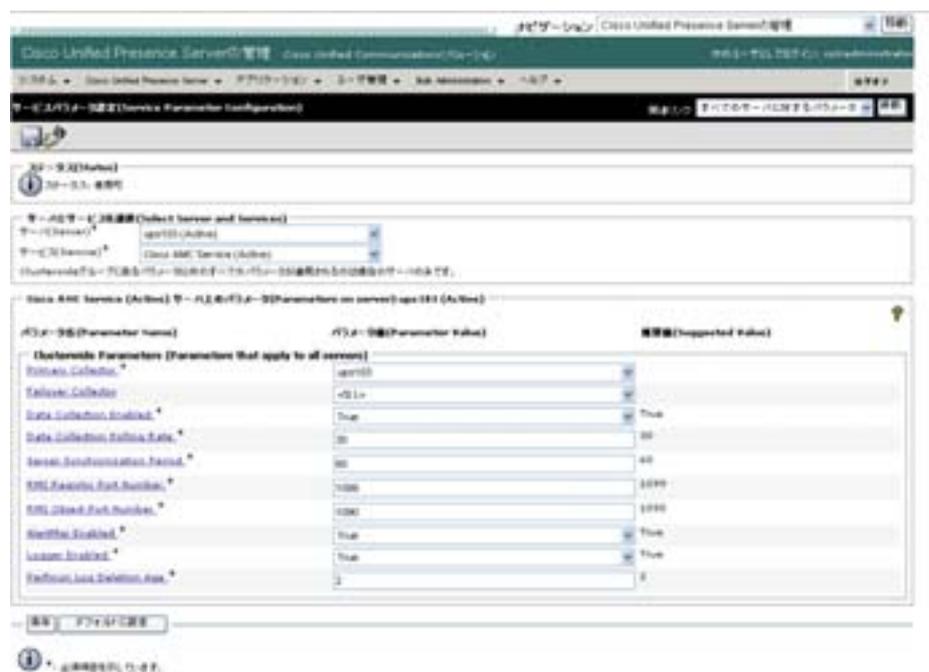
(注) [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウには、サービス (アクティブおよび非アクティブ) がすべて表示されます。

[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ4 適切なパラメータ値を更新します。このサービスのインスタンスのサービスパラメータをすべてデフォルトの値に設定するには、[デフォルトに設定] ボタンをクリックします。

パラメータのリストと説明を表示するには、疑問符のボタンをクリックします (図 3-1 を参照)。特定のパラメータを持つリストを上部に表示するには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウでそのパラメータをクリックします。

図 3-1 [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウ





(注) 一部のサービスには、ほとんど変更されることのないサービスパラメータが含まれています。Cisco Unified Presence Server の管理ページでは、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウにアクセスしても、これらのパラメータが自動的に表示されません。すべてのパラメータを表示するには、[詳細設定] をクリックします。すべてのパラメータが表示されてから [簡易設定] をクリックすると、基本パラメータを再表示できます。[詳細設定] ボタンが無効な場合、デフォルトでそのサービスのパラメータがすべて表示されます。

ステップ5 [保存] をクリックします。

ウィンドウが更新され、ユーザが行った変更により、Cisco Unified Presence Server でサービスパラメータが更新されます。

追加情報

P.3-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

サービスパラメータの表示

クラスタ内のすべてのサーバで特定のサービスに属するサービスパラメータをすべて比較することが必要な場合があります。また、非同期のパラメータ（サーバ間で値が異なるサービスパラメータ）または提示された値から変更されているパラメータだけを表示することが必要な場合もあります。

クラスタ内のすべてのサーバで、特定のサービスに対するサービスパラメータを表示するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [システム] > [サービスパラメータ] の順にクリックします。

ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスからサーバを選択します。

ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、クラスタ内のすべてのサーバでサービスパラメータを表示するサービスを選択します。



(注) [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウに、サービス（アクティブおよび非アクティブ）がすべて表示されます。

ステップ 4 [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されたら、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスの [すべてのサーバに対するパラメータ] を選択して、[移動] をクリックします。

[すべてのサーバに対するパラメータ] ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、リストにすべてのパラメータがアルファベット順に表示されます。各パラメータで、推奨される値がパラメータ名の隣に表示されます。各パラメータ名の下に、そのパラメータを含むサーバのリストが表示されます。各サーバ名の隣に、このサーバのパラメータの現在値が表示されます。

所定のパラメータで、サーバ名または現在のパラメータ値をクリックし、対応するサービスパラメータのウィンドウへリンクし、値を変更します。[前へ] および [次へ] をクリックすると、[すべてのサーバに対するパラメータ] ウィンドウ間を移動できます。

ステップ 5 非同期のサービスパラメータを表示する必要がある場合、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスの [すべてのサーバに対する同期外れパラメータ] を選択してから [移動] をクリックします。

[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ] ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、サーバによって異なる値を持つサービスパラメータがアルファベット順で表示されます。各パラメータで、推奨される値がパラメータ名の隣に表示されます。各パラメータ名の下に、そのパラメータを含むサーバのリストが表示されます。各サーバ名の隣に、このサーバのパラメータの現在値が表示されます。

所定のパラメータで、サーバ名または現在のパラメータ値をクリックし、対応するサービスパラメータのウィンドウへリンクし、値を変更します。[前へ] および [次へ] をクリックすると、[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ] ウィンドウ間を移動できます。

ステップ 6 提示された値から変更されているサービスパラメータを表示する必要がある場合、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスの [すべてのサーバに対する変更済パラメータ] を選択してから [移動] をクリックします。

[すべてのサーバに対する変更済パラメータ] ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、提示された値と異なる値を持つサービスパラメータがアルファベット順で表示されます。各パラメータで、推奨される値がパラメータ名の隣に表示されます。各パラメータ名の下に、提示された値と異なる値を持つサーバのリストが表示されます。各サーバ名の隣に、このサーバのパラメータの現在値が表示されます。

所定のパラメータで、サーバ名または現在のパラメータ値をクリックし、対応するサービスパラメータのウィンドウへリンクし、値を変更します。[前へ] および [次へ] をクリックすると、[すべてのサーバに対する変更済パラメータ] ウィンドウ間を移動できます。

追加情報

[P.3-5 の「関連項目」](#) を参照してください。

関連項目

- [サービスパラメータの表示 \(P.3-4\)](#)
- [サーバのサービスに対するサービスパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)



ライセンス ファイルのアップロード

ライセンス ファイルには、Cisco Unified Presence Server アプリケーションのライセンスを有効にするために必要な情報が含まれています。この章では、次のトピックについて説明します。

- [ライセンス ファイルの取得 \(P.4-2\)](#)
- [ライセンス ファイルの内容 \(P.4-3\)](#)
- [ライセンス ファイルのアップロード \(P.4-5\)](#)
- [関連項目 \(P.4-6\)](#)



(注)

このウィンドウを使用して Cisco Presence Engine と SIP プロキシ サーバのライセンスをアップロードします。また、[Cisco Unified CallManager の管理] ウィンドウを使用して、適切なエンドユーザライセンスもアップロードする必要があります。詳細については、『*Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

ライセンス ファイルの取得

Cisco Unified Presence Server の新規インストール用のライセンス ファイルを取得するには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1** シスコ デバイスの注文時に、シスコから Product Authorization Key (PAK) が供給されます。
- ステップ 2** CCO で提供される License Registration Web ツールを使用して、Cisco Unified Presence Server で受け取った PAK を登録します。
- ステップ 3** ライセンスを要求する Cisco Unified Presence Server の MAC アドレスと、有効な電子メール アドレスを入力する必要があります。ライセンスが必要なノードおよび電話機の台数も入力する必要があります。
- ステップ 4** CCO により、ライセンスを要求したユニット数に応じたライセンス ファイルが生成されます。このライセンス ファイルが、[ステップ 3](#) で入力した電子メール アドレスを使用して送信されます。
- ステップ 5** [ステップ 3](#) で入力した MAC アドレスと一致するサーバへライセンス ファイルをアップロードする必要があります。[P.4-5 の「ライセンス ファイルのアップロード」](#)を参照してください。以降このサーバはライセンス マネージャの役割を果たします。
-



(注) 電話機を新しく購入した場合のライセンスの更新については、CCO で提供される License Registration Web ツールへ移動し、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 5](#) の手順に従います。



(注) ライセンス ファイルは、ライセンス ファイルで指定されたバージョンが、クラスタ内で実行されている Cisco Unified Presence Server のバージョン以上である場合に限り、データベースへアップロードされます。バージョンチェックに失敗した場合はアラームが生成されます。正しいバージョンのライセンス ファイルを新たに取得する必要があります。システムでは、主要なリリースだけに基いてバージョンチェックを行います。



(注) ライセンス ファイルで指定されたライセンスを使用できるのは、ライセンス ファイルがアップロードされたクラスタ内に限ります。

追加情報

[P.4-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

ライセンスファイルの内容

ライセンスファイルには、次の情報が含まれています。

- ライセンスが付与される Cisco Unified Presence Server のノード数。お客様にライセンスを付与するクラスタ内の Cisco Unified Presence Server サーバの数を示します。
- サポートされる Cisco Unified Presence Server のバージョン。
- ライセンスが付与される電話機の台数。電話機の種類ごとに個別のライセンスを生成するのではなく、ユニットライセンスの概念が使用されます。個々の電話機の種類は、一定のライセンスユニット数に対応します。
- ライセンスファイルのインストール先となるサーバの MAC アドレス。

ライセンスサーバへライセンスファイルをアップロードする方法については、[P.4-5](#)の「[ライセンスファイルのアップロード](#)」を参照してください。

ライセンスファイルのサンプル

次の例は、恒久 IP Phone ライセンスと、恒久 Cisco Unified Presence Server ノードライセンスのライセンスファイルを示したものです。

例 4-1 恒久 IP Phone のライセンス

```
INCREMENT PHONE_UNIT cisco 5.0 permanent uncounted \

VENDOR_STRING=<Count>1000</Count><OrigMacId>000BCD4EE59D</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</LicFileVersion> \
HOSTID=000bcd4ee59d OVERDRAFT=50 \
NOTICE="<LicFileID>20050826140539162</LicFileID><LicLineID>2</LicLineID> \
<PAK></PAK>" SIGN="112D 17E4 A755 5EDC F616 0F2B B820 AA9C \
0313 A36F B317 F359 1E08 5E15 E524 1915 66EA BC9F A82B CBC8 \
4CAF 2930 017F D594 3E44 EBA3 04CD 01BF 38BA BF1B"
```

このライセンスファイルには、次の情報が含まれています。

- キーワード permanent が示すとおり、このライセンスには有効期限がありません。
- このライセンスファイルは、1000 PHONE_UNIT のライセンスを付与します。
- OVERDRAFT=50 は、1000 の 5% のライセンス超過が許可されていることを示します。ライセンス超過の値は、シスコが決定します。
- シスコ固有のフィールド LicFileID により、このライセンスファイルが識別されます。
- 1 つのライセンスファイルの同じ機能（電話機のユニットライセンスまたはノードライセンス）に対して複数の INCREMENT 行を追加することにより、ライセンス数を増やすことができます。INCREMENT 行は重複せず、署名も個別に行う必要があります。

例 4-2 恒久 CCM ノードのライセンス

```
# Optional usage agreement, legal language, tracking information
# Some other comments
INCREMENT CCM_NODE cisco 5.0 permanent uncounted \
VENDOR_STRING=<Count>3</Count><OrigMacId>000BCD4EE59D</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</LicFileVersion> \
HOSTID=000bcd4ee59d \
NOTICE="<LicFileID>20050826140539162</LicFileID><LicLineID>1</LicLineID> \
<PAK></PAK>" SIGN="19B3 4C6C 25AC 6D22 4D75 DE6A 656B 08C5 \
30E4 16DB 771B 1393 9DC1 DBC4 C5AA 15CC 6E6C B7B8 895A DCBA \
B40F C551 2625 1C97 F20D 9977 6CFF 3603 081E 6FF2"
```

■ ライセンス ファイルの内容

このライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- キーワード permanent が示すとおり、このライセンスには有効期限がありません。
- このライセンス ファイルでは、CCM ノード機能のバージョン 5.0 に対して 3 つのライセンスが提供されています。
- シスコ固有のフィールド LicFileID により、このライセンス ファイルが識別されます。
- 1 つのライセンス ファイルの同じ機能に対して複数の INCREMENT 行を追加することにより、ライセンス数を増やすことができます。INCREMENT 行は重複せず、署名も個別に行う必要があります。

追加情報

P.4-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ライセンスファイルのアップロード

次の手順に従い、ライセンスファイルの要求時に提供される MAC アドレスと一致する Cisco Unified Presence Server ノードへライセンスファイルをアップロードします。ライセンスファイルの入手方法については、P.4-2の「[ライセンスファイルの取得](#)」を参照してください。ライセンスファイルのロード先となる Cisco Unified Presence Server ノードが、ライセンスマネージャの役割を果たします。



(注) ライセンスファイルは、Cisco Unified Presence Server クラスタの最初のノードに限りアップロードします。

手順

ステップ 1 [システム]>[ライセンス]>[ライセンスファイルのアップロード]の順に選択します。

[ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [既存ライセンスファイル (Existing License Files)] ドロップダウン リストボックスに、サーバへアップロード済みのライセンスファイルが表示されます。



(注) 既存のファイルの内容を表示するには、[ファイルの表示] をクリックします。

ステップ 3 アップロードする新しいライセンスファイルを選択するには、[ライセンスファイルのアップロード] をクリックします。

[ファイルのアップロード (Upload File)] ポップアップウィンドウが表示されます。

ステップ 4 サーバへアップロードするライセンスファイルを参照して選択します。

ステップ 5 [アップロード] をクリックします。

アップロード処理の完了後、[アップロード結果 (Upload Result)] ファイルが表示されます。

ステップ 6 [閉じる] をクリックします。

ステップ 7 [ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウに、アップロード済みファイルのステータスが表示されます。

追加情報

P.4-6の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ライセンスファイルの取得 \(P.4-2\)](#)
- [ライセンスファイルの内容 \(P.4-3\)](#)
- [ライセンスファイルのアップロード \(P.4-5\)](#)



ライセンス ユニット レポート

ライセンス ユニット レポートを使用して、ライセンスの許容総数と使用中のライセンス数を表示します。このツールにより、使用可能なライセンスの合計数のリストを含むレポートが生成されます。

ライセンス ユニット レポートの生成

使用可能なライセンス数のレポートを生成するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 [システム]>[ライセンス]>[ライセンスユニットレポート]の順に選択します。

ステップ 2 [Cisco UPS ライセンスユニットレポート (Cisco UPS License Unit Report)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、次の基準でノードのライセンス数が表示されます。

- 使用可能なユニット数 (Units Available)
 - 使用済ユニット数 (Units Used)
 - 残りユニット数 (Units Remaining)
-

追加情報

P.5-1 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ライセンス ファイルのアップロード \(P.4-1\)](#)



ステータス

ステータスのウィンドウを使用して、Cisco Unified Presence Server System のステータスを表示します。

システム ステータスの表示

システム ステータスを表示するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 [システム]>[ステータス]の順に選択します。

[Unified Presence Server システムステータス (Unified Presence Server System Status)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ステータス パラメータの説明については、[表 6-1](#) を参照してください。

表 6-1 システム ステータス パラメータ

パラメータ	説明
同期情報 (Sync Information)	同期が発生すると、この読み取り専用フィールドにパブリッシャ サーバの IP アドレスが表示されます。
システム情報 (System Information)	[システム情報 (System Information)] には、次の読み取り専用フィールドが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• エンドユーザ数 (No. End-users)• 電話デバイス数 (No. Phone Devices)• ライセンス済 UPS エンドユーザ数 (No. Licensed UPS End-users)• ライセンス済 UPC エンドユーザ数 (No. Licensed UPC End-users)• 割り当て済 MOC エンドユーザ数 (No. Assigned MOC End-users)

ライセンス済みユーザの検索

ライセンス済みユーザを検索するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 [Unified Presence Server システムステータス (Unified Presence Server System Status)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 2 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのライセンス済みユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたライセンス済みユーザのリストが表示されます。検索結果のパラメータの説明については、表 6-2 を参照してください。

ステップ 3 ユーザに関連付けられているデバイスを表示するには、[デバイス] リンクをクリックします。

表 6-2 システムステータスの検索結果パラメータ

パラメータ	説明
ユーザ ID(User ID)	ユーザ ID が表示されます。  (注) Cisco Unified Presence Server ではなく Cisco Unified CallManager にユーザを作成します。
プライマリ内線 (Primary Extension)	このユーザに関連付けられているプライマリ内線が表示されます。
デバイス (Devices)	このユーザにリンクとして関連付けられているデバイスの合計数が表示されます。デバイスのリストを含むポップアップ ウィンドウを表示するには、リンクをクリックします。
連絡先 (Contacts)	このユーザにリンクとして関連付けられている連絡先の合計数が表示されます。連絡先のリストを含むポップアップ ウィンドウを表示するには、リンクをクリックします。ユーザは、[Cisco Unified Presence Server ユーザの連絡先] ウィンドウで連絡先を追加できます。

表 6-2 システムステータスの検索結果パラメータ (続き)

パラメータ	説明
ウォッチャ (Watchers)	<p>このユーザにリンクとして関連付けられているウォッチャの合計数が表示されます。ウォッチャのリストを含むポップアップウィンドウを表示するには、リンクをクリックします。</p> <p> (注) ウォッチャとは、連絡先リストに特定のユーザを含むユーザのことで、事実上、このユーザを監視します。</p>
ライセンス済 UPC (Licensed UPC)	このユーザが Cisco Unified Personal Communicator の使用ライセンスを持っている場合、黒いチェックマークが表示されます。
MOC を使う (MOC Enabled)	このユーザが CTI Gateway Microsoft Office Communicator 機能の使用を許可されている場合、黒いチェックマークが表示されます。



設定トラブルシュータ

設定トラブルシュータのウィンドウを使用して、初期設定後または設定の変更時における、Cisco Unified Presence Server の設定に関する問題点を診断します。設定トラブルシュータでは、Cisco Unified Presence Server クラスタと Cisco Unified CallManager クラスタの両方で一連のテストを実行し、Cisco Unified Presence Server の設定を検証します。

設定トラブルシュータのテストが終了すると、各テストで次の 3 つのステータスがレポートされます。

- テスト合格 (Test Passed)
- テスト不合格 (Test Failed)
- テスト警告 (Test Warning、設定に問題がある可能性を示します)

不合格または警告となったテストごとに、問題点の説明と考えられる解決方法が示されます。

設定トラブルシュータの使用

設定トラブルシュータを利用するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence Server の管理] ウィンドウで、[システム] > [トラブルシュータ] の順に選択します。

[設定トラブルシュータ (Configuration Troubleshooter)] ウィンドウが表示されます。設定トラブルシュータで実行されるテストのリストについては、表 7-1 を参照してください。

ステップ 2 不合格または警告となった各テストの結果の表を検証します。

結果の表には、問題点の説明と推奨される解決策が提示されます。

ステップ 3 不合格または警告となったテストごとに、解決策の列で **fix** リンクをクリックし、Cisco Unified Presence Server の管理のウィンドウへ移動します。このウィンドウには、設定トラブルシュータにより見つかった問題点が表示されます。

ステップ 4 見つかった設定エラーを修正して、トラブルシュータを再度実行します。

表 7-1 設定トラブルシュータのテスト

テストグループ	テストの説明
同期エージェント (Sync Agent)	AXL 設定のエントリが存在することを確認します。
	AXL ユーザ ID が有効であることを確認します。
	パブリッシャのアドレスが到達可能であることを確認します。次に、ログインして基本的なクエリを実行します。
	同期エージェントにより適切なデータ（デバイス、ユーザ、ライセンス情報など）が同期されていることを確認します。
	同期エージェント サービスが実行されていることを確認します。
プレゼンス エンジン (Presence Engine)	Cisco Unified CallManager プレゼンスゲートウェイのエントリが存在することを確認します。
	プレゼンス エンジン サービスが実行されていることを確認します。
	プレゼンス エンジンの OAM エージェント サービスが実行されていることを確認します。
	プレゼンス エンジン データベース サービスが実行されていることを確認します。
	Cisco Unified CallManager プレゼンス ゲートウェイが有効であることを確認します（到達可能であることをチェックします）。
Cisco Unified CallManager サーバに有効な SIP トランクが存在することを確認します。	

表 7-1 設定トラブルシュータのテスト (続き)

テストグループ	テストの説明
プロキシサーバ (Proxy Server)	SIP プロキシサービスのプロキシドメインサービスパラメータの値が有効であることを確認します。 メソッド / イベントルートが存在することを確認します。 SIP プロキシサービスが実行されていることを確認します。 設定エージェントサービスが実行されていることを確認します。
IPPM	IPPM 設定のエントリが存在することを確認します。  (注) Cisco Unified Presence Server の管理ページで IPPM を有効にした場合のみ、トラブルシュータで IPPM がテストされます。IPPM を有効にするには、[アプリケーション]>[IP Phone Messenger]>[設定]の順に選択します。
	IPPM アプリケーションのユーザ名が有効であることを確認します。 IPPM アプリケーションのパスワードが有効であることを確認します。 Cisco Unified Presence Server の IPPM アプリケーションのユーザ名とパスワードが、設定済みの Cisco Unified CallManager アプリケーションのユーザ名およびパスワードと一致することを確認します。 IPPM サービスがアクティブであることを確認します。 IPPM サービスが実行されていることを確認します。
CTI ゲートウェイ (CTI Gateway)	CTI ゲートウェイ設定のエントリが存在することを確認します。  (注) Cisco Unified Presence Server の管理ページで IPPM を有効にした場合のみ、トラブルシュータで IPPM がテストされます。CTI ゲートウェイを有効にするには、[アプリケーション]>[CTI ゲートウェイ]>[設定]の順に選択します。
	CTI ゲートウェイサービスがアクティブであることを確認します。 Cisco Unified Presence Server アプリケーションのユーザ名とパスワードが、現在設定されている Cisco Unified CallManager アプリケーションのユーザ名およびパスワードと一致していることを確認します。 CTI ゲートウェイサービスが実行されていることを確認します。 現在 Microsoft Office Communicator (MOC) が割り当てられているユーザがいるかどうかを確認します。



PART 3

Unified Presence Server の設定





プロキシ サーバの設定

プロキシ サーバの設定のウィンドウを使用して、SIP プロキシ サーバの設定を行います。

プロキシ サーバ設定値の設定

この項では、Cisco Unified Presence Server のプロキシ サーバ設定の方法について説明します。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Presence Server] > [プロキシサーバ] > [設定] の順にクリックします。
[プロキシの構成設定 (Proxy Configuration Settings)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [メソッド / イベントルーティングのステータス (Method/Event Routing Status)] で [オン] または [オフ] を選択します。
- ステップ 3** [表 8-1](#) の説明に従って、適切な [優先プロキシリスナー (Preferred Proxy Listener)] を選択します。
- ステップ 4** 設定を保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

追加情報

[P.8-3](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

プロキシ サーバの設定値

表 8-1 で、プロキシ サーバの設定値について説明します。関連する手順については、P.8-3 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 8-1 プロキシ サーバの設定値

フィールド	説明
メソッド / イベントルーティングのステータス (Method/Event Routing Status)	このパラメータは、SIP プロキシ サーバでメソッド / イベントルーティング モジュールを有効にするか無効にするかを指定します。
優先プロキシリスナー (Preferred Proxy Listener)	このパラメータは、どの SIP プロキシ リスナーを優先リスナーとみなすかを指定します。ドロップダウン リストには、トランスポート リスナーのウィンドウで定義した SIP プロキシ サーバのリスナーが含まれています。

プロキシ サービスの再起動

Cisco Unified Presence Server の管理ページで行う変更を有効にするため、SIP プロキシ サービスの再起動が必要になる場合があります。SIP プロキシ サービスの再起動が必要な変更は、次のとおりです。

- システム サーバの追加、削除、または変更
- SIP プロキシ サーバ設定の変更
- トランスポートリスナーの追加、削除、または変更
- TLS コンテキストおよび TLS ピア サブジェクトの追加、削除、または変更

プロキシ サービスを再起動するには、次の手順に従います。



警告

プロキシ サービスを再起動する間、Cisco Enterprise SIP プロキシサービスにより既存のトランザクションが停止されるため、新たな要求を受け付けることができなくなります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence Server] [プロキシサーバ] [設定] の順にクリックします。

[プロキシの構成設定 (Proxy Configuration Settings)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [すべてのプロキシサービスのリスタート] をクリックします。

ステップ 3 確認のウィンドウが表示された場合は OK をクリックします。

関連項目

- [プロキシ サーバ設定値の設定 \(P.8-1\)](#)
- [プロキシ サーバの設定値 \(P.8-2\)](#)



スタティック ルート

スタティック ルートのウィンドウを使用して、SIP プロキシ サーバで使用するスタティック ルートを設定します。ダイナミック ルートは、ルーティング プロトコルとルーティング更新メッセージに従って自動的に計算されるネットワーク経由のパスを表します。スタティック ルートは、明示的に設定するネットワーク経由の固定パスを表します。スタティック ルートは、ダイナミック ルートよりも優先されます。

スタティックルートの検索

ネットワークに複数のスタティックルートが存在する場合がありますため、Cisco Unified Presence Serverでは、具体的な検索条件に基づいて特定のスタティックルートを検索することができます。特定のスタティックルートを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザセッションでの作業中、クライアントマシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence Server]>[プロキシサーバ]>[スタティックルート]の順にクリックします。

[スタティックルートの検索と一覧表示 (Find and List Static Routes)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して機能の割り当てを検索します。

ステップ 2 [スタティックルートの検索と一覧表示 (Find and List Static Routes)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 宛先パターン
- 説明
- ネクストホップ
- プライオリティ
- 重み付け

[スタティックルートの検索と一覧表示 (Find and List Static Routes)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのスタティックルートを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたスタティックルートのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するスタティック ルートをクリックします。

選択したスタティック ルートがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.9-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

スタティック ルートの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、スタティック ルートを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- スタティック ルートを追加するには、[Unified Presence Server]> [プロキシサーバ]> [スタティックルート] の順に選択し、[新規追加] をクリックします。
- サーバを更新する場合、P.9-2 の「[スタティック ルートの検索](#)」の手順に従ってサーバを検索します。

[スタティックルートの設定 (Static Route Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [表 9-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 データを保存してスタティック ルートをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.9-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

スタティック ルートの設定値

表 9-1 で、スタティック ルートの設定値について説明します。関連する手順については、P.9-5 の「関連項目」を参照してください。

表 9-1 スタティック ルートの設定値

フィールド	説明
宛先パターン	<p>このフィールドでは、着信番号のパターンを指定します。</p> <p>ドット (.) を任意の 1 文字を表すワイルドカードとして使用できます。アスタリスク (*) は任意の複数の文字列を表すワイルドカードとして使用できます。</p> <p>ダッシュまたはハイフン (-) もパターン内の任意の場所で使用できます。</p> <p>ワイルドカードの使用方法</p> <p>電話機の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ドットはパターン内の任意の場所に使用できます。 アスタリスクは末尾だけに使用できます。 <p>IP アドレスおよびホスト名の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> アスタリスクはホスト名の一部として使用できます。 ドットはホスト名のリテラル値の役割を果たします。 <p>エスケープ文字とアスタリスクの連続 (*) は、リテラル (*) と一致するもので、任意の場所で使用できます。</p>
説明	このパラメータは、特定のスタティック ルートの説明を指定します。
ネクストホップ	このパラメータは、着信先 (ネクスト ホップ) のドメイン名または IP アドレスを指定するもので、完全修飾ドメイン名 (FQDN) またはドット付き IP アドレスとして指定できます。
ネクストホップポート (Next Hop Port)	<p>このパラメータは、着信先 (ネクスト ホップ) のポート番号を指定します。</p> <p>デフォルト : 5060</p>
ルートタイプ (Route Type)	このパラメータは、ルート タイプ (ユーザまたはドメイン) を指定します。
プロトコルタイプ (Protocol Type)	このパラメータは、このルートに対するプロトコル タイプ (TCP、UDP、または TLS) を指定します。
プライオリティ	<p>このパラメータは、ルートのプライオリティ レベルを指定します。小さな値はプライオリティが高いことを示します。</p> <p>値の範囲 : 1 ~ 65535</p>
重み付け	<p>このパラメータは、ルートの重み付けを指定します。このパラメータは、複数のルートのプライオリティが同じ場合に限り使用します。大きな値は、ルートのプライオリティが高いことを示します。</p> <p>値の範囲 : 1 ~ 65535</p>

表 9-1 スタティック ルートの設定値 (続き)

フィールド	説明
固有性の低いルートを許可 (Allow Less-Specific Route)	このパラメータは、固有性の低いルートを許可することを示します。
インサービス (In Service)	このパラメータは、ルートをアウト オブ サービスにするかどうかを指定します。
	 (注) このパラメータを使用すると、管理者は効率的にルートをアウト オブ サービスにすることができません (完全に削除してから再度追加する必要がありません)。

スタティック ルートの削除

この項では、スタティック ルートの削除方法を説明します。

手順

- ステップ 1** P.9-2 の「[スタティック ルートの検索](#)」の手順に従いスタティック ルートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するスタティック ルートを選択します。
- ステップ 3** スタティック ルートを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [**選択項目の削除**] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [**選択項目の削除**] ボタンをクリックします)。

スタティック ルートが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、そのスタティック ルートが削除されます。スタティック ルートが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.9-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [スタティック ルートの検索 \(P.9-2\)](#)
- [スタティック ルートの設定 \(P.9-3\)](#)
- [スタティック ルートの削除 \(P.9-5\)](#)



メソッド/イベント ルーティング

メソッドベースまたはイベントベースのルーティングのウィンドウを使用して、SIP プロキシ サーバを設定し、SIP メッセージを内容に応じてルーティングします。

メソッド/イベントルートの検索

ネットワークに複数のメソッド/イベントベースのルートが存在する場合があるため、Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定のメソッド/イベントベースのルートを検索することができます。特定のメソッド/イベントベースのルートを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中、クライアントマシンの cookie により、検索/一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence Server] [プロキシサーバ] [メソッド/イベントルーティング] の順にクリックします。

[メソッド/イベントベースルーティングの検索と一覧表示 (Find and List Method/Event-Based Routing Entries)] ウィンドウが表示されます。メソッド/イベントベースのルートを検索するには、次の 2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用します。

ステップ 2 [メソッド/イベントベースルーティングの検索と一覧表示 (Find and List Method/Event-Based Routing Entries)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名前
- 説明
- コンテンツトークン
- 着信先アドレス
- 着信先ポート

[メソッド/イベントベースルーティングの検索と一覧表示 (Find and List Method/Event-Based Routing Entries)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント

データベースに登録されているすべてのメソッド/イベントベースのルートを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたメソッド/イベントベースのルートのリストが表示されます。

ステップ4 レコードのリストから、検索条件に一致するルートをクリックします。

選択したルートがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.10-5の「[関連項目](#)」を参照してください。

メソッド/イベントベースのルートの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースでメソッド/イベントベースのルートを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ1 次のいずれかのタスクを実行します。

- メソッド/イベントベースのルートを追加するには、[Cisco Unified Presence Server]>[プロキシサーバ]>[メソッド/イベントルーティング]の順に選択し、[新規追加]をクリックします。
- メソッド/イベントベースのルートを更新するには、P.10-2の「[メソッド/イベントルートの検索](#)」の手順に従いルートを検索します。

[メソッド/イベントベースルーティングの設定 (Method/Event-Based Routing Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 [表 10-1](#)の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ3 データを保存してメソッド/イベントベースのルートをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される[保存]アイコンをクリックします(または、ウィンドウの下部に表示される[保存]ボタンをクリックします)。

追加情報

P.10-5の「[関連項目](#)」を参照してください。

メソッド/イベントベースのルートの設定値

表 10-1 で、メソッド/イベントベースのルートの設定値について説明します。関連する手順については、P.10-5 の「関連項目」を参照してください。

表 10-1 メソッド/イベントルートの設定値

フィールド	説明
名前	このパラメータは、特定のメソッドベースまたはイベントベースのルートに関連付けられている名前を指定します。
説明	このパラメータは、特定のメソッド/イベントルートの説明を指定します。
コンテンツトークン (Content Token)	このパラメータは、SIP メッセージのルーティングに使用するコンテンツ検索文字列を指定します。 PUBLISH や SUBSCRIBE などがその例です。
コンテンツカテゴリ (Content Category)	このパラメータは、メソッドベースまたはイベントベースのいずれかのコンテンツカテゴリを指定します。
着信先アドレス	このパラメータは、SIP メッセージの送信先となる、着信先（ネクストホップ）のドメイン名または IP アドレスを指定します。
着信先ポート	このパラメータは、着信先（ネクストホップ）のポート番号を指定します。 デフォルトポート：5060
プロトコルタイプ (Protocol Type)	このパラメータは、SIP メッセージを転送する場合に使用するプロトコルタイプ（TCP、UDP、または TLS）を指定します。

メソッド/イベントルートの削除

この項では、メソッド/イベントベースのルートを削除する方法について説明します。

手順

-
- ステップ 1** P.10-2 の「[メソッド/イベントルートの検索](#)」の手順に従いメソッド/イベントルートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するルートを選択します。
- ステップ 3** ルートを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [[選択項目の削除](#)] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [[選択項目の削除](#)] ボタンをクリックします)。

メソッド/イベントルートが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、そのメソッド/イベントルートが削除されます。メソッド/イベントルートが使用中の場合は、エラーメッセージが表示されます。

追加情報

P.10-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [メソッド/イベントルートの検索 \(P.10-2\)](#)
- [メソッド/イベントベースのルートの設定 \(P.10-3\)](#)
- [メソッド/イベントルートの削除 \(P.10-5\)](#)

■ 関連項目



着信 ACL

アクセス コントロール リスト (ACL) では、Cisco Unified Presence Server へアクセスできるホストおよびドメインを制御するパターンを設定できます。

着信 ACL エントリの検索

ネットワークに ACL エントリが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定の着信 ACL エントリを検索することができます。特定の ACL エントリを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence Server] > [プロキシサーバ] > [着信 ACL] の順にクリックします。

[許可されている着信ホストの検索と一覧表示 (Find and List Allowed Incoming Hosts)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して ACL エントリを検索します。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、アドレス パターンに対する次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての ACL エントリを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された ACL エントリのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致する ACL エントリをクリックします。

選択した ACL エントリがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.11-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

着信 ACL の設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、着信 ACL エントリを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- 着信 ACL エントリを追加するには、[Cisco Unified Presence Server]>[プロキシサーバ]>[着信 ACL] の順に選択し、[新規追加] をクリックします。
- 着信 ACL エントリを更新するには、P.11-2 の「着信 ACL エントリの検索」の手順に従い ACL エントリを検索します。

[プロキシアクセスコントロールリストの設定 (Proxy Access Control List Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 11-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.11-4 の「関連項目」を参照してください。

着信 ACL の設定値

表 11-1 で、着信 ACL の設定値について説明します。関連する手順については、P.11-4 の「関連項目」を参照してください。

表 11-1 着信 ACL の設定値

フィールド	説明
説明 (Description)	このパラメータは、ACL エントリの一般的な説明を指定します。
アドレス パターン (Address Pattern)	このパラメータは、着信ホストまたはドメインのアドレスやパターンを、IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名のいずれかで指定します。

着信 ACL エントリの削除

この項では、着信 ACL エントリの削除方法について説明します。

手順

-
- ステップ 1** P.11-2 の「[着信 ACL エントリの検索](#)」の手順に従い ACL エントリを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する ACL エントリを選択します。
- ステップ 3** ACL エントリを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [[選択項目の削除](#)] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [[選択項目の削除](#)] ボタンをクリックします)。

ACL エントリが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、その ACL エントリが削除されます。ACL エントリが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.11-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [着信 ACL エントリの検索 \(P.11-2\)](#)
- [着信 ACL の設定 \(P.11-3\)](#)
- [着信 ACL エントリの削除 \(P.11-4\)](#)



プライバシー ACL

プライバシー アクセス コントロール リスト (ACL) を使用すると、Cisco Unified Presence Server からネットワークへアクセスできる発信ホストおよびドメインを制御するパターンを設定できます。

プライバシ ACL エントリの検索

ネットワークに ACL エントリが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定のプライバシ ACL エントリを検索することができます。特定 ACL エントリを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence Server] > [プロキシサーバ] > [プライバシ ACL] の順にクリックします。

[許可されている宛先ホストの検索と一覧表示 (Find and List Allowed Destination Hosts)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して ACL エントリを検索します。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、アドレス パターンに対する次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての ACL エントリを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された ACL エントリのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致する ACL エントリをクリックします。

選択した ACL エントリがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.12-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

プライバシ ACL の設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースでプライバシ ACL エントリを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- プライバシ ACL エントリを追加するには、[Cisco Unified Presence Server]>[プロキシサーバ]>[プライバシ ACL]の順に選択し、[新規追加]をクリックします。
- プライバシ ACL エントリを更新するには、P.12-2 の「プライバシ ACL エントリの検索」の手順に従い ACL エントリを検索します。

[プライバシアクセスコントロールリストの設定 (Privacy Access Control List Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 12-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.12-4 の「関連項目」を参照してください。

プライバシ ACL の設定値

表 12-1 で、プライバシ ACL の設定値について説明します。関連する手順については、P.12-4 の「関連項目」を参照してください。

表 12-1 プライバシ ACL の設定値

フィールド	説明
説明 (Description)	このパラメータは、プライバシ ACL エントリの一般的な説明を指定します。
アドレス パターン (Address Pattern)	このパラメータは、発信ホストまたはドメインのアドレスやパターンを、IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名のいずれかで指定します。

プライバシ ACL エントリの削除

この項では、プライバシ ACL エントリの削除方法について説明します。

手順

-
- ステップ 1** P.12-2 の「[プライバシ ACL エントリの検索](#)」の手順に従い ACL エントリを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する ACL エントリを選択します。
- ステップ 3** ACL エントリを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [[選択項目の削除](#)] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [[選択項目の削除](#)] ボタンをクリックします)。

ACL エントリが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、その ACL エントリが削除されます。ACL エントリが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.12-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [プライバシ ACL エントリの検索 \(P.12-2\)](#)
- [プライバシ ACL の設定 \(P.12-3\)](#)
- [プライバシ ACL エントリの削除 \(P.12-4\)](#)



CallManager プレゼンス ゲートウェイ

プレゼンス ゲートウェイのウィンドウを使用して、プレゼンス エンジンがプレゼンス情報を受信するために必要なゲートウェイを設定します。

プレゼンス ゲートウェイの検索

ネットワークにプレゼンス ゲートウェイが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定のゲートウェイを検索することができます。特定のプレゼンス ゲートウェイを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence Server] > [プレゼンスエンジン] > [CallManager プレゼンスゲートウェイ] の順に選択します。

[CallManager プレゼンスゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List CallManager Presence Gateways)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用してプレゼンスゲートウェイを検索します。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのプレゼンス ゲートウェイを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたプレゼンス ゲートウェイのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するプレゼンス ゲートウェイをクリックします。

選択したプレゼンス ゲートウェイがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.13-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

プレゼンス ゲートウェイの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、プレゼンス ゲートウェイを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- プレゼンス ゲートウェイを追加するには、[Cisco Unified Presence Server] > [プレゼンスエンジン] > [CallManager プレゼンスゲートウェイ] の順に選択し、[新規追加] をクリックします。
- プレゼンス ゲートウェイを更新する場合、P.13-2 の「プレゼンス ゲートウェイの検索」の手順に従ってプレゼンス ゲートウェイを検索します。

[CallManager プレゼンスゲートウェイの設定 (CallManager Presence Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 13-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.13-4 の「関連項目」を参照してください。

プレゼンス ゲートウェイの設定値

表 13-1 で、プレゼンス ゲートウェイの設定値について説明します。関連する手順については、P.13-4 の「関連項目」を参照してください。

表 13-1 プレゼンス ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
説明 (Description)	このパラメータは、プレゼンス ゲートウェイの説明を指定します。 最大文字数：255
CallManager プレゼンスゲートウェイ (CallManager Presence Gateway)	このパラメータは、関連付けられている Cisco Unified CallManager サーバの完全修飾ドメイン名または IP アドレスを指定します。

プレゼンス ゲートウェイの削除

この項では、プレゼンス ゲートウェイの削除方法を説明します。

手順

-
- ステップ 1** P.13-2 の「[プレゼンス ゲートウェイの検索](#)」の手順に従いゲートウェイを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するゲートウェイを選択します。
- ステップ 3** ゲートウェイを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [[選択項目の削除](#)] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [[選択項目の削除](#)] ボタンをクリックします)。

ゲートウェイが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、そのゲートウェイが削除されます。ゲートウェイが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.13-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [プレゼンス ゲートウェイの検索 \(P.13-2\)](#)
- [プレゼンス ゲートウェイの設定 \(P.13-3\)](#)
- [プレゼンス ゲートウェイの削除 \(P.13-4\)](#)



ユーザ エージェントの設定

ユーザ エージェントの設定のウィンドウを使用すると、クライアントユーザ エージェントごとにリーチャビリティ バージョンを設定できます。リーチャビリティ バージョンを設定すると、Cisco Unified Personal Communicator の旧バージョンとの下位互換性を提供できます。デフォルトのリーチャビリティ バージョンは 2 です。この値は、特別に設定されていないすべてのユーザ エージェントに使用される RFC 4479 に準拠しています。

ユーザエージェントの検索

Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザエージェントを検索できます。特定のユーザエージェントを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザセッションでの作業中、クライアントマシンの cookie により、検索/一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence Server] > [プレゼンスエンジン] > [ユーザ - エージェント設定] の順に選択します。

[ユーザ - エージェントの検索と一覧表示 (Find and List User-Agent)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウンリストボックスを使用してユーザエージェントを検索します。

ステップ 2 ドロップダウンリストボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザエージェントを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたユーザエージェントのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するユーザエージェントをクリックします。

選択したユーザエージェントがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.14-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザエージェントの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、ユーザエージェントを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- ユーザエージェントを追加するには、[Cisco Unified Presence Server]>[プレゼンスエンジン]>[ユーザ - エージェント設定] の順に選択し、[新規追加] をクリックします。
- ユーザエージェントを更新するには、P.14-2 の「ユーザエージェントの検索」の手順に従ってユーザエージェントを検索します。

[ユーザ - エージェントの設定 (User-Agent Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 14-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.14-5 の「関連項目」を参照してください。

ユーザエージェントの設定値

表 14-1 で、ユーザエージェントの設定値について説明します。関連する手順については、P.14-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 14-1 ユーザエージェントの設定値

フィールド	説明
クライアントユーザ-エージェントバージョン (Client User-Agent Version)	このパラメータは、クライアント ユーザ エージェントのヘッダーを指定します。 最大文字数：255
リーチャビリティバージョン (Reachability Version)	このパラメータは、クライアントごとにプレゼンスドキュメントで使用されるリーチャビリティバージョンを次のとおり指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 1 - draft-ietf-simple-simple-rpid-07 2 - RFC 4479

ユーザエージェントの削除

この項では、ユーザエージェントの削除方法を説明します。

手順

- ステップ 1** P.14-2 の「[ユーザエージェントの検索](#)」の手順に従いユーザエージェントを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するユーザエージェントを選択します。
- ステップ 3** ユーザエージェントを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [[選択項目の削除](#)] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [[選択項目の削除](#)] ボタンをクリックします)。

ユーザエージェントが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、そのユーザエージェントが削除されます。ユーザエージェントが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.14-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザエージェントのコピー

この項では、ユーザエージェントをコピーする方法について説明します。

手順

-
- ステップ 1** P.14-2 の「[ユーザエージェントの検索](#)」の手順に従いユーザエージェントを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストからコピーするユーザエージェントを選択します。
- ステップ 3** ユーザエージェントをコピーするには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [コピー] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [コピー] ボタンをクリックします)。
- [ユーザ - エージェントの設定 (User-Agent Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [表 14-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。
-

追加情報

P.14-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ユーザエージェントの検索 \(P.14-2\)](#)
- [ユーザエージェントの設定 \(P.14-3\)](#)
- [ユーザエージェントの削除 \(P.14-4\)](#)

■ 関連項目



TLS コンテキストの設定

トランスポート リスナーには、単一のトランスポート レイヤ セキュリティ (TLS) コンテキストを個別に関連付けることができます。また、各 TLS コンテキストに複数の暗号とピア サブジェクトを持たせることができます。

TLS コンテキスト設定により、暗号とピア サブジェクトをトランスポート リスナーにマッピングできます。

TLS コンテキストの検索

ネットワークに複数の TLS コンテキストが存在する場合がありますため、Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定の TLS コンテキストを検索することができます。特定の TLS コンテキストを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence Server] > [セキュリティ] > [TLS コンテキスト設定] の順に選択します。

[TLS コンテキストの検索と一覧表示 (Find and List TLS Contexts)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して TLS コンテキストを検索します。

ステップ 2 [TLS コンテキストの検索と一覧表示 (Find and List TLS Contexts)] ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての TLS コンテキストを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された TLS コンテキストのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致する TLS コンテキストをクリックします。

選択した TLS コンテキストがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.15-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

TLS コンテキストの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、TLS コンテキストを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- TLS コンテキストを追加するには、[Cisco Unified Presence Server] > [セキュリティ] > [TLS コンテキスト設定] の順に選択し、[新規追加] をクリックします。
- TLS コンテキストを更新するには、P.15-2 の「[TLS コンテキストの検索](#)」の手順に従って TLS コンテキストを検索します。

[TLS コンテキスト設定 (TLS Context Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [表 15-1](#) の説明に従って適切な設定値を入力します。

ステップ 3 適切な TLS 暗号を選択するには、上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

ステップ 4 適切な TLS ピア サブジェクトを選択するには、上向きまたは下向きの矢印をクリックします。



(注) TLS コンテキストに対する変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。プロキシ サーバを再起動するには、[Cisco Unified Presence Server] > [プロキシサーバ] > [設定] の順にクリックします。詳細については、P.8-1 の「[プロキシサーバの設定](#)」を参照してください。

ステップ 5 データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.15-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

TLS コンテキストの設定値

表 15-1 で、TLS コンテキストの設定値について説明します。関連する手順については、P.15-5 の「関連項目」を参照してください。

表 15-1 TLS コンテキストの設定値

フィールド	説明
名前 (Name)	このパラメータは、関連付けられているトランスポート リスナーの一意の名前を指定します。
説明 (Description)	このパラメータは、TLS コンテキストの説明を指定します。
承認ポリシー (Authorization Policy)	このパラメータは、特定の TLS コンテキストに対する認証の種類を指定します。ドロップダウン リストから、 SERVER または PEER (デフォルト) を選択します。
TLS 暗号のマッピング (TLS Cipher Mapping)	これらのフィールドには、選択した TLS 暗号と使用可能な TLS 暗号が表示されます。
TLS ピアサブジェクトの マッピング (TLS Peer Subject Mapping)	これらのフィールドには、選択した TLS ピア サブジェクトの中から使用可能な TLS ピア サブジェクトが表示されます。
	 <p>(注) TLS ピア サブジェクトは、TLS ピア サブジェクトのウィンドウで定義できます。</p>

TLS コンテキストの削除

この項では、TLS コンテキストの削除方法を説明します。

手順

ステップ 1 P.15-2 の「[TLS コンテキストの検索](#)」の手順に従い TLS コンテキストを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除する TLS コンテキストを選択します。



(注) TLS コンテキストに対する変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。プロキシ サーバを再起動するには、[Cisco Unified Presence Server] > [プロキシサーバ] > [設定] の順にクリックします。詳細については、P.8-1 の「[プロキシサーバの設定](#)」を参照してください。

ステップ 3 TLS コンテキストを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [選択項目の削除] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [選択項目の削除] ボタンをクリックします)。

TLS コンテキストが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、その TLS コンテキストが削除されます。TLS コンテキストが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.15-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [TLS コンテキストの検索 \(P.15-2\)](#)
- [TLS コンテキストの設定 \(P.15-3\)](#)
- [TLS コンテキストの削除 \(P.15-5\)](#)



TLS ピア サブジェクト

TLS ピア サブジェクトのウィンドウにより、トランスポート リスナーに関連付けることのできるピア サブジェクトを作成および変更できます。

TLS ピア サブジェクトの検索

ネットワークに複数の TLS ピア サブジェクトが存在する場合があります。Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件で特定の TLS ピア サブジェクトを検索することができます。特定の TLS ピア サブジェクトを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence Server] > [セキュリティ] > [TLS ピアサブジェクト] の順に選択します。

[TLS ピアサブジェクトの検索と一覧表示 (Find and List TLS Peer Subjects)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して TLS ピア サブジェクトを検索します。

ステップ 2 [TLS ピアサブジェクトの検索と一覧表示 (Find and List TLS Peer Subjects)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- ピアサブジェクト名
- 説明

[TLS ピアサブジェクトの検索と一覧表示 (Find and List TLS Peer Subjects)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての TLS ピア サブジェクトを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された TLS ピア サブジェクトのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致する TLS ピア サブジェクトをクリックします。

選択した TLS ピア サブジェクトがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.16-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

TLS ピア サブジェクトの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで TLS ピア サブジェクトを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- TLS ピア サブジェクトを追加するには、[Cisco Unified Presence Server]> [セキュリティ]> [TLS ピアサブジェクト] の順に選択し、[新規追加] をクリックします。
- TLS ピア サブジェクトを更新するには、P.16-2 の「TLS ピア サブジェクトの検索」の手順に従って TLS ピア サブジェクトを検索します。

[TLS ピアサブジェクトの設定 (TLS Peer Subject Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 16-1 の説明に従って適切な設定を入力します。



(注) TLS ピア サブジェクトに対する変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。プロキシ サーバを再起動するには、[Cisco Unified Presence Server]> [プロキシサーバ]> [設定] の順にクリックします。詳細については、P.8-1 の「プロキシサーバの設定」を参照してください。

ステップ 3 データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.16-4 の「関連項目」を参照してください。

TLS ピア サブジェクトの設定値

表 16-1 で、TLS ピアサブジェクトの設定値について説明します。関連する手順については、P.16-4 の「関連項目」を参照してください。

表 16-1 TLS ピア サブジェクトの設定値

フィールド	説明
ピアサブジェクト名	このパラメータは、関連付けられる TLS ピア サブジェクトの一意の名前を指定します。
説明	このパラメータは、TLS ピア サブジェクトの説明を指定します。

TLS ピア サブジェクトの削除

この項では、TLS ピア サブジェクトの削除方法を説明します。

手順

ステップ 1 P.16-2 の「[TLS ピア サブジェクトの検索](#)」の手順に従い TLS ピア サブジェクトを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除する TLS ピア サブジェクトを選択します。



(注) TLS ピア サブジェクトに対する変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。プロキシ サーバを再起動するには、[Cisco Unified Presence Server]>[[プロキシサーバ](#)]>[[設定](#)]の順にクリックします。詳細については、P.8-1 の「[プロキシサーバの設定](#)」を参照してください。

ステップ 3 TLS ピア サブジェクトを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [[選択項目の削除](#)] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [[選択項目の削除](#)] ボタンをクリックします)。

TLS ピア サブジェクトが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、その TLS ピア サブジェクトが削除されます。TLS ピア サブジェクトが使用中の場合は、メッセージが表示されません。

追加情報

P.16-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [TLS ピア サブジェクトの検索 \(P.16-2\)](#)
- [TLS ピア サブジェクトの設定 \(P.16-3\)](#)
- [TLS ピア サブジェクトの削除 \(P.16-4\)](#)



AXL 設定

AXL 設定のウィンドウを使用して、AXL のアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) へアクセスするためのユーザ名とパスワードを設定します。[AXL 設定 (AXL Configuration)] ウィンドウを使用すると、インストール時に入力した AXL のユーザ名とパスワードを変更できます。

AXL 設定値の設定

この項では、AXL のユーザ名とパスワードを設定する方法について説明します。



注意

関連付けられている Cisco Unified CallManager の最初のノードで、Standard AXL API Access ロールが割り当てられているアプリケーション ユーザのユーザ名とパスワードを入力する必要があります。デフォルトでは、CCMAAdministrator というユーザ ID に Standard AXL API Access ロールが割り当てられています。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence Server] > [セキュリティ] > [AXL 設定] の順に選択します。

[AXL 設定 (AXL Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 AXL のユーザ名とパスワードを入力します。

ステップ 3 確認のため、AXL パスワードを再度入力します。

ステップ 4 設定を保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。



トランスポート リスナー

SIP プロキシ サーバ、プレゼンス エンジン、およびプロファイル エージェントのトランスポート リスナーを設定できます。各トランスポート リスナーは、特定のアドレスとポートの組み合わせにバインドされます。TLS プロトコルを選択する場合、TLS コンテキストも選択する必要があります。

トランスポートリスナーの検索

ネットワークにトランスポートリスナーが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定のトランスポートリスナーを検索することができます。トランスポートリスナーを特定するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中、クライアントマシンの cookie により、検索/一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence Server] > [トランスポートリスナー] の順に選択します。

[トランスポートリスナーの検索と一覧表示 (Find and List Transport Listeners)] ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウンリストボックスを使用して機能の割り当てを検索します。

ステップ 2 [トランスポートリスナーの検索と一覧表示 (Find and List Transport Listeners)] ウィンドウの最初のドロップダウンリストボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名前
- ポート

[トランスポートリスナーの検索と一覧表示 (Find and List Transport Listeners)] ウィンドウの2番目のドロップダウンリストボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのトランスポートリスナーを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたトランスポートリスナーのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するトランスポートリスナーをクリックします。

選択したトランスポートリスナーがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.18-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

トランスポートリスナーの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、トランスポートリスナーを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

トランスポートリスナーを追加するには、[Cisco Unified Presence Server]> [トランスポートリスナー] の順に選択し、[新規追加] をクリックします。

- トランスポートリスナーを更新する場合、P.18-2 の「トランスポートリスナーの検索」の手順に従ってトランスポートリスナーを検索します。

[トランスポートリスナーの設定 (Transport Listener Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 18-1 の説明に従って適切な設定を入力します。



(注) トランスポートリスナーに対する変更を有効にするには、SIP プロキシサーバを再起動する必要があります。プロキシサーバを再起動するには、[Cisco Unified Presence Server]> [プロキシサーバ]> [設定] の順にクリックします。詳細については、P.8-1 の「プロキシサーバの設定」を参照してください。

ステップ 3 データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.18-5 の「関連項目」を参照してください。

トランスポートリスナーの設定値

表 18-1 で、トランスポートリスナーの設定値について説明します。関連する手順については、P.18-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 18-1 トランスポートリスナーの設定値

フィールド	説明
名前	このパラメータは、トランスポートリスナーの一意の名前を指定します。
ポート	このパラメータは、SIP トランスポートに対して設定されるポート番号を指定します。
プロトコルタイプ (Protocol Type)	このパラメータは、この SIP トランスポートに対するプロトコルタイプ (TCP、UDP、または TLS) を指定します。
サービスタイプ (Service Type)	このパラメータは、トランスポートリスナーのサービスタイプを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Proxy Server • Cisco Presence • Cisco Unified Client Profile Agent
TLS コンテキスト (TLS Context)	このパラメータは、このトランスポートリスナーに関連付けられている TLS コンテキストを指定します。TLS プロトコルタイプを選択した場合に限り、このパラメータが適用されます。  (注) 使用可能な TLS コンテキストは、TLS コンテキスト設定のウィンドウで設定できます。

トランスポートリスナーの削除

この項では、トランスポートリスナーの削除方法を説明します。

手順

ステップ 1 P.18-2 の「[トランスポートリスナーの検索](#)」の手順に従いトランスポートリスナーを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するトランスポートリスナーを選択します。



(注) トランスポートリスナーに対する変更を有効にするには、SIP プロキシサーバを再起動する必要があります。プロキシサーバを再起動するには、[Cisco Unified Presence Server] > [プロキシサーバ] > [設定] の順にクリックします。詳細については、P.8-1 の「[プロキシサーバの設定](#)」を参照してください。

ステップ 3 トランスポートリスナーを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [選択項目の削除] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [選択項目の削除] ボタンをクリックします)。

トランスポートリスナーが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、そのトランスポートリスナーが削除されます。トランスポートリスナーが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.18-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [トランスポートリスナーの検索 \(P.18-2\)](#)
- [トランスポートリスナーの設定 \(P.18-3\)](#)
- [トランスポートリスナーの削除 \(P.18-5\)](#)



PART 4

アプリケーションの設定





プラグインの設定

アプリケーションのプラグインにより、Cisco Unified Presence Server の機能を拡張できます。たとえば、JTAPI プラグインを使用すると、Java Telephony Application Programming Interface (JTAPI) 経由で Cisco Unified Presence Server にアクセスするアプリケーションをホストできます。

この項では、次のトピックについて説明します。

- [プラグインのインストール \(P.19-2 \)](#)
- [プラグインの URL の更新 \(P.19-4 \)](#)
- [プラグイン URL の更新の設定値 \(P.19-4 \)](#)

プラグインのインストール



ヒント

Cisco Unified Presence Server のアップグレード後、Cisco CDR Analysis and Reporting プラグインを除くプラグインをすべて再インストールする必要があります。

プラグインをインストールする前に、プラグインのインストール先となるサーバで実行されている、侵入検知やアンチウイルスなどのサービスをすべて無効にしてください。

プラグインをインストールするには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 [アプリケーション]>[プラグイン]の順に選択します。

[プラグインの検索と一覧表示 (Find and List Plugins)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して、使用可能なプラグイン アプリケーションを検索します。

ステップ 2 [プラグインの検索と一覧表示 (Find and List Plugins)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名前
- 説明

[プラグインの検索と一覧表示 (Find and List Plugins)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

プラグイン タイプのドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- アプリケーションメニュー
- インストール
- ユーザメニュー
- Telecaster メニュー

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索]をクリックします。



ヒント

使用可能なプラグインをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 4 インストールするプラグイン名をクリックします。

Cisco Unified Presence Server では、次のプラグインがサポートされていません。

- Cisco Unified CallManager AXL SQL Toolkit
- Cisco IP Phone Address Book Synchronizer
- Cisco JTAPI for Linux
- Cisco JTAPI for Solaris Sparc
- Cisco JTAPI for Solaris X86
- Cisco JTAPI for Windows
- Cisco TAPS for Windows
- Cisco Telephony Service Provider
- Cisco Unified CallManager Attendant Console

ステップ 5 プラグインをダウンロードするには、[**ダウンロード**] リンクをクリックします。

ステップ 6 インストール ウィザードの指示に従ってインストールを完了します。

関連項目

- [プラグインの設定 \(P.19-1\)](#)
- [プラグインの URL の更新 \(P.19-4\)](#)

プラグインの URL の更新

Cisco Unified Presence Server のインストール プロセス中、プラグイン テーブルに追加されるレコードにより、管理アプリケーションで [アプリケーション] ドロップダウン メニューを作成するために使用する URL が決まります。ドメイン ネーム サーバ (DNS) は、インストール時に作成される URL の基盤を提供します。DNS が変更されると、URL が更新されなくなります。

次の手順に従い、プラグインの URL を更新します。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [プラグイン] の順に選択します。

[プラグインの検索と一覧表示 (Find and List Plugins)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、プラグインの名前と種類を選択します。

ステップ 3 更新するプラグイン名をクリックします。

[プラグイン URL の更新 (Update Plugin URL)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [カスタム URL(Custom URL)] フィールドに URL を入力します。

ステップ 5 URL を更新して保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

関連項目

- [プラグインの設定 \(P.19-1\)](#)
- [プラグインのインストール \(P.19-2\)](#)

プラグイン URL の更新の設定値

表 19-1 で、プラグイン URL の更新の設定値について説明します。

表 19-1 プラグイン URL の更新の設定値

フィールド	説明
プラグイン名	ドロップダウン リスト ボックスから、URL の変更対象となるプラグイン名を選択します。
プラグインタイプ	ドロップダウン リスト ボックスから、URL の変更対象となるプラグイン タイプ (アプリケーションやインストールなど) を選択します。
URL	URL が自動的に表示されます。
カスタム URL(Custom URL)	カスタム URL に使用できるのは、英数字だけです。
プラグインをユーザ オプション ページに表示する (Show Plugin on User Option Pages)	このチェックボックスをオンにすると、ユーザ オプション ウィンドウにプラグインが表示されます。



IP Phone Messenger のステータス

IP Phone Messenger (IPPM) のステータスのウィンドウを使用して、エンド ユーザのログイン ステータスの表示、ブロードキャスト メッセージの送信、単独または複数のエンドユーザに対する IPPM からの強制的なログアウトなどを実行します。

IP Phone Messenger のエンドユーザ ステータスの検索

ネットワークに複数の IPPM ユーザが存在する場合がありますため、Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定の IPPM ユーザを検索することができます。特定の IPPM ユーザを検索し、ログインステータスを表示するには、次の手順に従います。



(注) ブラウザセッションでの作業中、クライアントマシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [IP Phone Messenger] > [ステータス] の順に選択します。

ドロップダウンリストボックスを使用して IPPM のエンドユーザを検索します。

ステップ 2 IP Phone Messenger のウィンドウの最初のドロップダウンリストボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- ユーザ ID
- 名
- 姓
- マネージャ
- 部署名

IP Phone Messenger のウィンドウの 2 番目のドロップダウンリストボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての IP Phone Messenger エンドユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された IP Phone Messenger エンドユーザのリストが表示されます。

- ステップ 4** レコードのリストから、検索条件に一致する IP Phone Messenger エンド ユーザをクリックします。
- 選択した IP Phone Messenger エンド ユーザがウィンドウに表示されます。
-

追加情報

P.20-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

IPPM エンドユーザのログアウト

この項では、IPPM エンド ユーザのログアウト方法について説明します。

手順

- ステップ 1** IPPM エンド ユーザをログアウトさせるには、[P.20-2 の「IP Phone Messenger のエンドユーザ ステータスの検索」](#)の手順に従い IPPM エンドユーザを検索します。
- ステップ 2** ログアウトさせるエンド ユーザを選択するか、または [**すべてを選択**] をクリックします。
- ステップ 3** [**ログアウト**] をクリックします。
- ユーザをログアウトさせるかどうか確認するプロンプトが表示されます。
- ステップ 4** **OK** をクリックしてユーザをログアウトさせるか、または [**キャンセル**] をクリックしてユーザをログアウトさせずに終了します。
-

ブロードキャストメッセージの送信

この項では、単独または複数の IPPM エンド ユーザにブロードキャスト メッセージを送信する方法について説明します。

手順

-
- ステップ 1** 単独または複数の IPPM エンド ユーザにブロードキャスト メッセージを送信するには、[P.20-2 の「IP Phone Messenger のエンドユーザ ステータスの検索」](#)の手順に従って IPPM エンド ユーザを検索します。
- ステップ 2** ブロードキャスト メッセージを送信する IPPM エンド ユーザを選択するか、または **[すべてを選択]** をクリックします。
- ステップ 3** Msg ボックスに、ブロードキャスト メッセージのテキストを入力します。
- ステップ 4** **[ブロードキャスト]** をクリックします。
- ブロードキャスト メッセージを送信するかどうか確認するプロンプトが表示されます。
- ステップ 5** **OK** をクリックしてメッセージを送信するか、**[キャンセル]** をクリックしてメッセージを送信せずに終了します。
-

追加情報

[P.20-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [IP Phone Messenger のエンドユーザ ステータスの検索 \(P.20-2\)](#)
- [IPPM エンドユーザのログアウト \(P.20-3\)](#)
- [ブロードキャストメッセージの送信 \(P.20-4\)](#)



IP Phone Messenger の設定

IP Phone Messenger (IPPM) の設定のウィンドウを使用して、すべての IPPM ユーザに適用する設定値を設定します。

IPPM 設定値の設定

IPPM 設定値を設定するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [IP Phone Messenger] > [設定] の順に選択します。

[IP Phone Messenger の設定 (IP Phone Messenger Settings)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 21-1 の説明に従って適切な設定値を入力します。

ステップ 3 データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

表 21-1 IP Phone Messenger の設定値

フィールド	説明
IPPM アプリケーションステータス (IPPM Application Status)	このパラメータは、アプリケーションのオンとオフを切り替えます。
アプリケーションユーザ名 (Application Username)	このパラメータは、デフォルトのアプリケーション ユーザ名を指定します。
アプリケーションパスワード (Application Password)	このパラメータは、デフォルトのアプリケーション パスワードを指定します。
最大連絡先リストサイズ (Max Contact List Size)	このパラメータは、連絡先リストの最大サイズを指定します。 範囲：0 ~ 100 件
最大インスタントメッセージ履歴サイズ (Max Instant Message History Size)	このパラメータは、履歴メッセージの最大数を指定します。 範囲：1 ~ 1000 件
サブスクリプションのタイムアウト (Subscription timeout、秒)	このパラメータは、サブスクリプションのタイムアウトを指定します。 範囲：100 ~ 86400 秒
パブリッシュのタイムアウト (Publish timeout、秒)	このパラメータは、パブリッシュのタイムアウトを指定します。 範囲：300 ~ 86400 秒



IP Phone 応答メッセージ

カスタム メッセージの追加やメッセージの表示順序の変更など、IP Phone Messenger に表示される応答メッセージを設定できます。

応答メッセージの検索

応答メッセージを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [IP Phone Messenger] > [応答メッセージ] の順に選択します。

[応答メッセージの検索と一覧表示 (Find and List Response Messages)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して応答メッセージを検索します。

ステップ 2 [応答メッセージの検索と一覧表示 (Find and List Response Messages)] ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント

データベースに登録されているすべての応答メッセージを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された応答メッセージのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致する応答メッセージをクリックします。

選択した応答メッセージがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.22-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

応答メッセージの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、応答メッセージを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- 応答メッセージを追加するには、[アプリケーション] > [IP Phone Messenger] > [応答メッセージ] の順に選択し、[新規追加] をクリックします。
- 応答メッセージを更新するには、P.22-2 の「[応答メッセージの検索](#)」の手順に従って応答メッセージを検索し、更新する応答メッセージをクリックします。

[応答メッセージの設定 (Response Message Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 メッセージのテキストを入力または変更します。

ステップ 3 メッセージの表示順序を変更するには、メッセージの隣にある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

ステップ 4 データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.22-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

応答メッセージの削除

この項では、応答メッセージの削除方法を説明します。

手順

ステップ 1 P.22-2 の「[応答メッセージの検索](#)」の手順に従い応答メッセージを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除する応答メッセージを選択します。

ステップ 3 応答メッセージを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [選択項目の削除] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下に表示される [選択項目の削除] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.22-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [応答メッセージの検索 \(P.22-2\)](#)
- [応答メッセージの設定 \(P.22-3\)](#)
- [応答メッセージの削除 \(P.22-3\)](#)



Unified Personal Communicator の設定

Unified Personal Communicator の設定のウィンドウを使用して、すべての Cisco Unified Personal Communicator ユーザに適用する設定値を設定します。

Cisco Unified Personal Communicator 設定値の設定

Unified Personal Communicator 設定値を設定するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [Unified Personal Communicator] > [設定] の順に選択します。

[Unified Personal Communicator の設定 (Unified Personal Communicator Settings)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 23-1 の説明に従って適切な設定値を入力します。

ステップ 3 Cisco Unified Personal Communicator のアトリビュート名にマッピングする、自分の環境に適切な LDAP アトリビュート名を入力します。Cisco Unified Personal Communicator のアトリビュート名とそれに対応するデフォルトの LDAP 名のリストについては、表 23-2 を参照してください。

ステップ 4 データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

表 23-1 Cisco Unified Personal Communicator の設定値

フィールド	説明
プライマリ TFTP サーバ (Primary TFTP Server)	このパラメータは、プライマリ TFTP サーバのアドレスを、完全修飾ドメイン名または IP アドレスのいずれかで指定します。 最大文字数：128
バックアップ TFTP サーバ (Backup TFTP Server)	このパラメータは、バックアップ TFTP サーバのアドレスを、完全修飾ドメイン名または IP アドレスのいずれかで指定します。 最大文字数：128

表 23-2 LDAP アトリビュートマッピング

Unified Personal Communicator のアトリビュート名	デフォルトの LDAP アトリビュート名
UID	employeenumber
LastName	sn
Nickname	nickname
Photo	jpegPhoto
DisplayName	displayName
NameSuffix	
BusinessEMail	mail
BusinessPhoneNumber	telephoneNumber
BusinessMobilePhone	mobile
BusinessFax	facsimileTelephoneNumber
HomeEMail	
HomeFax	
FirstName	givenName
MiddleName	initials
UserID	uid
Title	title
NamePrefix	
Gender	
IM	
BusinessVoiceMail	voicemail
BusinessPager	pager
BusinessOtherPhone	
HomeMobilePhone	
URL	labeledURI



ユーザ設定

ユーザ設定のウィンドウを使用して、Cisco Unified Personal Communicator のさまざまなユーザ単位の設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のユーザを検索し、個々の設定値を変更できます。

ユーザの検索

ネットワークにユーザが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザを検索することができます。特定のユーザを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [Unified Personal Communicator] > [ユーザ設定] の順に選択します。

[Unified Personal Communicator のユーザ設定の検索と一覧表示 (Unified Personal Communicator User Settings Find and List)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用してユーザを検索します。

ステップ 2 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名
- 姓
- マネージャ
- 部署名

2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたユーザのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するユーザをクリックします。

選択したユーザがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.24-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、ユーザを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のタスクを実行します。

- ユーザを更新するには、P.24-2 の「[ユーザの検索](#)」の手順に従ってユーザを検索します。

[Unified Personal Communicator のユーザ設定 (Unified Personal Communicator User Settings)]ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 24-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 データを保存してユーザをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.24-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザの設定値

表 24-1 で、ユーザ設定のパラメータについて説明します。関連する手順については、P.24-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 24-1 ユーザ設定のパラメータ

フィールド	説明
優先 CTI デバイス (Preferred CTI Device)	このパラメータは、ユーザが制御する使用可能なデバイスのドロップダウン リストを構成します。
Unity プロファイル (Unity Profile)	このパラメータは、使用可能な Cisco Unity プロファイルのドロップダウン リストを構成します。リストが空の場合は、Cisco Unified Personal Communicator の Cisco Unity プロファイルを設定する必要があります。
MeetingPlace プロファイル (MeetingPlace Profile)	このパラメータは、使用可能な Cisco MeetingPlace プロファイルのドロップダウン リストを構成します。リストが空の場合は、Cisco Unified Personal Communicator の Cisco MeetingPlace プロファイルを設定する必要があります。
CTIゲートウェイプロファイル (CTI Gateway Profile)	このパラメータは、使用可能な Cisco CTI ゲートウェイ プロファイルのドロップダウン リストを構成します。リストが空の場合は、Cisco Unified Personal Communicator の Cisco CTI ゲートウェイ プロファイルを設定する必要があります。
LDAP プロファイル (LDAP Profile)	このパラメータは、使用可能な Cisco LDAP プロファイルのドロップダウン リストを構成します。リストが空の場合は、Cisco Unified Personal Communicator の Cisco LDAP プロファイルを設定する必要があります。
SIP プロキシプロファイル (SIP Proxy Profile)	このパラメータは、SIP プロキシ プロファイルのドロップダウン リストを構成しますが、空の場合もあります。

ユーザの削除

この項では、ユーザの削除方法を説明します。

手順

-
- ステップ 1** P.24-2 の「[ユーザの検索](#)」の手順に従いユーザを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するユーザを選択します。
- ステップ 3** ユーザを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [[選択項目の削除](#)] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [[選択項目の削除](#)] ボタンをクリックします)。

ユーザが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、そのユーザが削除されます。ユーザが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.24-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ユーザの検索 \(P.24-2\)](#)
- [ユーザの設定 \(P.24-3\)](#)
- [ユーザの削除 \(P.24-5\)](#)



Unity サーバ

Cisco Unity サーバのウィンドウを使用して、Cisco Unity に関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のサーバを検索し、個々の設定値を変更できます。

Cisco Unity サーバの検索

ネットワークに Cisco Unity サーバが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定の Cisco Unity サーバを検索することができます。

特定の Cisco Unity サーバを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [Unified Personal Communicator] > [Unity サーバ] の順に選択します。

[Unity ホストの検索と一覧表示 (Find and List Unity Hosts)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して Cisco Unity ホストを検索します。

ステップ 2 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名前
- 説明
- ホスト名 / IP アドレス
- ポート

2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての Cisco Unity ホストを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された Cisco Unity ホストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致する Cisco Unity ホストをクリックします。

選択した Cisco Unity ホストがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.25-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unity ホストの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、Cisco Unity ホストを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- ホストを追加するには、[**アプリケーション**] > [**Unified Personal Communicator**] > [**Unity サーバ**] の順に選択し、[**新規追加**] をクリックします。
- Cisco Unity ホストを更新するには、P.25-2 の「[Cisco Unity サーバの検索](#)」の手順に従ってホストを検索します。

[Unity ホストの設定 (Unity Host Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [表 25-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 データを保存して Cisco Unity ホストをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [**保存**] アイコンをクリックします（または、ウィンドウの下部に表示される [**保存**] ボタンをクリックします）。

追加情報

P.25-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unity サーバの設定値

表 25-1 で、Unity サーバの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.25-5 の「関連項目」を参照してください。

表 25-1 Cisco Unity サーバの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、Cisco Unity ホストの名前を指定します。 最大文字数：128
説明	このパラメータは、Cisco Unity サーバの一般的な説明を示します。
ホスト名 /IP アドレス	このパラメータは、Cisco Unity ホストのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート	このパラメータは、Cisco Unity サーバに対して設定されるポート番号を指定します。 デフォルト：143
プロトコルタイプ (Protocol Type)	このパラメータは、Cisco Unity サーバへ接続する場合に使用するプロトコルを指定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • TCP • UDP • TLS デフォルト：UDP

Cisco Unity サーバの削除

この項では、Cisco Unity サーバの削除方法を説明します。

手順

- ステップ 1** P.25-2 の「Cisco Unity サーバの検索」の手順に従いサーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する Cisco Unity サーバを選択します。
- ステップ 3** Cisco Unity サーバを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [選択項目の削除] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [選択項目の削除] ボタンをクリックします)。

Cisco Unity サーバが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、その Cisco Unity サーバが削除されます。Cisco Unity サーバが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.25-5 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [Cisco Unity サーバの検索 \(P.25-2\)](#)
- [Cisco Unity ホストの設定 \(P.25-3\)](#)
- [Cisco Unity サーバの削除 \(P.25-4\)](#)



Unity プロファイル

Cisco Unity プロファイルのウィンドウを使用して、プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、プロファイルに関連付けられているユーザなど、Cisco Unity に関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のプロファイルを検索し、個々の設定値を変更できます。

Cisco Unity プロファイルの検索

ネットワークに Cisco Unity プロファイルが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて、特定の Cisco Unity プロファイルを検索することができます。特定の Cisco Unity プロファイルを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [Unified Personal Communicator] > [Unity プロファイル] の順に選択します。

[Unity プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Unity Profiles)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して Cisco Unity プロファイルを検索します。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての Cisco Unity プロファイルを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された Cisco Unity プロファイルが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致する Cisco Unity プロファイルをクリックします。

選択した Cisco Unity プロファイルがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.26-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unity プロファイルの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、Cisco Unity プロファイルを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- Cisco Unity プロファイルを追加するには、[**アプリケーション**] > [**Unified Personal Communicator**] > [**Unity プロファイル**] の順に選択し、[**新規追加**] をクリックします。
- Cisco Unity プロファイルを更新するには、P.26-2 の「Cisco Unity プロファイルの検索」の手順に従ってプロファイルを検索します。

[Unity プロファイルの設定 (Unity Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 26-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 ユーザと Cisco Unity プロファイルを関連付けるには、[**プロファイルにユーザを追加**] をクリックします。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名
- ミドルネーム
- 姓
- ユーザ ID
- 部署名

ステップ 5 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 6 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[**検索**] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [**検索**] をクリックします。

検出されたユーザのリストが表示されます。

- ステップ 7** レコードのリストから、Cisco Unity プロファイルに追加するユーザをクリックするか、または [すべてを選択] をクリックします。
- ステップ 8** ユーザを Cisco Unity プロファイルへ追加するには、[選択項目の追加] をクリックします。
- ステップ 9** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで、[閉じる] をクリックします。
- ステップ 10** データを保存して Cisco Unity プロファイルをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.26-5 の「関連項目」を参照してください。

Cisco Unity プロファイルの設定値

表 26-1 で、Unity プロファイルの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.26-5 の「関連項目」を参照してください。

表 26-1 Cisco Unity プロファイルの設定パラメータ

フィールド	説明
名前 (Name)	このパラメータは、Cisco Unity プロファイルの名前を指定します。 最大文字数：128
説明 (Description)	このパラメータは、Cisco Unity プロファイルの一般的な説明を示します。 最大文字数：128
音声メッセージングパイロット (Voice Messaging Pilot)	このパラメータは、Cisco Unity プロファイルに関連付ける音声メッセージングパイロットを指定します。ドロップダウン リストから No Voice Mail を選択することもできます。
プライマリ Unity サーバ (Primary Unity Server)	このパラメータは、プライマリ Cisco Unity サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済みの Cisco Unity サーバから選択できます。
バックアップ Unity サーバ (Backup Unity Server)	このパラメータは、バックアップ Cisco Unity サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済みの Cisco Unity サーバから選択できます。バックアップ Cisco Unity サーバは 2 つ指定できます。

Cisco Unity プロファイルの削除

この項では、Cisco Unity プロファイルの削除方法を説明します。

手順

- ステップ 1** P.26-2 の「[Cisco Unity プロファイルの検索](#)」の手順に従い Cisco Unity プロファイルを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する Cisco Unity プロファイルを選択します。
- ステップ 3** Cisco Unity プロファイルを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [**選択項目の削除**] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [**選択項目の削除**] ボタンをクリックします)。

Cisco Unity プロファイルが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、その Cisco Unity プロファイルが削除されます。Cisco Unity プロファイルが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.26-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [Cisco Unity プロファイルの検索 \(P.26-2\)](#)
- [Cisco Unity プロファイルの設定 \(P.26-3\)](#)
- [Cisco Unity プロファイルの削除 \(P.26-5\)](#)



MeetingPlace サーバ

Cisco MeetingPlace サーバのウィンドウを使用して、Cisco MeetingPlace に関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のサーバを検索し、個々の設定値を変更できます。

Cisco MeetingPlace サーバの検索

ネットワークに Cisco MeetingPlace サーバが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定の Cisco MeetingPlace サーバを検索することができます。特定の Cisco MeetingPlace サーバを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] [Unified Personal Communicator] [MeetingPlace サーバ] の順に選択します。

[MeetingPlace ホストの検索と一覧表示 (Find and List MeetingPlace Hosts)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して Cisco MeetingPlace ホストを検索します。

ステップ 2 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名前
- 説明
- ホスト名 / IP アドレス
- ポート

2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての Cisco MeetingPlace ホストを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された Cisco MeetingPlace ホストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致する Cisco MeetingPlace ホストをクリックします。

選択した Cisco MeetingPlace ホストがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.27-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco MeetingPlace サーバの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、Cisco MeetingPlace ホストを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- Cisco MeetingPlace サーバを追加するには、[[アプリケーション](#)] > [[Unified Personal Communicator](#)] > [[MeetingPlace サーバ](#)] の順に選択し、[[新規追加](#)] をクリックします。
- Cisco MeetingPlace サーバを更新するには、P.27-2 の「[Cisco MeetingPlace サーバの検索](#)」の手順に従ってホストを検索します。

[MeetingPlace ホストの設定 (MeetingPlace Host Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [表 27-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 データを保存して Cisco MeetingPlace サーバをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [[保存](#)] アイコンをクリックします（または、ウィンドウの下部に表示される [[保存](#)] ボタンをクリックします）。

追加情報

P.27-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco MeetingPlace サーバの設定値

表 27-1 で、Cisco MeetingPlace サーバの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.27-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 27-1 Cisco MeetingPlace サーバの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、Cisco MeetingPlace サーバの名前を指定します。 最大文字数：128
説明	このパラメータは、Cisco MeetingPlace サーバの一般的な説明を示します。 最大文字数：128
ホスト名/IP アドレス	このパラメータは、Cisco MeetingPlace ホストのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート	このパラメータは、Cisco MeetingPlace サーバに対して設定されるポート番号を指定します。 デフォルト：80
プロトコル (Protocol)	このパラメータは、Cisco MeetingPlace サーバへ接続する場合に使用するプロトコルを指定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • HTTP • HTTPS デフォルト：HTTP

Cisco MeetingPlace サーバの削除

この項では、Cisco MeetingPlace サーバの削除方法を説明します。

手順

- ステップ 1** P.27-2 の「[Cisco MeetingPlace サーバの検索](#)」の手順に従い Cisco MeetingPlace サーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する Cisco MeetingPlace サーバを選択します。
- ステップ 3** Cisco MeetingPlace サーバを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される[[選択項目の削除](#)]アイコンをクリックします(または、ウィンドウの下部に表示される[[選択項目の削除](#)]ボタンをクリックします)。

Cisco MeetingPlace サーバが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、その Cisco MeetingPlace サーバが削除されます。Cisco MeetingPlace サーバが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.27-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [Cisco MeetingPlace サーバの検索 \(P.27-2 \)](#)
- [Cisco MeetingPlace サーバの設定 \(P.27-3 \)](#)
- [Cisco MeetingPlace サーバの削除 \(P.27-4 \)](#)



MeetingPlace プロファイル

Cisco MeetingPlace プロファイルのウィンドウを使用して、プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、プロファイルに関連づけられているユーザなど、Cisco MeetingPlace に関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のプロファイルを検索し、個々の設定値を変更できます。

Cisco MeetingPlace プロファイルの検索

ネットワークに Cisco MeetingPlace プロファイルが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定の Cisco MeetingPlace プロファイルを検索することができます。特定の Cisco MeetingPlace プロファイルを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [Unified Personal Communicator] > [MeetingPlace プロファイル] の順に選択します。

[MeetingPlace プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List MeetingPlace Profiles)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して Cisco MeetingPlace プロファイルを検索します。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての Cisco MeetingPlace プロファイルを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された Cisco MeetingPlace プロファイルが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致する Cisco MeetingPlace プロファイルをクリックします。

選択した Cisco MeetingPlace プロファイルがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.28-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco MeetingPlace プロファイルの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、Cisco MeetingPlace プロファイルを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- Cisco MeetingPlace プロファイルを追加するには、[**アプリケーション**] > [**Unified Personal Communicator**] > [**MeetingPlace プロファイル**] の順に選択し、[**新規追加**] をクリックします。
- Cisco MeetingPlace プロファイルを更新する場合、P.28-2 の「**Cisco MeetingPlace プロファイルの検索**」の手順に従ってプロファイルを検索します。

[MeetingPlace プロファイルの設定 (MeetingPlace Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 28-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 ユーザと Cisco MeetingPlace プロファイルを関連付けるには、[**プロファイルにユーザを追加**] をクリックします。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名
- ミドルネーム
- 姓
- ユーザ ID
- 部署名

ステップ 5 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 6 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[**検索**] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [**検索**] をクリックします。

検出されたユーザのリストが表示されます。

- ステップ 7** レコードのリストから、Cisco MeetingPlace プロファイルに追加するユーザをクリックするか、または [すべてを選択] をクリックします。
- ステップ 8** ユーザを Cisco MeetingPlace プロファイルへ追加するには、[選択項目の追加] をクリックします。
- ステップ 9** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで [閉じる] をクリックします。
- ステップ 10** データを保存して Cisco MeetingPlace プロファイルをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.28-5 の「関連項目」を参照してください。

Cisco MeetingPlace プロファイルの設定値

表 28-1 で、Cisco MeetingPlace プロファイルの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.28-5 の「関連項目」を参照してください。

表 28-1 Cisco MeetingPlace プロファイルの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、Cisco MeetingPlace プロファイルの名前を指定します。 最大文字数：128
説明	このパラメータは、Cisco MeetingPlace プロファイルの一般的な説明を示します。 最大文字数：128
プライマリ MeetingPlace サーバ (Primary MeetingPlace Server)	このパラメータは、プライマリ Cisco MeetingPlace サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済みの Cisco MeetingPlace サーバから選択できます。
バックアップ MeetingPlace サーバ (Backup MeetingPlace Server)	このパラメータは、バックアップ Cisco MeetingPlace サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済みの Cisco MeetingPlace サーバから選択できます。バックアップ Cisco MeetingPlace サーバは 2 つ指定できます。

Cisco MeetingPlace プロファイルの削除

この項では、Cisco MeetingPlace プロファイルの削除方法を説明します。

手順

- ステップ 1** P.28-2 の「[Cisco MeetingPlace プロファイルの検索](#)」の手順に従い Cisco MeetingPlace プロファイルを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する Cisco MeetingPlace プロファイルを選択します。
- ステップ 3** プロファイルを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [**選択項目の削除**] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [**選択項目の削除**] ボタンをクリックします)。

Cisco MeetingPlace プロファイルが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、その Cisco MeetingPlace プロファイルが削除されます。Cisco MeetingPlace プロファイルが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.28-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [Cisco MeetingPlace プロファイルの検索 \(P.28-2\)](#)
- [Cisco MeetingPlace プロファイルの設定 \(P.28-3\)](#)
- [Cisco MeetingPlace プロファイルの削除 \(P.28-5\)](#)



CTI ゲートウェイ サーバ

CTI ゲートウェイ サーバのウィンドウを使用して、CTI ゲートウェイに関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のサーバを検索し、個々の設定値を変更できます。

CTI ゲートウェイ サーバの検索

ネットワークに CTI ゲートウェイ サーバが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定の CTI ゲートウェイ サーバを検索することができます。特定の CTI ゲートウェイ サーバを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイサーバ] の順に選択します。

[CTI ゲートウェイホストの検索と一覧表示 (Find and List CTI Gateway Hosts)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して CTI ゲートウェイ ホストを検索します。

ステップ 2 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名前
- 説明
- ホスト名 /IP アドレス
- ポート

2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての CTI ゲートウェイ ホストを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された CTI ゲートウェイ ホストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致する CTI ゲートウェイ ホストをクリックします。

選択した CTI ゲートウェイ ホストがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.29-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

CTI ゲートウェイ サーバの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで CTI ゲートウェイ ホストを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- CTI ゲートウェイを追加するには、[[アプリケーション](#)] > [[Unified Personal Communicator](#)] > [[CTI ゲートウェイサーバ](#)] の順に選択し、[[新規追加](#)] をクリックします。
- CTI ゲートウェイ ホストを更新する場合、P.29-2 の「[CTI ゲートウェイ サーバの検索](#)」の手順に従ってホストを検索します。

[CTI ゲートウェイホストの設定 (CTI Gateway Host Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [表 29-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 データを保存して CTI ゲートウェイ ホストをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [[保存](#)] アイコンをクリックします（または、ウィンドウの下に表示される [[保存](#)] ボタンをクリックします）。

追加情報

P.29-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

CTI ゲートウェイ サーバの設定値

表 29-1 で、CTI ゲートウェイの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.29-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 29-1 CTI ゲートウェイ サーバの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、CTI ゲートウェイ サーバの名前を指定します。
説明	このパラメータは、CTI ゲートウェイ サーバの一般的な説明を示します。
ホスト名 /IP アドレス	このパラメータは、CTI ゲートウェイ ホストのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート	このパラメータは、CTI ゲートウェイ サーバに対して設定されるポート番号を指定します。 デフォルト：2748
プロトコルタイプ (Protocol Type)	このパラメータは、CTI ゲートウェイ サーバへ接続する場合に使用するプロトコルを指定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • TCP • TLS デフォルト：TCP

CTI ゲートウェイ サーバの削除

この項では、CTI ゲートウェイ サーバの削除方法を説明します。

手順

-
- ステップ 1** P.29-2 の「[CTI ゲートウェイ サーバの検索](#)」の手順に従い CTI ゲートウェイ サーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する CTI ゲートウェイ サーバを選択します。
- ステップ 3** CTI ゲートウェイを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [[選択項目の削除](#)] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [[選択項目の削除](#)] ボタンをクリックします)。

CTI ゲートウェイ サーバが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、その CTI ゲートウェイ サーバが削除されます。CTI ゲートウェイ サーバが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.29-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [CTI ゲートウェイ サーバの検索 \(P.29-2\)](#)
- [CTI ゲートウェイ サーバの設定 \(P.29-3\)](#)
- [CTI ゲートウェイ サーバの削除 \(P.29-5\)](#)



CTI ゲートウェイ プロファイル

CTI ゲートウェイ プロファイルのウィンドウを使用して、プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、プロファイルに関連付けられているユーザなど、CTI ゲートウェイ に関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のプロファイルを検索し、個々の設定値を変更できます。

CTI ゲートウェイ プロファイルの検索

ネットワークに CTI ゲートウェイ プロファイルが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定の CTI ゲートウェイ プロファイルを検索することができます。特定の CTI ゲートウェイ プロファイルを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイプロファイル] の順に選択します。

[CTI ゲートウェイプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List CTI Gateway Profiles)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して CTI ゲートウェイ プロファイルを検索します。

ステップ 2 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名前
- 説明

ステップ 3 ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての CTI ゲートウェイ プロファイルを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された CTI ゲートウェイ プロファイルが表示されます。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件に一致する CTI ゲートウェイ プロファイルをクリックします。

選択した CTI ゲートウェイ プロファイルがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.30-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

CTI ゲートウェイ プロファイルの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、CTI ゲートウェイ プロファイルを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- CTI ゲートウェイ プロファイルを追加するには、[[アプリケーション](#)] > [[Unified Personal Communicator](#)] > [[CTI ゲートウェイプロファイル](#)] の順に選択し、[[新規追加](#)] をクリックします。
- CTI ゲートウェイ プロファイルを更新するには、P.30-2 の「[CTI ゲートウェイ プロファイルの検索](#)」の手順に従ってプロファイルを検索します。

[[CTI ゲートウェイプロファイルの設定 \(CTI Gateway Profile Configuration\)](#)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [表 30-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 ユーザと CTI ゲートウェイ プロファイルを関連付けるには、[[プロファイルにユーザを追加](#)] をクリックします。

[[ユーザの検索と一覧表示 \(Find and List Users\)](#)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名
- ミドルネーム
- 姓
- ユーザ ID
- 部署名

ステップ 5 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

■ CTI ゲートウェイ プロファイルの設定値

ステップ 6 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[**検索**] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザ プロファイルを検索するには、検索テキストを入力せずに [**検索**] をクリックします。

検出されたユーザ プロファイルのリストが表示されます。

ステップ 7 レコードのリストから、CTI ゲートウェイ プロファイルに追加するユーザをクリックするか、または [**すべてを選択**] をクリックします。

ステップ 8 ユーザを CTI ゲートウェイ プロファイルへ追加するには、[**選択項目の追加**] をクリックします。

ステップ 9 [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで [**閉じる**] をクリックします。

ステップ 10 データを保存して CTI ゲートウェイ プロファイルをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [**保存**] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [**保存**] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.30-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

CTI ゲートウェイ プロファイルの設定値

表 30-1 で、CTI ゲートウェイ プロファイルの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.30-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 30-1 CTI ゲートウェイ プロファイルの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、CTI ゲートウェイ プロファイルの名前を指定します。
説明	このパラメータは、CTI ゲートウェイ プロファイルの一般的な説明を示します。
プライマリ CTI ゲートウェイサーバ (Primary CTI Gateway Server)	このパラメータは、プライマリ CTI ゲートウェイ サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済みの CTI ゲートウェイ サーバから選択できます。
バックアップ CTI ゲートウェイサーバ (Backup CTI Gateway Server)	このパラメータは、バックアップ CTI ゲートウェイ サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済みの CTI ゲートウェイ サーバから選択できます。バックアップ CTI ゲートウェイ サーバは 2 つ指定できます。

CTI ゲートウェイ プロファイルの削除

この項では、CTI ゲートウェイ プロファイルの削除方法を説明します。

手順

-
- ステップ 1** [P.30-2 の「CTI ゲートウェイ プロファイルの検索」](#)の手順に従い CTI ゲートウェイ プロファイルを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する CTI ゲートウェイ プロファイルを選択します。
- ステップ 3** CTI ゲートウェイ プロファイルを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [**選択項目の削除**] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [**選択項目の削除**] ボタンをクリックします)。

CTI ゲートウェイ プロファイルが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server によりその CTI ゲートウェイ プロファイルが削除されます。CTI ゲートウェイ プロファイルが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

[P.30-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [CTI ゲートウェイ プロファイルの検索 \(P.30-2 \)](#)
- [CTI ゲートウェイ プロファイルの設定 \(P.30-3 \)](#)
- [CTI ゲートウェイ プロファイルの削除 \(P.30-5 \)](#)



LDAP サーバ

LDAP サーバのウィンドウを使用して、LDAP サーバに関する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のサーバを検索し、個々の設定値を変更できます。

LDAP サーバの検索

ネットワークに複数の LDAP サーバが存在する場合がありますため、Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定の LDAP サーバを検索することができます。特定の LDAP サーバを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [Unified Personal Communicator] > [LDAP サーバ] の順に選択します。

[LDAP ホストの検索と一覧表示 (Find and List Ldap Hosts)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して LDAP ホストを検索します。

ステップ 2 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名前
- 説明
- ホスト名 / IP アドレス
- ポート

2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての LDAP ホストを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された LDAP ホストのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致する LDAP ホストをクリックします。

選択した LDAP ホストがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.31-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

LDAP サーバの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、LDAP ホストを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- LDAP サーバを追加するには、[**アプリケーション**] > [**Unified Personal Communicator**] > [**LDAP サーバ**] の順に選択し、[**新規追加**] をクリックします。
- LDAP ホストを更新するには、P.31-2 の「[LDAP サーバの検索](#)」の手順に従ってホストを検索します。

[LDAP ホストの設定 (Ldap Host Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [表 31-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 データを保存して LDAP ホストをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [**保存**] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [**保存**] ボタンをクリックします)。

追加情報

P.31-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

LDAP サーバの設定値

表 31-1 で、LDAP の設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.31-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 31-1 LDAP サーバの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、LDAP サーバの名前を指定します。
説明	このパラメータは、LDAP サーバの一般的な説明を示します。
ホスト名 / IP アドレス	このパラメータは、LDAP サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート	このパラメータは、LDAP サーバに対して設定されるポート番号を指定します。 デフォルトのポート番号：389
プロトコルタイプ (Protocol Type)	このパラメータは、LDAP サーバへ接続する場合に使用するプロトコルを指定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • TCP • UDP • TLS デフォルト：TCP

LDAP サーバの削除

この項では、LDAP サーバの削除方法を説明します。

手順

-
- ステップ 1** P.31-2 の「[LDAP サーバの検索](#)」の手順に従い LDAP サーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する LDAP サーバを選択します。
- ステップ 3** LDAP サーバを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [[選択項目の削除](#)] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [[選択項目の削除](#)] ボタンをクリックします)。

LDAP サーバが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、その LDAP サーバが削除されます。LDAP サーバが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.31-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [LDAP サーバの検索 \(P.31-2\)](#)
- [LDAP サーバの設定 \(P.31-3\)](#)
- [LDAP サーバの削除 \(P.31-4\)](#)



LDAP プロファイル

LDAP プロファイルのウィンドウを使用して、LDAP のディレクトリ情報、LDAP の検索コンテキスト情報、LDAP サーバの情報、およびプロファイルに関連付けられるユーザなどを設定します。このウィンドウを使用して特定のプロファイルを検索し、個々の設定値を変更できます。

LDAP プロファイルの検索

ネットワークに複数の LDAP プロファイルが存在する場合がありますため、Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定の LDAP プロファイルを検索することができます。特定の LDAP プロファイルを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] [Unified Personal Communicator] [LDAP プロファイル] の順に選択します。

[LDAP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Ldap Profiles)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して LDAP プロファイルを検索します。

ステップ 2 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名前
- 説明

ステップ 3 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての LDAP プロファイルを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された LDAP プロファイルのリストが表示されます。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件に一致する LDAP プロファイルをクリックします。

選択した LDAP プロファイルがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.32-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

LDAP プロファイルの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、LDAP プロファイルを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- LDAP プロファイルを追加するには、[**アプリケーション**] > [**Unified Personal Communicator**] > [**LDAP プロファイル**] の順に選択し、[**新規追加**] をクリックします。
- LDAP プロファイルを更新するには、P.32-2 の「**LDAP プロファイルの検索**」の手順に従ってプロファイルを検索します。

[LDAP プロファイルの設定 (LDAP Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 32-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 読み取り専用アクセスでの匿名ログインをユーザに許可するには、[**Anonymous バインド (Anonymous Bind)**] チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 検索ベースで始まるディレクトリの再帰検索を実行するには、[**再帰検索 (Recursive Search)**] チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 ユーザと LDAP プロファイルを関連付けるには、[**プロファイルにユーザを追加**] をクリックします。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名
- ミドルネーム
- 姓
- ユーザ ID
- 部署名

ステップ 7 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 8 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**[検索]** をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに **[検索]** をクリックします。

検出されたユーザのリストが表示されます。

ステップ 9 レコードのリストから、LDAP プロファイルに追加するユーザをクリックするか、または **[すべてを選択]** をクリックします。

ステップ 10 ユーザを LDAP プロファイルへ追加するには、**[選択項目の追加]** をクリックします。

ステップ 11 [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで **[閉じる]** をクリックします。

ステップ 12 データを保存して LDAP プロファイルをデータベース プロファイルに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される **[保存]** アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される **[保存]** ボタンをクリックします)。

追加情報

P.32-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

LDAP プロファイルの設定値

表 32-1 で、LDAP プロファイルの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.32-6 の「関連項目」を参照してください。

表 32-1 LDAP プロファイルの設定パラメータ

フィールド	説明
LDAP プロファイル情報 (LDAP Profile Information)	
名前	このパラメータは、LDAP プロファイルの名前を指定します。 最大文字数：128
説明	このパラメータは、LDAP プロファイルの一般的な説明を示します。 最大文字数：128
LDAP ディレクトリ情報 (LDAP Directory Information)	
識別名 (DN) をバインド (Bind Distinguished Name(DN))	このパラメータは、管理者レベルのアカウント情報を <i>useraccount@domain.com</i> の形式で指定します。これは、認証済みバインドに対する識別名 (DN) です。 最大文字数：128
パスワード (Password)	このパラメータは、LDAP 管理者のユーザ名に対するパスワードを指定します。 最大文字数：128
パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数のみ)	このパラメータは、LDAP 管理者のユーザ名に対するパスワードを確認します。 最大文字数：128
Anonymous バインド (Anonymous Bind)	[Anonymous バインド (Anonymous Bind)] チェックボックスをオンにすると、ユーザはこの LDAP サーバに読み取り専用アクセスで匿名ログインできます。ユーザの資格情報を使用して LDAP サーバにログインするには、このチェックボックスをオフにします。
LDAP 検索コンテキスト情報 (LDAP Search Context Information)	
検索コンテキスト (Search Context)	このパラメータは、すべての LDAP ユーザが存在する場所を、コンテナまたはディレクトリで指定します。 最大文字数：128
再帰検索 (Recursive Search)	検索ベースで始まるディレクトリの再帰検索を実行するには、[再帰検索 (Recursive Search)] チェックボックスをオンにします。
LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)	
プライマリ LDAP サーバ (Primary Ldap Server)	このパラメータは、プライマリ LDAP サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済みの LDAP サーバから選択できます。
バックアップ LDAP サーバ (Backup Ldap Server)	このパラメータは、バックアップ LDAP サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済みの LDAP サーバから選択できます。バックアップ LDAP サーバは 2 つ指定できます。

LDAP プロファイルの削除

この項では、LDAP プロファイルの削除方法を説明します。

手順

-
- ステップ 1** P.32-2 の「LDAP プロファイルの検索」の手順に従い LDAP プロファイルを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する LDAP プロファイルを選択します。
- ステップ 3** プロファイルを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [選択項目の削除] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [選択項目の削除] ボタンをクリックします)。

LDAP プロファイルが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、その LDAP プロファイルが削除されます。LDAP プロファイルが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.32-6 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- LDAP プロファイルの検索 (P.32-2)
- LDAP プロファイルの設定 (P.32-3)
- LDAP プロファイルの削除 (P.32-6)



プロキシ プロファイル

プロキシ プロファイルのウィンドウを使用して、プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、プロファイルに関連付けられているユーザなど、SIP プロキシ サーバに関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のプロファイルを検索し、個々の設定値を変更できます。

プロキシ プロファイルの検索

ネットワークに複数のプロキシ プロファイルが存在する場合があるため、Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定のプロキシ プロファイルを検索することができます。特定のプロキシ プロファイルを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [Unified Personal Communicator] > [プロキシプロファイル] の順に選択します。

[プロキシプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Proxy Profiles)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用してプロキシ プロファイルを検索します。

ステップ 2 最初のドロップダウン ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名前
- 説明

ステップ 3 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのプロキシ プロファイルを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたプロキシ プロファイルのリストが表示されます。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件に一致するプロキシ プロファイルをクリックします。

選択したプロキシ プロファイルがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.33-5 の「関連項目」を参照してください。

プロキシ プロファイルの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server データベースで、プロキシ プロファイルを追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのタスクを実行します。

- プロキシ プロファイルを追加するには、[**アプリケーション**] > [**Unified Personal Communicator**] > [**プロキシプロファイル**] の順に選択し、[**新規追加**] をクリックします。
- プロキシ プロファイルを更新する場合、P.33-2 の「**プロキシ プロファイルの検索**」の手順に従ってプロファイルを検索します。

[**プロキシプロファイルの設定 (Proxy Profile Configuration)**] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 33-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 ユーザとプロキシ プロファイルを関連付けるには、[**プロファイルにユーザを追加**] をクリックします。

[**ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)**] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名
- ミドルネーム
- 姓
- ユーザ ID
- 部署名

ステップ 5 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 6 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[**検索**] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [**検索**] をクリックします。

検出されたユーザのリストが表示されます。

■ プロキシ プロファイルの設定値

- ステップ 7** レコードのリストから、プロキシ プロファイルに追加するユーザをクリックするか、または[すべてを選択]をクリックします。
- ステップ 8** ユーザをプロキシ プロファイルへ追加するには、[選択項目の追加]をクリックします。
- ステップ 9** [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで[閉じる]をクリックします。
- ステップ 10** データを保存してプロキシ プロファイルをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される[保存]アイコンをクリックします(または、ウィンドウの下に表示される[保存]ボタンをクリックします)。

追加情報

P.33-5 の「関連項目」を参照してください。

プロキシ プロファイルの設定値

表 33-1 で、プロキシ プロファイルの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.33-5 の「関連項目」を参照してください。

表 33-1 プロキシ プロファイルの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、プロキシ プロファイルの名前を指定します。
説明	このパラメータは、プロキシ プロファイルの一般的な説明を示します。
プロキシリスナー (Proxy Listener)	このパラメータは、プロキシ リスナーを指定します。ドロップダウンメニューから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> Default Cisco SIP Proxy TCP Listener Default Cisco SIP Proxy TLS Listener-Peer Auth Default Cisco SIP Proxy TLS Listener-Server Auth Default Cisco SIP Proxy UDP Listener
プライマリプロキシサーバ (Primary Proxy Server)	このパラメータは、プライマリ プロキシ サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済みのプロキシ サーバから選択できます。
バックアッププロキシサーバ (Backup Proxy Server)	このパラメータは、バックアップ プロキシ サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済みのプロキシ サーバから選択できます。バックアップ プロキシ サーバは 2 つ指定できます。

プロキシ プロファイルの削除

この項では、プロキシ プロファイルの削除方法を説明します。

手順

-
- ステップ 1** P.33-2 の「[プロキシ プロファイルの検索](#)」の手順に従いプロキシ プロファイルを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するプロキシ プロファイルを選択します。
- ステップ 3** プロファイルを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [[選択項目の削除](#)] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [[選択項目の削除](#)] ボタンをクリックします)。

プロキシ プロファイルが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence Server により、そのプロキシ プロファイルが削除されます。プロキシ プロファイルが使用中の場合は、メッセージが表示されません。

追加情報

P.33-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [プロキシ プロファイルの検索](#) (P.33-2)
- [プロキシ プロファイルの設定](#) (P.33-3)
- [プロキシ プロファイルの削除](#) (P.33-5)



CTI ゲートウェイの設定

CTI (Computer Telephony Interface) ゲートウェイの設定のウィンドウを使用して、CTI ゲートウェイに適用する設定値を設定します。

CTI ゲートウェイの設定値の設定

CTI ゲートウェイの設定値を設定するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 [アプリケーション]>[CTI ゲートウェイ]>[設定]の順に選択します。

[CTI ゲートウェイ設定 (CTI Gateway Settings)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 表 34-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 3 データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

表 34-1 CTI ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
アプリケーションのステータス (Application Status)	CTI ゲートウェイ アプリケーションのオンとオフを切り替えるには、ドロップダウン リスト ボックスから [オン] または [オフ] を選択します。
アプリケーションユーザ名 (Application Username)	このパラメータは、CTI ゲートウェイ アプリケーションのユーザ名を指定します。  (注) このユーザ名は、Cisco Unified CallManager クラスタで設定したアプリケーション ユーザ名と一致する必要があります。
アプリケーションパスワード (Application Password)	このパラメータは、CTI ゲートウェイ アプリケーションのパスワードを指定します。  (注) このパスワードは、Cisco Unified CallManager クラスタで設定したアプリケーションのパスワードと一致する必要があります。
CTI アドレス (CTI Address)	このパラメータは、CTI ゲートウェイの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名を指定します。
CTI アドレス (CTI Address、フェールオーバー)	このパラメータは、フェールオーバー CTI ゲートウェイの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名を指定します。  (注) フェールオーバー CTI アドレスはプライマリ CTI アドレスと同じにしないでください。

表 34-1 CTI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
ハートビート間隔 (Heartbeat Interval、秒)	このパラメータは、ハートビート間隔を秒単位で指定します。 範囲：5 ~ 20 秒 デフォルト：8 秒
セッションタイマー (Session Timer、秒)	このパラメータは、セッション タイマーの値を秒単位で指定します。 範囲：1810 ~ 2000 秒 デフォルト：1810 秒

関連項目

[CTI ゲートウェイの設定値の設定 \(P.34-2\)](#)



MOC 割り当て

MOC 割り当てのウィンドウを使用して、Microsoft Office Communicator (MOC) の機能を持つ Cisco Unified Presence Server ユーザを表示します。MOC 機能は、ユーザ単位で、または一括割り当ての機能を使用して、有効または無効にできます。

MOC 割り当ての検索および設定

ネットワークに MOC 機能を持つユーザが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザを検索することができます。MOC 機能を持つユーザを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻る、あるいは、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence Server の検索の設定がシステムで維持されます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [CTI ゲートウェイ] > [MOC 割り当て] の順に選択します。

[MOC 割り当ての検索と一覧表示 (Find and List MOC Assignments)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して MOC 機能を持つユーザを検索します。

ステップ 2 MOC 割り当てのドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- ユーザ ID
- 姓
- マネージャ
- 部署名

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての MOC 割り当てを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたユーザのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するユーザ ID をクリックします。

選択したユーザがウィンドウに表示されます。

ステップ 5 ユーザの MOC 機能を有効または無効にするには、[MOC を有効化 (Microsoft Office Communicator)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 6 [保存] をクリックします。

追加情報

P.35-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

一括割り当ての使用

複数ユーザの MOC 機能を有効または無効にするには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [CTI ゲートウェイ] > [MOC 割り当て] の順に選択します。

[MOC 割り当ての検索と一覧表示 (Find and List MOC Assignments)] ウィンドウが表示されます。
2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して MOC 機能を持つユーザを検索します。

ステップ 2 MOC 割り当てのドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- ユーザ ID
- 姓
- マネージャ
- 部署名

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての MOC 割り当てを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたユーザのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するユーザのチェックボックスをオンにするか、または [すべてを選択] をクリックします。

ステップ 5 [一括割り当て] をクリックします。

ステップ 6 選択したユーザの MOC 割り当てを有効または無効にするには、表示されるウィンドウで [MOC を有効化 (Microsoft Office Communicator)] チェックボックスをオンまたはオフにします。

ステップ 7 [保存] をクリックするか、または選択したユーザの MOC 割り当てをそのままにする場合は [閉じる] をクリックします。

追加情報

P.35-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [MOC 割り当ての検索および設定 \(P.35-2\)](#)
- [一括割り当ての使用 \(P.35-3\)](#)



PART 5

ユーザ管理





アプリケーション ユーザの設定

Cisco Unified Presence Server の管理ページでアプリケーション ユーザの設定のウィンドウを使用すると、管理者は、Cisco Unified Presence Server アプリケーション ユーザに関する情報の追加、検索、表示、および保守を行うことができます。

次のトピックには、アプリケーション ユーザ情報の管理に関する情報が含まれています。

- [アプリケーション ユーザの検索 \(P.36-2\)](#)
- [アプリケーション ユーザの追加 \(P.36-4\)](#)
- [アプリケーション ユーザの設定値 \(P.36-5\)](#)
- [アプリケーション ユーザパスワードの変更 \(P.36-9\)](#)
- [アプリケーション ユーザのアプリケーション プロファイルの設定 \(P.36-9\)](#)
- [デバイスとアプリケーション ユーザの関連付け \(P.36-10\)](#)

追加情報

[P.36-11](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション ユーザの検索

ネットワークにアプリケーション ユーザが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定のアプリケーション ユーザを検索することができます。特定のアプリケーション ユーザを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、Cisco Unified Presence Server の管理ページにより、アプリケーション ユーザ検索の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻ると、検索の設定を変更するか、またはブラウザを閉じるまで、アプリケーション ユーザ検索の設定が維持されます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [アプリケーションユーザ] の順に選択します。

[アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用してアプリケーション ユーザを検索します。

ステップ 2 [アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次の検索条件を選択します。

- ユーザ ID

[アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。ページ単位で表示するアイテム数を指定することも可能です。



ヒント データベースに登録されているすべてのアプリケーション ユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたアプリケーション ユーザのリストが次の基準で表示されます。

- ユーザ ID (User ID)



(注) 対象のアプリケーション ユーザの隣にあるチェックボックスをオンにしてから [**選択項目の削除**] をクリックすると、複数のアプリケーション ユーザを [アプリケーションユーザの検索と一覧表示] ウィンドウから削除できます。[**すべてを選択**] をクリックしてから [**選択項目の削除**] をクリックすると、デフォルトのアプリケーション ユーザを除くすべてのアプリケーション ユーザをウィンドウから削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するアプリケーション ユーザ名をクリックします。

選択したアプリケーション ユーザがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.36-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション ユーザの追加

ユーザを追加するには、次の手順に従います。



(注)

Cisco Unity Administrator または Cisco Unity Connection Administrator のアプリケーション ユーザを追加する場合は、Cisco Unity Administration と Cisco Unity Connection Administration で定義したものと 同じユーザ名とパスワードを使用する必要があります。『Cisco Unified CallManager 5.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』または『Cisco Unified CallManager 5.0 SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection 2.1』を参照してください。ユーザ ID により、Cisco Unity または Cisco Unity Connection と Cisco Unified Presence Server の管理ページの間の認証が行われます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [アプリケーションユーザ] の順に選択します。

[アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用してアプリケーション ユーザを検索します。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 表 36-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 4 ユーザ情報を入力したら、[保存] をクリックして変更を保存し、ユーザを追加します。

次の手順

デバイスをアプリケーション ユーザと関連付ける場合は、「[デバイスとアプリケーション ユーザの関連付け](#)」の手順に従って作業を続けます。

追加情報

P.36-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション ユーザの設定値

表 36-1 で、アプリケーション ユーザの設定値について説明します。関連する手順については、P.36-11 の「関連項目」を参照してください。

表 36-1 アプリケーション ユーザの設定値

フィールド	説明
アプリケーションユーザ情報 (Application User Information)	
ユーザ ID(User ID)	アプリケーション ユーザの識別名を入力します。Cisco Unified Presence Server では、ユーザ ID を作成後に変更することはできません。使用できる特殊文字は、ダッシュ(-)、アンダースコア(_)、二重引用符(") および空白文字です。
パスワード (Password)	英数字または特殊文字を使って 5 文字以上のアプリケーション ユーザ パスワードを入力します。
パスワードの確認 (Confirm Password)	ユーザ パスワードを再入力します。
ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)	ダイジェスト認証中に Cisco Unified Presence Server を UAS として動作させる場合、このフィールドで指定するダイジェスト信用証明書をチャレンジに使用します。英数字の文字列を入力します。 ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
ダイジェスト信用証明書の確認 (Confirm Digest Credentials)	ダイジェスト信用証明書の入力正しいことを確認するために、このフィールドに再度信用証明書をを入力します。
プレゼンスグループ (Presence Group)	<p>プレゼンス機能を使用してこのフィールドを設定します。</p> <p> (注) プレゼンス情報を持つアプリケーション ユーザを使用しない場合、プレゼンス グループをデフォルト設定(なし)のままにしておきます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、アプリケーション ユーザの [プレゼンスグループ (Presence Group)] を選択します。選択したグループにより、IPMASysUser などのアプリケーション ユーザが監視する対象が指定されます。</p> <p>インストール時は、Standard Presence group が設定されています。Cisco Unified CallManager の管理ページで設定したプレゼンス グループも、ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携し、グループ間でのプレゼンス要求を許可または拒否します。グループ間の権限設定の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>

表 36-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
プレゼンス登録の許可 (Accept Presence Subscription)	<p>このフィールドでは、プレゼンス認可用のプレゼンス機能を設定します。</p> <p>トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] でアプリケーション レベルの認可を有効にしている場合、Cisco Unified Presence Server でアプリケーション レベルの認可が実行されます。</p> <p>Cisco Unified Presence Server で、この SIP トランク アプリケーション ユーザのプレゼンス要求の受け入れを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしている、トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスをオフにしている場合、Cisco Unified Presence Server からこのトランクに接続される SIP ユーザ エージェントに 403 エラーメッセージが送信されます。</p> <p>認可の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>
アウトオブダイアログ REFER の許可 (Accept Out-of-Dialog REFER)	<p>トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] でアプリケーション レベルの認可を有効にしている場合、Cisco Unified Presence Server でアプリケーション レベルの認可が実行されます。</p> <p>Cisco Unified Presence Server で、この SIP トランク アプリケーション ユーザからのアウトオブダイアログ REFER の受け入れを認可するには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、SIP が開始側となる転送機能や他の高度な転送機能を使用するには、Cisco Unified Presence Server にこのアプリケーション ユーザのアウトオブダイアログ REFER の受け入れを認可する必要があります。</p> <p>[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしている、トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスをオフにしている場合、Cisco Unified Presence Server からこのトランクに接続される SIP ユーザ エージェントに 403 エラーメッセージが送信されます。</p> <p>認可の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 36-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
未承諾 NOTIFY の許可 (Accept Unsolicited Notification)	<p>トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] でアプリケーション レベルの認可を有効にしている場合、Cisco Unified Presence Server でアプリケーション レベルの認可が実行されます。</p> <p>Cisco Unified Presence Server で、この SIP トランク アプリケーション ユーザからの未承諾 NOTIFY の受け入れを認可するには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、MWI をサポートする場合、Cisco Unified Presence Server でこのアプリケーション ユーザの未承諾 NOTIFY の受け入れを認可する必要があります。</p> <p>[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしている、トランクに適用される[SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスをオフにしている場合、Cisco Unified Presence Server からこのトランクに接続される SIP ユーザ エージェントに 403 エラーメッセージが送信されます。</p> <p>認可の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
REPLACE ヘッダの許可 (Accept Replaces Header)	<p>トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] でアプリケーション レベルの認可を有効にしている場合、Cisco Unified Presence Server でアプリケーション レベルの認可が実行されます。</p> <p>Cisco Unified Presence Server で、この SIP トランク アプリケーション ユーザからのメッセージのヘッダー置換の受け入れを認可するには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、在席転送の場合と同様に、SIP トランクの外線コールを外部のデバイスまたは相手へ転送する場合、このアプリケーション ユーザの REFER および INVITE に REPLACE ヘッダーを含む SIP 要求を Cisco Unified Presence Server が受け入れるよう認可する必要があります。</p> <p>[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしている、トランクに適用される[SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスをオフにしている場合、Cisco Unified Presence Server からこのトランクに接続される SIP ユーザ エージェントに 403 エラーメッセージが送信されます。</p> <p>認可の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 36-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
CAPF 情報 (CAPF Information)	
割り当てられている CAPF プロファイル (Associated CAPF Profiles)	<p>[割り当てられている CAPF プロファイル (Associated CAPF Profiles)] ペインに、アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルのインスタンス ID が表示されます。これは、そのユーザのアプリケーション ユーザ CAPF プロファイルが設定されたことを意味します。プロファイルを編集するには、インスタンス ID をクリックしてから [プロファイルの編集] をクリックします。[アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルの設定 (Application User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルの設定方法については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
デバイス情報 (Device Information)	
使用可能なデバイス (Available Devices)	<p>このリスト ボックスには、このアプリケーション ユーザとの関連付けに使用できるデバイスが表示されます。</p> <p>このアプリケーション ユーザとデバイスを関連付けるには、デバイスをクリックし、リスト ボックスの下にある下向きの矢印をクリックします。</p> <p>このアプリケーション ユーザと関連付けるデバイスがペインに表示されていない場合、次のいずれかのボタンをクリックして他のデバイスを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [別の電話を検索]: このボタンをクリックすると、このアプリケーション ユーザと関連付ける別の電話機を検索できます。[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示され、電話機の検索が可能になります。 • [別のルートポイントを検索]: このボタンをクリックすると、このアプリケーション ユーザと関連付ける別のルートポイントを検索できます。[CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示され、CTI ルートポイントの検索が可能になります。 • [別のパイロットポイントを検索]: このボタンをクリックすると、このアプリケーション ユーザと関連付ける別のパイロットポイントを検索できます。[パイロットポイントの検索と一覧表示 (Find and List Pilot Points)] ウィンドウが表示され、パイロットポイントの検索が可能になります。
権限情報 (Permissions Information)	
グループ (Groups)	アプリケーション ユーザの追加後、このリスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、アプリケーション ユーザが属するグループが表示されます。
権限 (Roles)	アプリケーション ユーザの追加後、このリスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、アプリケーション ユーザに割り当てられるロールが表示されます。

追加情報

P.36-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション ユーザ パスワードの変更

アプリケーション ユーザ パスワードを変更するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 P.36-2 の「[アプリケーション ユーザの検索](#)」の手順に従い、パスワードを変更するアプリケーション ユーザを検索します。

[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウに、選択したアプリケーション ユーザに関する情報が表示されます。

ステップ 2 [パスワード (Password)] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードを入力します。

ステップ 3 [パスワードの確認 (Confirm Password)] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードを再入力します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

追加情報

P.36-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション ユーザのアプリケーション プロファイルの設定

新しいアプリケーション ユーザを追加後、各アプリケーションのプロファイルを設定できます。これらのプロファイルにより、各アプリケーション ユーザは、電話機の機能、Cisco Unified CM Assistant、Cisco エクステンション モビリティ、Cisco Unified CallManager AutoAttendant、および Cisco IP SoftPhone の機能をカスタマイズできます。

開始する前に

データベースにアプリケーション ユーザが存在することを確認します。詳細については、P.36-2 の「[アプリケーション ユーザの検索](#)」を参照してください。

追加情報

P.36-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

デバイスとアプリケーション ユーザの関連付け

デバイスと、そのデバイスを制御するアプリケーション ユーザを関連付けることができます。アプリケーション ユーザは、電話機などの一部のデバイスを制御できます。ユーザとして識別されたアプリケーションでは、CTI ポートなどの他のデバイスを制御できます。アプリケーション ユーザが電話機を制御する場合、そのユーザは、短縮ダイヤルやコールの転送など、電話機の特定の設定を制御できます。

開始する前に

デバイスをアプリケーション ユーザに割り当てるには、そのユーザの[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウにアクセスする必要があります。既存のアプリケーション ユーザの検索方法については、P.36-2 の「[アプリケーション ユーザの検索](#)」を参照してください。[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウが表示されたら、次の手順に従ってデバイスを割り当てます。

手順

-
- ステップ 1** [使用可能なデバイス (Available Devices)] リスト ボックスで、アプリケーション ユーザに関連付けるデバイスを選択し、リスト ボックスの下にある下向きの矢印をクリックします。
- ステップ 2** 使用可能なデバイスのリストを制限するには、[別の電話を検索] [別のルートポイントを検索] または [別のパイロットポイントを検索] ボタンのいずれかをクリックします。
- [別の電話を検索] ボタンをクリックすると、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。検索を実行して、このアプリケーション ユーザに関連付ける電話機を検索します。
 - [別のルートポイントを検索] ボタンをクリックすると、[CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。検索を実行して、このアプリケーション ユーザに関連付ける CTI ルートポイントを検索します。
 - [別のパイロットポイントを検索] ボタンをクリックすると、[CTI パイロットポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Pilot Points)] ウィンドウが表示されます。検索を実行して、このアプリケーション ユーザに関連付けるパイロットポイントを検索します。
- ステップ 3** アプリケーション ユーザに割り当てるデバイスごとに前述の手順を繰り返します。
- ステップ 4** 割り当てが完了したら、[保存] をクリックしてデバイスをアプリケーションに割り当てます。
-

追加情報

[P.36-11 の「関連項目」](#) を参照してください。

関連項目

- [アプリケーション ユーザの検索 \(P.36-2\)](#)
- [アプリケーション ユーザの追加 \(P.36-4\)](#)
- [アプリケーション ユーザの設定値 \(P.36-5\)](#)
- [アプリケーション ユーザパスワードの変更 \(P.36-9\)](#)
- [アプリケーション ユーザのアプリケーション プロファイルの設定 \(P.36-9\)](#)
- [デバイスとアプリケーション ユーザの関連付け \(P.36-10\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザの設定チェックリストの管理」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity メッセージングの統合」
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco エクステンション モビリティ」
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」
- 『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』

■ 関連項目



ロールの設定

ロールを使用すると、完全な管理特権（アクセス権）を持つ Cisco Unified Presence Server 管理者は、エンド ユーザやアプリケーション ユーザに対してさまざまなレベルの特権を設定できます。完全な管理特権を持つ管理者が、ロールとユーザグループを設定します。また、一般に、フルアクセス権を持つ管理ユーザが、Cisco Unified Presence Server の管理プログラムやその他のアプリケーションに対する他の管理ユーザおよびエンド ユーザの特権を設定します。

さまざまなレベルの特権がアプリケーションごとに存在します。Cisco Unified CallManager の管理アプリケーションの場合、読み取り特権と更新特権の 2 つのレベルの特権があります。これらの特権レベルの違いは、次のとおりです。

- 更新特権を持つユーザは、そのユーザのユーザグループが更新特権を持つ [Cisco Unified CallManager の管理] ウィンドウを表示および変更できます。
- 読み取り特権を持つユーザの場合、そのユーザのユーザグループが読み取り特権を持つロールに属する [Cisco Unified CallManager の管理] ウィンドウを表示できます。ただし、ウィンドウの読み取り特権を持つユーザは、読み取り特権だけを持つこれらの管理ウィンドウに変更を加えることはできません。読み取り特権を持つユーザの場合、Cisco Unified CallManager の管理アプリケーションに、更新を行うためのボタンやアイコンが表示されません。

ロールは、アプリケーションの一連のリソースからなります。インストール時に、さまざまな管理機能に対してデフォルトの標準ロールが作成されます。ただし、アプリケーションのリソースのグループ分けをカスタマイズしたカスタム ロールを作成することも可能です。



(注) アプリケーションとリソースのいずれも関連付けられていない標準ロールもあります。これらのロールは、さまざまなアプリケーションのログイン認証を行います。

ロールを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [ロールの検索 \(P.37-2\)](#)
- [ロールの設定 \(P.37-4\)](#)
- [ロールの削除 \(P.37-5\)](#)
- [ロールの設定値 \(P.37-6\)](#)

追加情報

P.37-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ロールの検索

ネットワークにロールが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定のロールを検索することができます。ロールを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、Cisco Unified Presence Server の管理ページにより、ロールの検索の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻ると、検索の設定を変更するか、またはブラウザを閉じるまで、このロールの検索の設定が維持されます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [権限] の順に選択します。

[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用してロールを検索します。

ステップ 2 [権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- 名前
- アプリケーション

[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。ページ単位で表示するアイテム数を指定することも可能です。



ヒント データベースに登録されているすべてのロールを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたロールのリストが次の基準で表示されます。

- 名前 (Name)
- アプリケーション (Application)
- 説明 (Description)

**ヒント**

検索結果の中でロールを検索するには、[**絞り込み**]チェックボックスをオンにしてから、この手順の説明に従って検索条件を入力します。

**(注)**

対象のロールの隣にあるチェックボックスをオンしてから [**選択項目の削除**] をクリックすると、複数のロールを [権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ウィンドウから削除できます。[**すべてを選択**] をクリックしてから [**選択項目の削除**] をクリックすると、ウィンドウのすべてのロールを削除できます。

**(注)**

標準のロールは削除できません。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するロール名をクリックします。

選択したロールがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.37-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ロールの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server の管理ページにロールを追加する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [権限] の順に選択します。

[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかのタスクを実行します。

- 既存のロールをコピーするには、P.37-2 の「[ロールの検索](#)」の説明に従って対象のロールを検索し、コピーするロールの隣にある [コピー] ボタンをクリックします。表示されるポップアップウィンドウで、新しいロールの名前を入力し、OK をクリックします。[ステップ 4](#) に進みます。



(注) ロールをコピーすると、そのロールに関連付けられている特権もコピーされます。

- 新しいロールを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) へ進みます。
- 既存のロールを更新するには、P.37-2 の「[ロールの検索](#)」の説明に従って対象のロールを検索し、[ステップ 4](#) へ進みます。

ステップ 3 新しいロールを追加する場合は、[アプリケーション (Application)] ドロップダウン リスト ボックスからアプリケーションを選択し、[次へ] をクリックします。

ステップ 4 表示される [権限の設定 (Role Configuration)] ウィンドウで、[表 37-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

ステップ 5 ロールを追加するには、[保存] をクリックします。

新しいロールが Cisco Unified Presence Server のデータベースに追加されます。

追加情報

[P.37-7](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ロールの削除

この項では、Cisco Unified Presence Server の管理ページからロールを削除する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [権限] の順に選択します。

[権限の設定 (Role Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 左側のロールのリストから、削除するロールの名前をクリックします。



(注) 標準のロールを削除することはできません。

選択したロールが表示されます。

ステップ 3 [削除] をクリックします。

削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 OK をクリックします。

ウィンドウが更新され、ロールがデータベースから削除されます。

追加情報

P.37-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ロールの設定値

表 37-1 で、ロールの設定値について説明します。関連する手順については、P.37-7 の「関連項目」を参照してください。

表 37-1 ロールの設定値

フィールド	説明
権限情報 (Role Information)	
アプリケーション (Application)	ドロップダウン リスト ボックスから、このロールを関連付けるアプリケーションを選択します。
名前 (Name)	ロールの名前を入力します。名前は 50 文字以内にする必要があります。
説明 (Description)	ロールの説明を入力します。説明は 50 文字以内にする必要があります。
リソースアクセス情報 (Resource Access Information)	
(選択したアプリケーションの リソース名のリスト)	<p>[リソースアクセス情報 (Resource Access Information)] ペインで、このロールを追加するリソースの隣にあるチェックボックス (複数も可) をクリックします。</p> <p> (注) 各リソースにチェックボックスが 1 つしかないアプリケーションもあります。Cisco Unified Presence Server の管理アプリケーションでは、読み取りと更新のチェックボックスがリソースごと割り当てられています。</p>
すべてのアクセスを許可	<p>このボタンをクリックすると、このロールについて、このページに表示されるすべてのリソースの特権が許可されます。</p> <p> (注) リソースのリストが複数のページにわたって表示される場合、このボタンは、現在のページに表示されるリソースに限り適用されます。他のページのリストにあるリソースのアクセス権を変更するには、それらのページを表示してからそのページでこのボタンを使用する必要があります。</p>
すべてのアクセスを拒否	<p>このボタンをクリックすると、このロールについて、このページに表示されるすべてのリソースの特権が削除されます。</p> <p> (注) リソースのリストが複数のページにわたって表示される場合、このボタンは、現在のページに表示されるリソースに限り適用されます。他のページのリストにあるリソースのアクセス権を変更するには、それらのページを表示してから、そのページでこのボタンを使用する必要があります。</p>

関連項目

- [ロールの検索 \(P.37-2\)](#)
- [ロールの設定 \(P.37-4\)](#)
- [ロールの削除 \(P.37-5\)](#)
- [ロールの設定値 \(P.37-6\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ロールとユーザ グループ」



ユーザグループの設定

Cisco Unified Presence Server の管理ページの [ユーザ管理] メニューにある [権限] と [ユーザグループ] のメニューオプションを使用すると、完全なアクセス権を持つユーザは、Cisco Unified Presence Server 管理者に対して、さまざまなレベルのウィンドウアクセス権を設定できます。完全なアクセス権を持つユーザは、ロール、ユーザグループ、およびロールへのアクセス特権を設定できます。一般に、完全なアクセス権を持つユーザが、他のユーザの Cisco Unified Presence Server の管理ページへのアクセス権を設定します。

ユーザグループは、アプリケーション ユーザとエンド ユーザのリストで構成されます。ユーザは複数のユーザグループに属することができます。ユーザグループの追加後、ユーザをユーザグループに追加できます。その後、ロールをユーザグループに割り当てることができます。ユーザが複数のユーザグループに属する場合、MLA 権限のエンタープライズパラメータにより、ユーザの有効な特権が決まります。

ユーザグループを設定する、ユーザグループにユーザを割り当てる、あるいはユーザのロール、ユーザグループ、および権限を表示するには、次の手順に従います。

- [ユーザグループの検索 \(P.38-2\)](#)
- [ユーザグループの設定 \(P.38-4\)](#)
- [ユーザグループの削除 \(P.38-5\)](#)
- [ユーザグループへのユーザの追加 \(P.38-6\)](#)
- [ユーザグループからのユーザの削除 \(P.38-8\)](#)
- [ユーザグループへのロールの割り当て \(P.38-9\)](#)
- [ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示 \(P.38-11\)](#)

ユーザグループの検索

ネットワークに複数のユーザグループが存在する場合がありますため、Cisco Unified Presence Server では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザグループを検索することができます。ユーザグループを検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザセッションでの作業中、Cisco Unified Presence Server の管理ページにより、ユーザグループ検索の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻ると、検索の設定を変更するか、またはブラウザを閉じるまで、ユーザグループ検索の設定が維持されます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウンリストボックスを使用してユーザグループを検索します。

ステップ 2 [ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウの最初のドロップダウンリストボックスから、次の検索条件を選択します。

- 名前

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウンリストボックスから、次のいずれかの条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。ページ単位で表示するアイテム数を指定することも可能です。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザグループを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたユーザグループのリストが次の基準で表示されます。

- 名前 (Name)
- 権限 (Roles) (アイコン)



ヒント 検索結果の中でユーザグループを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにしてから、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注) 対象のユーザグループの隣にあるチェックボックスをオンにしてから [選択項目の削除] をクリックすると、複数のユーザグループを [ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウから削除できます。[**すべてを選択**] をクリックしてから [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウのすべてのユーザグループを削除できます。



(注) 標準のユーザグループを削除することはできません。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するユーザグループ名をクリックします。

選択したユーザグループがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.38-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザグループの設定

この項では、Cisco Unified Presence Server の管理ページで、ユーザグループを追加、コピー、および更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかのタスクを実行します。

- 既存のユーザグループをコピーするには、P.38-2 の「[ユーザグループの検索](#)」の説明に従って、該当するユーザグループを検索し、コピーするユーザグループの隣にある [コピー] ボタンをクリックします。表示されるポップアップウィンドウで、新しいユーザグループの名前を入力し、OK をクリックします。ステップ 3 に進みます。
- 新しいユーザグループを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックします。新しいユーザグループの名前を入力して OK をクリックします。ステップ 3 に進みます。



(注) ユーザグループの名前は最大 50 の英数字で、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を使用できます。ユーザグループの名前が一意であることを確認してください。

- 既存のユーザグループを更新するには、P.38-2 の「[ユーザグループの検索](#)」の手順に従って該当するユーザグループを検索します。更新するユーザグループの名前をクリックします。選択したユーザグループが表示されます。適切な設定を更新します。ステップ 3 に進みます。



(注) 標準のユーザグループは削除できませんが、標準のユーザグループのユーザメンバシップを更新することは可能です。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

ステップ 4 ユーザをこのユーザグループに追加する作業を進めます。P.38-6 の「[ユーザグループへのユーザの追加](#)」を参照してください。

ステップ 5 ロールをユーザグループに割り当てる作業を進めます。P.38-9 の「[ユーザグループへのロールの割り当て](#)」を参照してください。

追加情報

P.38-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザグループの削除

この項では、Cisco Unified Presence Server の管理ページからユーザグループを削除する方法について説明します。ユーザグループ全体を削除するには、次の手順に従います。特定のユーザだけをユーザグループから削除する場合は、P.38-8 の「[ユーザグループからのユーザの削除](#)」を参照してください。

開始する前に

ユーザグループを削除すると、Cisco Unified Presence Server により、データベースからすべてのユーザグループデータが削除されます。ユーザグループにどのロールが割り当てられているかを調べるには、[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク] ドロップダウンリスト ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。システムで依存関係レコードが有効でない場合、[依存関係レコード要約] ウィンドウにメッセージが表示されます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 P.38-2 の「[ユーザグループの検索](#)」の手順に従って、削除するユーザグループを検索します。

ステップ 3 削除するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。リストにこのユーザグループのユーザがアルファベット順に表示されます。

ステップ 4 グループ全体を削除する場合は、[削除] をクリックします。

ダイアログボックスに、ユーザグループを削除すると、元に戻すことができないという内容の警告が表示されます。

ステップ 5 OK をクリックしてユーザグループを削除するか、または [キャンセル] をクリックして操作を取り消します。OK をクリックすると、Cisco Unified Presence Server により、ユーザグループがデータベースから削除されます。

追加情報

P.38-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザグループへのユーザの追加

この項では、Cisco Unified Presence Server の管理ページで、エンドユーザとアプリケーションユーザをユーザグループに追加する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ユーザの追加先となるユーザグループを検索します。P.38-2 の「ユーザグループの検索」の手順に従います。

ステップ 3 更新するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。[グループ内のユーザ (Users in Group)] リストに、現在このユーザグループに属しているユーザが表示されます。

ステップ 4 エンドユーザを追加するには、[グループにエンドユーザを追加] をクリックします。アプリケーションユーザを追加する場合は、ステップ 8 へ進みます。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 ユーザの検索のドロップダウンリストボックスを使用して追加するエンドユーザを検索し、[検索] をクリックします。



(注) ユーザの検索はさまざまな方法で実行できます。名、ミドルネーム、姓、ユーザ ID、またはユーザが所属する部署名を入力できます。また、フィールドを空白のままにしておくと、すべてのユーザが表示されます。

検索条件に一致するエンドユーザのリストが表示されます。



(注) 検索結果のリストには、すでにそのユーザグループに属しているエンドユーザは表示されません。

ステップ 6 検索結果のリストで、このユーザグループに追加するユーザの隣にあるチェックボックスをオンにします。リストが複数のページにわたっている場合、下部のリンクをクリックすると、さらに検索結果を表示できます。

ステップ 7 [選択項目の追加] をクリックします。

[グループ内のユーザ (Users in Group)] ペインの一覧にユーザが追加された状態で、[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが再表示されます。



(注) ユーザの追加後、そのユーザの [権限 (Permission)] 列で **i** アイコンをクリックすると、ユーザのロールを表示できます。

ステップ 8 アプリケーション ユーザを追加するには、[**グループにアプリケーションユーザを追加**] をクリックします。

[アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 9 [アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスを使用して追加するアプリケーション ユーザを検索し、[**検索**] をクリックします。



(注) ユーザ ID を検索することにより、アプリケーション ユーザの検索を実行できます。また、フィールドを空白のままにしておくと、すべてのアプリケーション ユーザが表示されます。

検索条件に一致するアプリケーション ユーザのリストが表示されます。

ステップ 10 検索結果のリストで、このユーザ グループに追加するアプリケーション ユーザの隣にあるチェックボックスをオンにします。リストが複数のページにわたっている場合、下部のリンクをクリックすると、さらに検索結果を表示できます。



(注) 検索結果のリストには、すでにそのユーザ グループに属しているアプリケーション ユーザは表示されません。

ステップ 11 [**選択項目の追加**] をクリックします。

[**グループ内のユーザ (Users in Group)**] ペインの一覧にユーザが追加された状態で、[**ユーザグループの設定 (User Group Configuration)**] ウィンドウが再表示されます。



(注) アプリケーション ユーザの追加後、そのユーザの [権限 (Permission)] 列で **i** アイコンをクリックすると、そのユーザのロールを表示できます。

ステップ 12 このユーザグループへの変更を保存するには、[**保存**] をクリックします。

追加情報

P.38-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザグループからのユーザの削除

この項では、Cisco Unified Presence Server の管理ページでユーザグループからユーザを削除する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ユーザを削除するユーザグループを検索します。P.38-2 の「ユーザグループの検索」の手順に従います。

ステップ 3 更新するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。[グループ内のユーザ (Users in Group)] リストに、現在このユーザグループに属しているユーザが表示されます。

ステップ 4 このユーザグループから削除するユーザの名前の隣にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [選択項目の削除] をクリックします。

削除の確認をするメッセージが表示されます。

ステップ 6 OK をクリックして選択したユーザグループのメンバーを削除するか、または [キャンセル] をクリックしてこのウィンドウを閉じます。

[グループ内のユーザ (Users in Group)] ペインからこのユーザが削除された状態で、[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが再表示されます。

追加情報

P.38-12 の「関連項目」を参照してください。

ユーザグループへのロールの割り当て

完全なアクセス権を持つユーザは、ユーザグループにロールを割り当てることができます。ロールを割り当てられたユーザグループは、ロールを持つリソースへアクセスできます。

この項では、Cisco Unified Presence Server の管理ページにおける、ユーザグループへのロールの割り当てについて説明します。



(注)

ロールをユーザグループに割り当てる場合、管理者はそのユーザグループに Standard CCM Admin Users ロールを割り当てる必要があります。このロールにより、ユーザは Cisco Unified Presence Server の管理ページにログインできます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ロールを割り当てるユーザグループを検索します。P.38-2 の「ユーザグループの検索」の手順に従います。

ステップ 3 ロールを割り当てるユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。[グループ内のユーザ (Users in Group)] リストに、現在このユーザグループに属しているユーザが表示されます。

ステップ 4 [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから、[ユーザグループに権限を割り当て] を選択して [移動] をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが変更され、[権限の割り当て (Role Assignment)] ペインが表示されます。選択したユーザグループに割り当てられているロールのリストが表示されます。次のいずれかのオプションを選択します。

- ユーザグループにロールを割り当てるには、[ステップ 5](#) へ進みます。
- ユーザグループからロールを削除するには、[ステップ 9](#) へ進みます。

ステップ 5 ユーザグループにロールを追加するには、[グループに権限を割り当て] をクリックします。

[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 必要に応じて、ロールの検索条件を使用してロールのリストを絞り込みます。

ステップ 7 ロール名の隣にあるチェックボックスをオンにして、このユーザグループに割り当てるロールを選択します。このユーザグループにロールを割り当てずにそのまま [権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ポップアップ ウィンドウを閉じるには、[閉じる] をクリックします。

■ ユーザグループへのロールの割り当て

ステップ 8 [選択項目の追加] をクリックします。

[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ポップアップ ウィンドウが閉じられます。このユーザグループの [権限の割り当て (Role Assignment)] ペインに、選択したロールが追加されます。このユーザグループに割り当てられているロールを削除しない場合は、[ステップ 10](#) へ進みます。

ステップ 9 割り当てられているロールをユーザグループから削除するには、[権限の割り当て (Role Assignment)] ペインにあるロールを選択し、[権限の割り当ての削除] をクリックします。このユーザグループから削除するロールごとに、この手順を繰り返します。

ステップ 10 [保存] をクリックします。

データベース内で、ユーザグループへのロール割り当ての追加と削除が実行されます。

追加情報

[P.38-12](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示

この項では、指定したユーザグループに属するユーザのロール、ユーザグループ、および権限を表示する方法について説明します。ユーザグループのユーザに割り当てられたロール、ユーザグループ、および権限を表示するには、次の手順に従います。



(注) [ユーザ管理] > [アプリケーションユーザ] (アプリケーション ユーザの場合)、または [ユーザ管理] > [エンドユーザ] (エンド ユーザの場合) の順に選択し、特定のユーザを表示してからそのユーザのロールを表示することもできます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 割り当てられているロールを表示するユーザが属するユーザグループを検索します。P.38-2 の「ユーザグループの検索」の手順に従います。

ステップ 3 ユーザに割り当てられているロールを表示するユーザグループの名前をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウに、選択したユーザグループが表示されます。[グループ内のユーザ (Users in Group)] ペインに、このユーザグループに属しているユーザが表示されます。

ステップ 4 特定のユーザの [権限 (Permission)] 列で **i** アイコンをクリックします。

[ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウが表示されます。選択したユーザに関して次の情報が表示されます。

- ユーザが所属しているユーザグループ (User Groups the user belongs to)。
- ユーザに割り当てられている権限 (Roles assigned to user)。
- ユーザがアクセスできるリソース (Resources the user has access to)。各リソースに関して次の情報が表示されます。
 - アプリケーション (Application)
 - リソース (Resource)
 - 権限 (Permission) (読み取りと更新の一方または両方)

ステップ 5 ユーザの設定に戻るには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスの [ユーザの設定に戻る] を選択して [移動] をクリックします。

追加情報

P.38-12 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [ユーザグループの検索 \(P.38-2\)](#)
- [ユーザグループの設定 \(P.38-4\)](#)
- [ユーザグループの削除 \(P.38-5\)](#)
- [ユーザグループへのユーザの追加 \(P.38-6\)](#)
- [ユーザグループからのユーザの削除 \(P.38-8\)](#)
- [ユーザグループへのロールの割り当て \(P.38-9\)](#)
- [ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示 \(P.38-11\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ロールとユーザグループ」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「アプリケーションユーザの設定」



PART 6

Bulk Administration





ファイルのアップロードとダウンロード

この章では、Cisco Unified Presence Server の最初のノードへファイルをアップロードする方法と、これらのファイルをローカルマシンへダウンロードする方法について説明します。

次の手順に従います。

- [ファイルの検索 \(P.39-2\)](#)
- [ファイルのダウンロード \(P.39-4\)](#)
- [ファイルのアップロード \(P.39-5\)](#)
- [ファイルの削除 \(P.39-6\)](#)

ファイルの検索

Cisco Unified Presence Server のサーバからダウンロードできるファイルを検索するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 [Bulk Administration] > [ファイルのアップロード / ダウンロード] の順に選択します。[ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- 名前
- タイプ

ステップ 3 [ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- **ステップ 2** で [名前] を選択した場合、次のいずれかのオプションを選択して **ステップ 4** へ進みます。
 - が次の文字列で始まる
 - が次の文字列を含む
 - が次の文字列と等しい
 - が次の文字列で終わる
 - が空である
 - が空ではない
- **ステップ 2** で [タイプ] を選択した場合、**ステップ 4** へ進みます。

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのファイルを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 5 さらにクエリーを定義して複数のフィルタを追加するには、[次を使用した拡張検索] チェックボックスをオンにして、ドロップダウン リスト ボックスから AND または OR を選択し、**ステップ 2 ~ 4** を繰り返します。

ステップ 6 **ステップ 2** で [タイプ] を選択した場合、[項目を選択するか、検索テキストを入力してください] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- Insert Files
- Export Files
- Report Files
- Custom Files
- Log Files
- BAT Excel Template

ステップ 7 [検索] をクリックします。

検出されたファイルのリストが次の条件で表示されます。

- ファイル名 (File Name)
- 機能タイプ (Function Type)

ステップ 2 で [タイプ] を選択し、**ステップ 6** で Log Files を選択した場合、検出されたファイルのリストが次の条件で表示されます。

- ファイル名 (File Name)
- 起動日時 (Launch Date and Time)

選択したファイルのダウンロードについては、[P.39-4](#) の「ファイルのダウンロード」を参照してください。

追加情報

[P.39-6](#) の「関連項目」を参照してください。

ファイルのダウンロード

Cisco Unified Presence Server からファイルをダウンロードするには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** P.39-2 の「[ファイルの検索](#)」の手順に従ってダウンロードするファイルを検索します。
- ステップ 2** ダウンロードするファイルに対応するチェックボックスをオンにして、[[選択項目のダウンロード](#)] をクリックします。



(注) [[すべてを選択](#)] をクリックしてから [[選択項目のダウンロード](#)] をクリックすると、すべてのファイルをダウンロードできます。



(注) 複数のファイルを同時に選択してダウンロードすると、それらのファイルが同じ ZIP ファイルにダウンロードされます。

-
- ステップ 3** [[ファイルのダウンロード](#)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。[[保存](#)] をクリックします。
- ステップ 4** [[名前を付けて保存](#)] ポップアップ ウィンドウで、ファイルの保存先を選択して [[保存](#)] をクリックします。
- ステップ 5** [[ダウンロードの完了](#)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。[[ファイルを開く](#)] をクリックしてダウンロードしたファイルを開くか、または [[閉じる](#)] をクリックして後でファイルを開きます。

追加情報

P.39-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ファイルのアップロード

Cisco Unified Presence Server へファイルをアップロードするには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** [Bulk Administration] > [ファイルのアップロード / ダウンロード] の順に選択します。[ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** [新規追加] をクリックします。[ファイルのアップロードの設定 (File Upload Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** [ファイル (File)] テキスト ボックスでアップロードするファイルのフル パスを入力するか、または [参照] をクリックしてファイルを探します。
 - ステップ 4** [ターゲットの選択 (Select The Target)] ドロップダウン リスト ボックスから、ファイルを使用するターゲットを選択します。
 - ステップ 5** [トランザクションタイプの選択 (Select Transaction Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、ファイルを定義するトランザクション タイプを選択します。
 - ステップ 6** 既存のファイルを同じ名前で上書きするには、[ファイルが存在する場合は上書きする。(Overwrite File if it exists.)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 7** [保存] をクリックします。ステータスにはアップロードが完了したと表示されます。
-

追加情報

P.39-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ファイルの削除

ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 P.39-2 の「[ファイルの検索](#)」の手順に従って削除するファイルを検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] エリアで、削除するファイルに対応するチェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [選択項目の削除] をクリックします。



(注) [検索結果 (Search Results)] エリアに表示されるファイルをすべて削除するには、[**すべてを選択**] および [**選択項目の削除**] をクリックします。

ステップ 4 作業を続けるには、**OK** をクリックします。

ステップ 5 サーバからファイルが削除されます。



(注) 削除しようとして選択したファイルが何らかのジョブの実行に使用されている場合、これらのファイルは削除されません。

追加情報

P.39-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ファイルの検索](#) (P.39-2)
- [ファイルのダウンロード](#) (P.39-4)
- [ファイルのアップロード](#) (P.39-5)
- [ファイルの削除](#) (P.39-6)



ジョブのスケジューリング

一括トランザクションをスケジュールして、トランザクションを開始する時刻を指定できます。

Bulk Administration メニューから送信されるすべてのジョブは、Bulk Provisioning Service (BPS) のキューに入れられます。ジョブに対して指定した開始時刻により、トランザクションの実行が開始されます。開始時刻が指定されていない場合、トランザクションは受信した順序で実行されます。

BPS をアクティブにしてジョブをスケジュールする方法については、次のトピックを参照してください。

- [Bulk Provisioning Service のアクティブ化 \(P.40-2\)](#)
- [BPS の開始 / 停止 / 再起動 \(P.40-3\)](#)
- [BPS の無効化 \(P.40-4\)](#)
- [ジョブの検索 \(P.40-5\)](#)
- [ジョブのスケジューリング \(P.40-7\)](#)

Bulk Provisioning Service のアクティブ化

ジョブを送信して実行する前に、BPS がアクティブになっていることを確認してください。

BPS をアクティブするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Presence Server Serviceability ウィンドウで、**Tools > Service Activation** の順に選択します。

Service Activation ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Server ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Presence Server を実行するサーバを選択します。

ステップ 3 Database and Admin Services エリアで、Cisco Bulk Provisioning Service に対応するチェックボックスをオンにします。



(注) サービスがすでに有効になっている場合は、Activation Status に Activated と表示されていません。

ステップ 4 Update をクリックします。

ステップ 5 ウィンドウが更新され、Bulk Provisioning Service に対応する Activation Status に **Activated** と表示されます。



(注) BPS は、有効にすると自動的に開始します。サービスの開始、停止、および再起動については、[P.40-3 の「BPS の開始 / 停止 / 再起動」](#)を参照してください。



(注) BPS を開始すると、その都度 Cisco Unified Presence Server データベースとの同期が実行されます。

BPS の開始 / 停止 / 再起動

BPS を有効にした後に自動的に開始するには、Cisco Unified Presence Server Serviceability を使用します。この項では、BPS を停止または再起動する手順について説明します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Presence Server Serviceability で、**Tools > Control Center - Feature Services** の順に選択します。

Control Center - Feature Services ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Servers ドロップダウン リスト ボックスから Cisco Unified Presence Server を選択します。

Cisco Bulk Provisioning Service が Database and Admin Services エリアの Service Name 列のリストに表示されます。



(注) P.40-2 の「Bulk Provisioning Service のアクティブ化」の手順に従い BPS を有効にすると、ステータスに Activated と表示されます。

ステップ 3 BPS に対応するチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 BPS を再起動するには、**Restart** をクリックします。

サービスが再起動され、Service Successfully Restarted というメッセージが表示されます。

ステップ 5 BPS を停止するには、**Stop** をクリックします。

サービスが停止し、Service Successfully Stopped というメッセージが表示されます。

ステップ 6 停止した BPS を開始するには、**Start** をクリックします。

サービスが開始され、Service Successfully Started というメッセージが表示されます。

BPS の無効化

BPS が不要な場合は無効にすることができます。この項では、BPS サービスを無効にしてツールからログアウトする方法について説明します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Presence Server Serviceability で、**Tools > Service Activation** の順に選択します。

Service Activation ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Servers ドロップダウン リスト ボックスから Cisco Unified Presence Server を選択します。

Cisco Bulk Provisioning Service が Database and Admin Services エリアの Service Name 列のリストに表示されます。

ステップ 3 Cisco Bulk Provisioning Service に対応するチェックボックスをオフにして、**Update** をクリックします。

サービスが無効になり、Status 列に Deactivated と表示されます。

ジョブの検索

Bulk Administration メニューから BPS へ送信済みのジョブを検索するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 [Bulk Administration]>[ジョブスケジューラ]の順に選択します。[ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)]ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- ユーザ
- ステータス
- ジョブ ID
- 説明
- スケジュール日時

ステップ 3 [ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)]ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 4 3 番目のドロップダウン リスト ボックスから [表示] を選択して、完了したジョブを表示します。

ステップ 5 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのジョブを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 6 クエリーをさらに定義するには、AND または OR を選択して複数のフィルタを追加し、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

ステップ 7 [検索] をクリックします。

検出されたジョブのリストが次の基準で表示されます。

- ジョブ ID(Job Id)
- スケジュール日時 (Scheduled Date Time)
- 送信日時 (Submit Date Time)
- 順序 (Sequence)
- 説明 (Description)

■ ジョブの検索

- ステータス (Status)
- 最後のユーザ (Last User)



(注) ジョブのスケジューリング時に [後で実行 (このジョブをスケジュールして有効にするには、[ジョブスケジューラ] ページを使用します。)] オプション ボタンをクリックした場合は、[ステータス (Status)] に Hold と表示されます。[今すぐ実行] オプション ボタンをクリックした場合は、[ステータス (Status)] に Pending と表示されます。ジョブが完了している場合は、[ステータス (Status)] に Completed と表示されます。また、エラーが発生して完了できないジョブの場合は、Incomplete と表示されます。

ステップ 8 処理中のジョブ、またはスケジュールおよびアクティブ化する保留中のジョブについて、ジョブ ID をクリックします。

[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウが表示されます。

選択したジョブのステータスと要約の結果を表示できます。

追加情報

P.40-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ジョブのスケジューリング

送信済みのジョブをスケジュールするには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 P.40-5 の「[ジョブの検索](#)」の手順に従ってスケジュールするジョブを検索します。

ステップ 2 [表 40-1](#) の手順に従い、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、ジョブのスケジューリングとアクティブ化の設定を入力します。

表 40-1 ジョブの設定値

フィールド	説明
ジョブ ID(Job id)	このフィールドには、ジョブの送信時に作成されたジョブ ID が表示されます。
ジョブのステータス (Job Status)	このフィールドには、次のいずれかのジョブステータスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Hold • Pending • Completed • Incomplete
スケジュール日時 (Scheduled Date Time)	ドロップダウン リスト ボックスから月、日、年を選択します。ジョブをスケジュールする時刻を入力します。
送信日時 (Submit Date Time)	このフィールドには、ジョブが送信された日時が表示されます。
順序 (Sequence)	ドロップダウン リスト ボックスから、ジョブの実行順序を選択します。選択できる数値は 1 ~ 20 です。  <p>(注) 複数のジョブで同じ日時がスケジュールされている場合、この順序の数値に従ってそれらのジョブが BPS のキューに入れられます。スケジュールされた日時と[順序 (Sequence)] が同じである場合は、送信された日時に応じてジョブがキューに入れられます。</p>
ジョブ説明 (Job Description)	このフィールドには、ジョブの作成時に入力した説明が表示されます。
頻度 (Frequency)	次のオプションの中から、トランザクションの頻度を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 度 • 月次 • 週次 • 日次 • 毎時 <p>たとえば、[日次] を選択すると、トランザクションは、[スケジュール日時 (Scheduled Date Time)] フィールドで入力した時刻に毎日実行されます。</p>

表 40-1 ジョブの設定値 (続き)

フィールド	説明
ジョブの終了時刻 (Job End Time)	このフィールドには、反復的な (頻度の高い) ジョブの終了時刻が表示されます。
最終変更者 (Last Modified By)	このフィールドには、最後にこのジョブを変更した管理者のユーザ ID が表示されます。

ステップ 3 スケジュールした時刻にジョブをアクティブ化するには [**ジョブのアクティブ化**] をクリックします。設定を保存して後でジョブをアクティブ化するには [**保存**] をクリックします。

[ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウが表示されます。



(注) ジョブが保存されていてアクティブ化されていない場合、そのジョブのステータスは Hold と表示されます。これらのジョブは、アクティブ化されるまで BPS で処理されません。

ステップ 4 アクティブ化したジョブのジョブ ID をクリックします。[**ジョブスケジューラ (Job Scheduler)**] ウィンドウの [**ジョブの結果 (Job Results)**] エリアに、完了、未完了、停止要求中、または処理中のすべてのジョブに関する次の情報が表示されます。

- ジョブの実行日時 (Job Launched Date Time)
- ジョブの結果の状況 (Job Result Status)
- 処理されたレコードの数 (Number Of Records Processed)
- 失敗したレコードの数 (Number Of Records Failed)
- レコードの総数 (Total Number Of Records)
- ログファイル名 (Log File Name)



(注) このトランザクションのログ ファイルを表示するには、[**ログファイル名 (Log File Name)**] 列のリンクをクリックします。

ステップ 5 ジョブのリストに戻るには、[**関連リンク**] ドロップダウン リスト ボックスから [**検索 / リストに戻る**] を選択し、[**移動**] をクリックします。

関連項目

- [Bulk Provisioning Service のアクティブ化 \(P.40-2\)](#)
- [BPS の開始 / 停止 / 再起動 \(P.40-3\)](#)
- [BPS の無効化 \(P.40-4\)](#)
- [ジョブの検索 \(P.40-5\)](#)
- [ジョブのスケジューリング \(P.40-7\)](#)



UPS ユーザの更新

Cisco Unified Presence Server の Bulk Administration(BAT)を使用すると、Cisco Unified Presence Server ディレクトリ内にあるユーザ グループを更新できます。

Cisco Unified Presence Server のユーザの更新

Cisco Unified Presence Server ディレクトリのユーザ グループを更新するには、次の手順に従います。

開始する前に

ユーザ名、制御されるデバイス名、およびディレクトリ番号を含む CSV データ ファイルが必要です。次のいずれかの方法を使用して、CSV データ ファイルを作成できます。

- CSV 形式に変換される BAT スプレッドシート
- ユーザ データのエクスポート ファイルを生成するエクスポート ユーティリティ

エクスポート ユーティリティにより生成されるファイルを更新する場合は、ファイルを接尾辞 `_MgrLevel#` に基づいて降順で挿入します。# は 1 ~ 20 の数字です。ファイルの末尾に `_user` という接尾辞を挿入し、マネージャのユーザ レコードが存在することを確認してから、[マネージャのユーザ ID(Manager User ID)] フィールドにあるマネージャのユーザ ID を使用します。

手順

ステップ 1 [Bulk Administration] > [UPS] > [UPS ユーザの更新] の順に選択します。

[CUPS ユーザの更新 (Update Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクションに対して作成した CSV データ ファイルを選択します。

ステップ 3 [ジョブ情報 (Job Information)] エリアで、ジョブの説明を入力します。

ステップ 4 ただちにユーザ レコードを挿入する場合は、[今すぐ実行] オプション ボタンをクリックします。後でユーザ レコードを挿入する場合は、[後で実行 (このジョブをスケジュールして有効にするには [ジョブスケジューラ] ページを使用します。)] をクリックします。

ステップ 5 ユーザ レコードを挿入するジョブを作成するには、[送信] をクリックします。

ステップ 6 Bulk Administration メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブをスケジュールおよびアクティブ化します。

関連項目

- [Cisco Unified Presence Server のユーザの更新 \(P.41-2\)](#)



UPS ユーザのエクスポート

Cisco Unified Presence Server の Bulk Administration を使用してユーザのレコードをエクスポートすると、エクスポートユーティリティにより、データベースの組織階層に従ってユーザがソートされます。

ユーザレコードのエクスポート

Cisco Unified Presence Server からユーザレコードをエクスポートするには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 [Bulk Administration] > [UPS] > [UPS ユーザのエクスポート] の順に選択します。

[ユーザエクスポートのクエリー (Export Users Query)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ユーザエクスポートのクエリー (Export Users Query)] ウィンドウの最初のドロップダウン リストボックスで、クエリーを実行するフィールドを選択します。

- ユーザ ID
- 名
- ミドルネーム
- 姓
- マネージャ
- 部署名

ステップ 3 [ユーザエクスポートのクエリー (Export Users Query)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リストボックスで、次のオプションの中から選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

ステップ 4 検索フィールドのリストボックスで、特定の名前またはユーザ ID などの、検索する値を入力します。



(注) 複数の部署からユーザを選択するには、このフィールドで複数の部署名を入力します。たとえば、部署名 12 と 34 のユーザを選択するには、3 番目のボックスに 12, 34 と入力すれば、処理を 2 度行う必要がありません。

ステップ 5 [次を使用した拡張検索] チェックボックスをオンにして、AND または OR を選択して複数のフィルタを追加し、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) の手順を繰り返してさらにクエリーを定義します。

ステップ 6 [検索] をクリックします。検索結果が表示されます。



(注) データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 [ファイル名 (File Name)] テキスト ボックスに、ユーザ エクスポートのファイル名を入力します。

ステップ 9 [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスからファイル形式を選択します。

ステップ 10 [ジョブ情報 (Job Information)] エリアに、ジョブの説明を入力します。

ステップ 11 ただちにユーザ レコードをエクスポートする場合は、[今すぐ実行] オプション ボタンをクリックします。後でエクスポートする場合は、[後で実行 (このジョブをスケジュールして有効にするには [ジョブスケジューラ] ページを使用します。)] をクリックします。

ステップ 12 ユーザ レコードをエクスポートするジョブを作成するには、[送信] をクリックします。

ステップ 13 Bulk Administration メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブをスケジュールおよびアクティブ化します。

Bulk Administration メニューの [ファイルのアップロード / ダウンロード] オプションを使用すると、エクスポート済みファイルを検索してダウンロードできます。

関連項目

- [ユーザ レコードのエクスポート \(P.42-2\)](#)



A		削除	27-4
ACL		設定	27-3
着信		設定値 (表)	27-4
エントリの検索	11-2	プロファイル	
エントリの削除	11-4	概要	28-1
関連項目	11-4	関連項目	28-5
設定	11-3	検索	28-2
設定値 (表)	11-3	削除	28-5
説明	11-1	設定	28-3
説明	11-1	設定値 (表)	28-4
プライバシ		Cisco Unified Presence Server	
エントリの検索	12-2	サーバの設定	2-1
エントリの削除	12-4	ユーザ	41-1
関連項目	12-4	ユーザのエクスポート	42-1
設定	12-3	ユーザの更新	41-2
設定値 (表)	12-3	Cisco Unified Presence Server の管理ページ	
説明	12-1	概要	1-1
AXL		関連項目	1-11
設定	17-1	参考情報	1-11
設定値の設定	17-1	参照	1-5
B		紹介	1-1
BPS		ナビゲーション (図)	1-10
アクティブ化	40-2	ナビゲート	1-10
開始 / 停止 / 再起動	40-3	ログイン	1-5
無効化	40-4	ログオフ	1-6
Bulk Provisioning Service		Cisco Unified Presence Server の管理ページの概要	1-1
「BPS」を参照		Cisco Unity	
C		ホストの設定	25-3
Cisco MeetingPlace		Cisco Unity サーバ	
サーバ		概要	25-1
概要	27-1	関連項目	25-5
関連項目	27-5	検索	25-2
検索	27-2	削除	25-4
		設定値 (表)	25-4
		Cisco Unity プロファイル	
		概要	26-1
		関連項目	26-5

- 検索 26-2
- 削除 26-5
- 設定値 (表) 26-4
- Cisco Unity プロファイル
 - 設定 26-3
- CTI
 - ゲートウェイ サーバ
 - 概要 29-1
 - 関連項目 29-5
 - 検索 29-2
 - 削除 29-5
 - 設定 29-3
 - 設定値 (表) 29-4
 - ゲートウェイ プロファイル
 - 概要 30-1
 - 関連項目 30-5
 - 検索 30-2
 - 削除 30-5
 - 設定 30-3
 - 設定値 (表) 30-4
- H
- HTTPS
 - HTTP over Secure Socket Layer 1-6
- IE
 - 使用、Cisco Unified Presence Server の管理ページ
での 1-7
- Netscape
 - 使用、Cisco Unified Presence Server の管理ページ
での 1-8
- I
- IE および HTTPS
 - 使用、Cisco Unified Presence Server の管理ページで
の 1-7
- Internet Explorer および HTTPS
 - 使用、Cisco Unified Presence Server の管理ページで
の 1-7
- IP Phone Messenger
 - 「IPPM」を参照
- IP アドレス 2-1
- IPPM
 - エンド ユーザのログアウト 20-3
- 応答メッセージ
 - 概要 22-1
 - 関連項目 22-4
 - 検索 22-2
 - 削除 22-3
 - 設定 22-3
 - 関連項目 20-4, 35-4
- ステータス
 - 概要 20-1
 - 検索 20-2
- 設定
 - 概要 21-1
 - 設定値 (表) 21-2
- 設定値
 - 設定 21-2
- L
- LDAP
 - サーバ
 - 概要 31-1
 - 関連項目 31-5
 - 検索 31-2
 - 削除 31-4
 - 設定 31-3
 - 設定値 (表) 31-4
 - プロファイル
 - 概要 32-1
 - 関連項目 32-6
 - 検索 32-2
 - 削除 32-6
 - 設定 32-3
 - 設定値 (表) 32-5
- N
- Netscape および HTTPS
 - 使用、Cisco Unified Presence Server の管理ページで
の 1-8
- T
- TLS
 - コンテキスト
 - 関連項目 15-5
 - 検索 15-2

- 削除 15-5
 - 設定 15-3
 - 設定値 (表) 15-4
 - 設定の概要 15-1
 - ピア サブジェクト
 - 概要 16-1
 - 関連項目 16-4
 - 検索 16-2
 - 削除 16-4
 - 設定 16-3
 - 設定値 (表) 16-3
- U
- Unified Personal Communicator
- LDAP アトリビュート マッピング (表) 23-2
 - 関連項目 24-5
 - 設定
 - 概要 23-1
 - 設定値
 - 設定 23-1
 - 設定値 (表) 23-2
 - ユーザ設定 24-1
 - ユーザの検索 24-2
 - ユーザの削除 24-5
 - ユーザの設定 24-3
 - ユーザの設定値 (表) 24-4
- W
- Web ブラウザ 1-5
- あ
- アクセシビリティ
 - ボタンおよびアイコンへのアクセス 1-11
- アクセス コントロール リスト
 - 「ACL」を参照
- アクセスコントロールリスト
 - 「ACL」を参照
- アプリケーション ユーザ
 - アプリケーション プロファイル 36-9
 - 関連項目 36-11
 - 検索 36-2
 - 設定 36-1
- 設定値 (表) 36-5
- 追加 36-4
- デバイスとアプリケーション ユーザの関連付け 36-10
- パスワードの変更 36-9
- さ
- サーバ
 - 関連項目 2-6
 - 検索 2-2
 - 削除 2-5
 - 設定 2-1, 2-4
 - 設定値 (表) 2-6
- サービス パラメータ
 - 関連項目 3-5
 - サービスの設定 3-2
 - サービスの表示 3-4
 - 設定 3-1
 - 設定ウィンドウ (図) 3-2
- サービスのアクティブ化
 - BPS 40-2
- 参照
 - Cisco Unified Presence Server 1-5
 - セキュリティ
 - ハイパーテキスト転送プロトコル 1-6
- し
- 紹介、Cisco Unified Presence Server の管理ページの 1-1
- ジョブ
 - BPS のアクティブ化 40-2
 - BPS の開始 / 停止 / 再起動 40-3
 - BPS の無効化 40-4
 - 検索 40-5
 - スケジューリング 40-1, 40-7
 - ログ ファイルの表示 40-8
 - ジョブの検索 40-5
 - ジョブのスケジューリング 40-1, 40-7
- す
- スタティック ルート
 - 概要 9-1
 - 関連項目 9-5

- 検索 9-2
- 削除 9-5
- 設定 9-3
- 設定値 (表) 9-4
- ステータス
 - 同期 6-1
 - パラメータ (表) 6-1
 - 表示 6-1
- と
- 同期ステータス 6-1
 - パラメータ (表) 6-1
 - 表示 6-1
- ドメイン ネーム システム (DNS) 2-1
- トランスポート レイヤ セキュリティ
「TLS」を参照
- な
- ナビゲート
 - Cisco Unified Presence Server の管理ページ 1-10
- は
- バックエンド ゲートウェイ
 - 関連項目 13-4, 14-5
 - 検索 13-2
 - 削除 13-4, 14-4
 - 設定 13-3, 14-3
 - 設定値 (表) 13-3, 14-4
- パラメータ
 - 関連項目 3-5
 - サービスの設定 3-2
 - サービスの表示 3-4
 - 設定 3-1
 - 設定ウィンドウ (図) 3-2
- ふ
- ファイル
 - アップロード 39-5
 - 関連項目 39-6
 - 検索 39-2
 - 削除 39-6
- ダウンロード 39-4
- ファイルのアップロード
 - 概要 39-1
 - 関連項目 39-6
 - 手順 39-5
- ファイルの削除 39-6
- ファイルのダウンロード
 - 概要 39-1
 - 関連項目 39-6
 - 手順 39-4
- ブラウザ 1-5
- プラグイン
 - URL の更新 19-4
 - URL の設定値 (表) 19-4
 - インストール 19-2
 - 設定 19-1
- プレゼンス エンジン
 - トランスポート リスナー
 - 概要 18-1
 - 関連項目 18-5
 - 検索 18-2
 - 削除 18-5
 - 設定 18-3
 - 設定値 (表) 18-4
 - バックエンド ゲートウェイ 13-1
- プロキシ サーバ
 - 関連項目 8-3
 - 設定 8-1
 - 設定値 (表) 8-2
- プロキシ サービス
 - 再起動 8-2
- プロキシ プロファイル
 - 概要 33-1
 - 関連項目 33-5
 - 検索 33-2
 - 削除 33-5
 - 設定 33-3
 - 設定値 (表) 33-4
- め
- メソッド / イベント ルート
 - 関連項目 10-5
 - 検索 10-2
 - 削除 10-5
 - 設定 10-3

設定値 (表) 10-4
メソッド/ イベントルーティング
概要 10-1

関連項目 5-1
生成 5-1

ゆ

ユーザ

アプリケーション

アプリケーション プロファイル 36-9

関連項目 36-11

検索 36-2

設定 36-1

設定値 (表) 36-5

追加 36-4

デバイスとアプリケーション ユーザの関連付け 36-10

パスワードの変更 36-9

エクスポート 42-1

関連項目 41-2, 42-3

更新 41-1, 41-2

レコードのエクスポート 42-2

ユーザグループ

概要 38-1

関連項目 38-12

検索 38-2

削除 38-5

設定 38-4

ユーザの削除 38-8

ユーザの追加 38-6

ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示 38-11

ロールの割り当て 38-9

ユーザレコードのエクスポート 42-2

ユーザ設定 24-1

ら

ライセンス

ライセンス ファイル

アップロード 4-1, 4-5

関連項目 4-6

内容 4-3

ライセンス ファイルのサンプル 4-3

ライセンス ファイルの取得 4-2

ライセンス ユニット レポート

概要 5-1

ろ

ロール

概要 37-1

関連項目 37-7

検索 37-2

削除 37-5

設定 37-4

設定値 (表) 37-6

ユーザグループおよび権限の表示 38-11

ユーザグループへの割り当て 38-9

ログ ファイル

ジョブのログ ファイルの表示 40-8

ログイン

Cisco Unified Presence Server の管理ページ 1-5

ログオフ

Cisco Unified Presence Server の管理ページ 1-6